

市民の声を施策に反映
まちづくりネットモニター
を実施しました



ターゲット 16.6

令和2年2月27日
(ネットモニターに関すること)
郡山市政策開発部広聴広報課
担当：上田 利実
TEL：924-2061
※ 調査内容については各担当まで。

SDGs ターゲット 16.6 「全ての人々に説明責任のある包摂的な制度を構築する」

まちづくりネットモニター（第6、9、10、12回調査）の調査結果をお知らせします。

○調査概要（詳細は別紙のとおりです。）

・第6回(7月5日(金)～14日(日))

テーマ	多文化共生
目的	多文化共生施策の更なる推進を図るため
考察	在住外国人が増えたと感じている方が多いが、実際に付き合いがある方は少ない状況である。今後、相互理解の促進や多文化共生の意義を理解いただくように努めたい。
回答者数/率	331名(男性 151名 女性 180名) 91.9%
担当	文化スポーツ部国際政策課 伊東 瑞歩 TEL：924-3711

・第9回(9月2日(月)～11日(水))

テーマ	住宅政策について
目的	今後、増加が見込まれる「空家」及び、子育て支援の一環として行っている「市営住宅の定期借家制度」に関する調査を実施し、今後の住宅政策の参考とするため
考察	空家をどのようにしてほしいかについて、利活用等を望む意見が多かった。空家の支援制度や市営住宅の定期借家制度は、多くの方が「知らなかった」としており、情報発信を工夫していく必要がある。
回答者数/率	329名(男性 150名 女性 179名) 91.4%
担当	建設交通部住宅政策課 小和田 晴彦 TEL：924-2631

・第10回(10月3日(木)～12日(土))

テーマ	郡山市公式ウェブサイトの使いやすさ等について
目的	市民の皆様の情報入手手段やウェブサイトの活用状況、さらにウェブサイトの見やすさや情報量、特設サイトへの感想などについてのご意見を把握するため
考察	「必要な情報を簡単に入手できる」の意見が多いものの、「必要な情報の入手に時間がかかる」の意見も多い。検索性の向上が必要である。
回答者数/率	318名(男性 145名 女性 173名) 88.3%
担当	政策開発部広聴広報課 桜沢 雅史 TEL：924-2061

・第12回(1月8日(水)~17日(金))

テーマ	成人年齢引き下げに伴う「成人のつどい」のあり方について
目的	成人年齢引下げに伴う、今後の「成人のつどい」のあり方について検討を進めるため
考察	民法改正に伴う成人年齢引き下げ後の「成人のつどい」のあり方については、現行のまま20歳を対象とし、1月開催がよいとする意見が多かった。
回答者数/率	318名(男性146名 女性172名) 88.3%
担当	教育総務部生涯学習課 佐久間 由三子 TEL:924-2441



ウェブサイトへ
アクセスできます。

https://www.city.koriyama.lg.jp/shiseijoho/koho_kocho/netmonitor/index.html

<まちづくりネットモニター>

郡山市では、市民の皆さまの意見等をお聞きする取り組みとして、様々な機会や方法等により実施しており、その一つとして、市民モニターの方々にご協力をいただきインターネットを活用した市政アンケートを実施しています。

(モニター数：360名(男性159名、女性201名))

今回は、2019年度第6、9、10、12回目の調査となります。

2019年度まちづくりネットモニター第6回調査結果 テーマ「多文化共生」

国では、2018年12月に「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」を策定し、外国人との共生社会の実現に向けた環境整備を進めております。
本市においても、「多文化共生のまちづくり」を進めておりますが、今後、外国人住民に係る状況は一層変化していくことが見込まれるため、多文化共生施策の更なる推進に向け、アンケートを実施いたしましたので、その結果についてお知らせします。
(国際政策課)

調査概要

- 調査期間 令和元年7月5日(金)～7月14日(日) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 159名 女性 201名)
- 回答者数 331名 (男性 151名 女性 180名)
- 回答率 91.9%

【分析】

《回答者内訳》

(人)

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	4	5	14	33	29	21	38	7	151
女性	3	9	46	70	36	14	2	0	180
合計	7	14	60	103	65	35	40	7	331

《在住外国人の状況》

通りで外国人を見かけたり、お店で働く外国人を見かけるなど65% (216人) が増えたと感じている。そのうち、外国人と付き合いがある方は、17%程度となっている。また、付き合いがない方262人のうち61.1%があいさつや友達づきあい等をしたいと考えている。

《外国人が増えるメリット・心配や不安》

[メリット]

- ・外国の言葉・文化を知る機会が増える (60% : 198人)
- ・外国のことに関心を持つようになる (53% : 175人)

[心配や不安]

- ・ルールや習慣を知らずにトラブルが起きてしまうこと (77% : 254人)
- ・犯罪や不法滞在が増えるかもしれないこと (59% : 196人)

《多文化共生について》

・認知度

78% (257人) が「知らない」という結果となった。

・多文化共生のまちづくりに必要なこと

「あいさつや言葉を交わすこと」 (51%)、「国際交流イベントに参加する」 (43%)

・郡山市がすべきこと

「日本人と外国人の交流会やイベント、意見交換の機会の提供」 (56%)

【考察】

・在住外国人の状況については、外国人が増えていると感じている方が多いが、実際に付き合いがある方は少ない状況である。

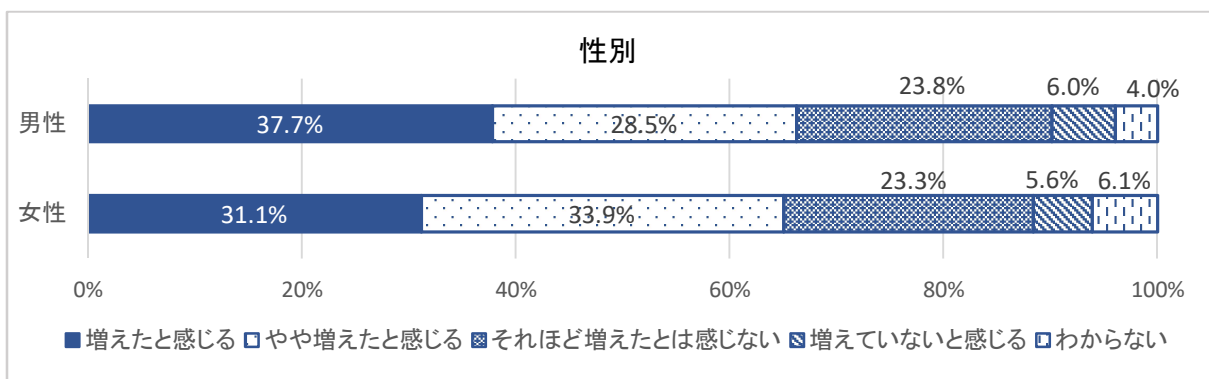
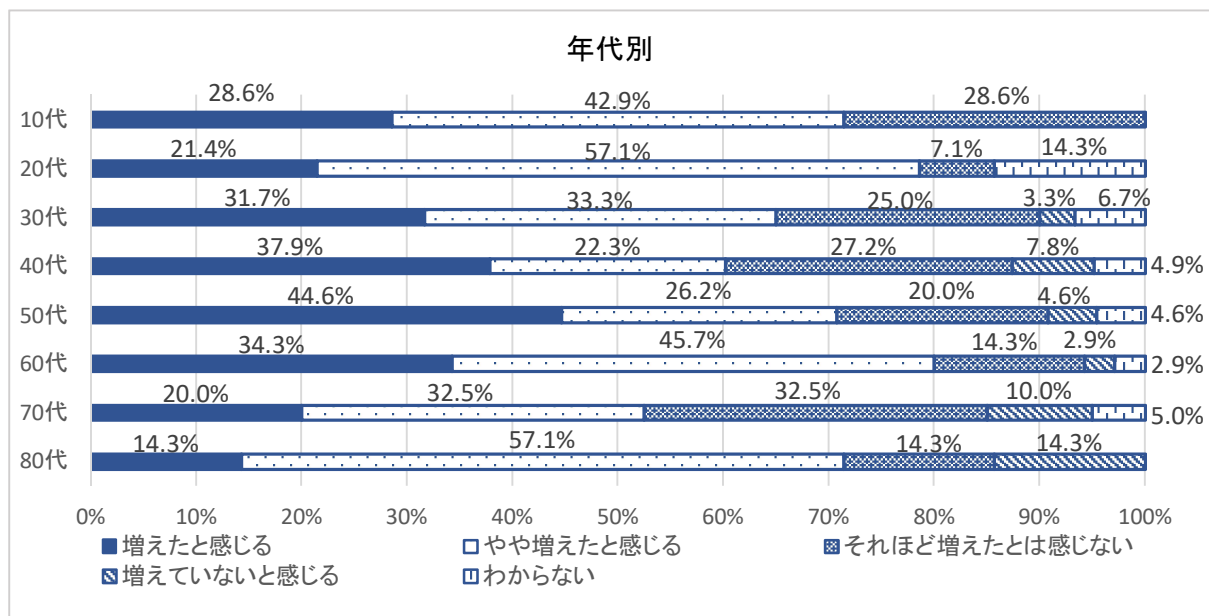
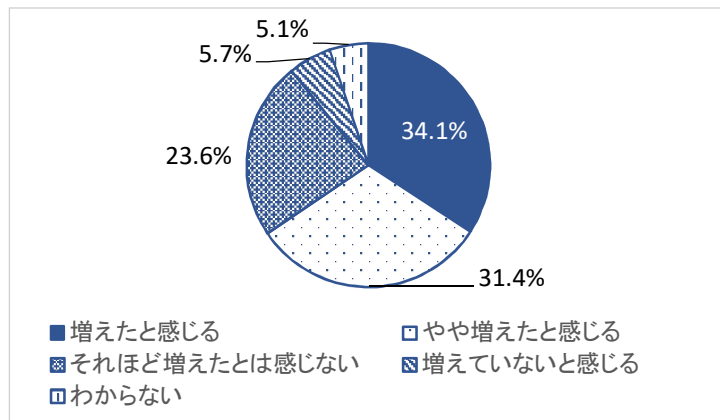
・外国人が増えることのメリットは、「外国の言葉・文化を知る機会が増える」、「外国のことに関心を持つようになる」などの異文化理解についての回答が多かった。一方、心配や不安については、「ルールや習慣を知らずにトラブルが起きる」、「犯罪や不法滞在が増えるかもしれない」と安全・安心に不安を感じる意見が多かった。

・多文化共生についての認知度が低いことから、「日本人と外国人の交流会やイベント」などを通じて、相互理解の促進や「多文化共生」の意義を理解していただくように努めたい。

第1章 日常生活における外国人との交流について

問1 あなたは、地域に居住する外国人が増えたと感じますか？（1つ選択）

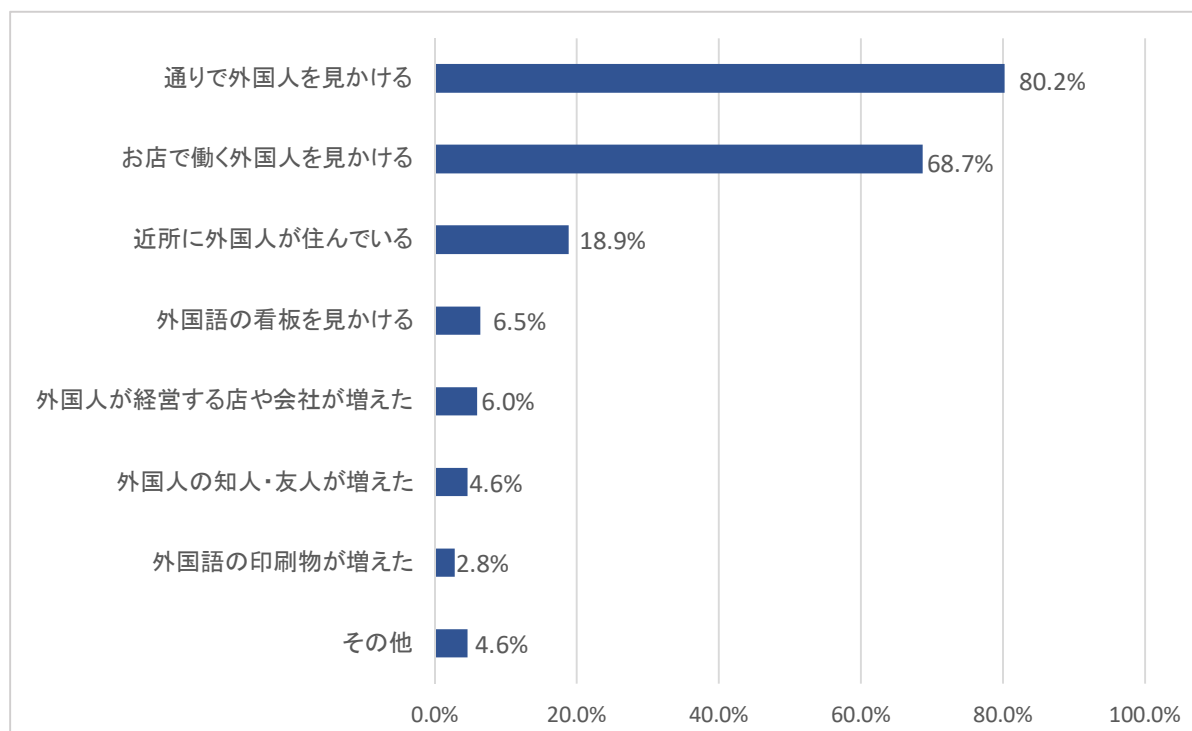
（回答者：331人）



「増えたと感じる」「やや増えたと感じる」を選択した方の割合は65.5%だった。男女による差はないが、年代別では、60代と20代がそれぞれ80.0%、78.5%と増えていると感じている人が多く、70代が、52.5%と低いという結果となっている。

問2 問1で「増えたと感じる」、「やや増えたと感じる」を選択した方にお伺いします。
地域に居住する外国人が増えたと感じる時は、どんな時ですか？（3つまで選択可）

（回答者：217人）



「その他」を選択した方の主な意見

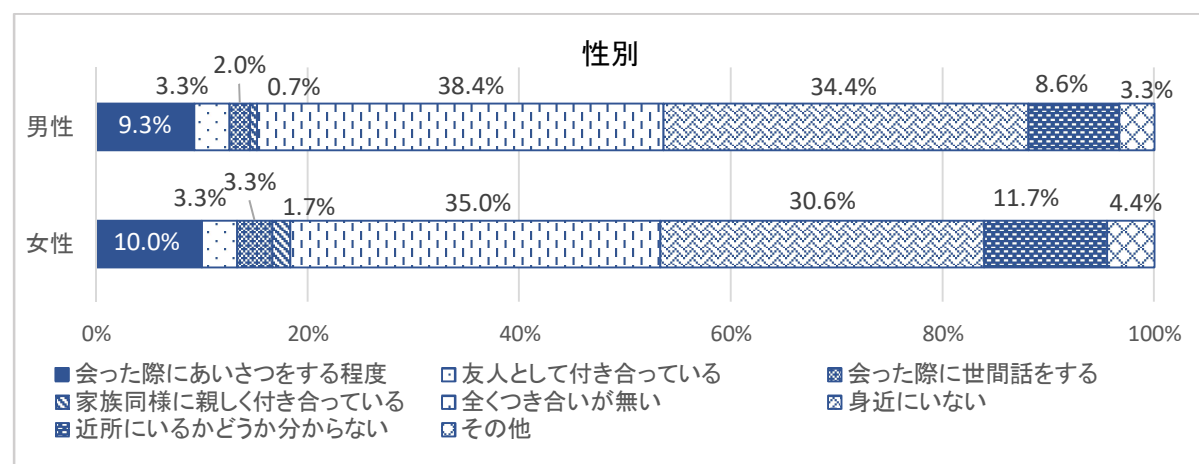
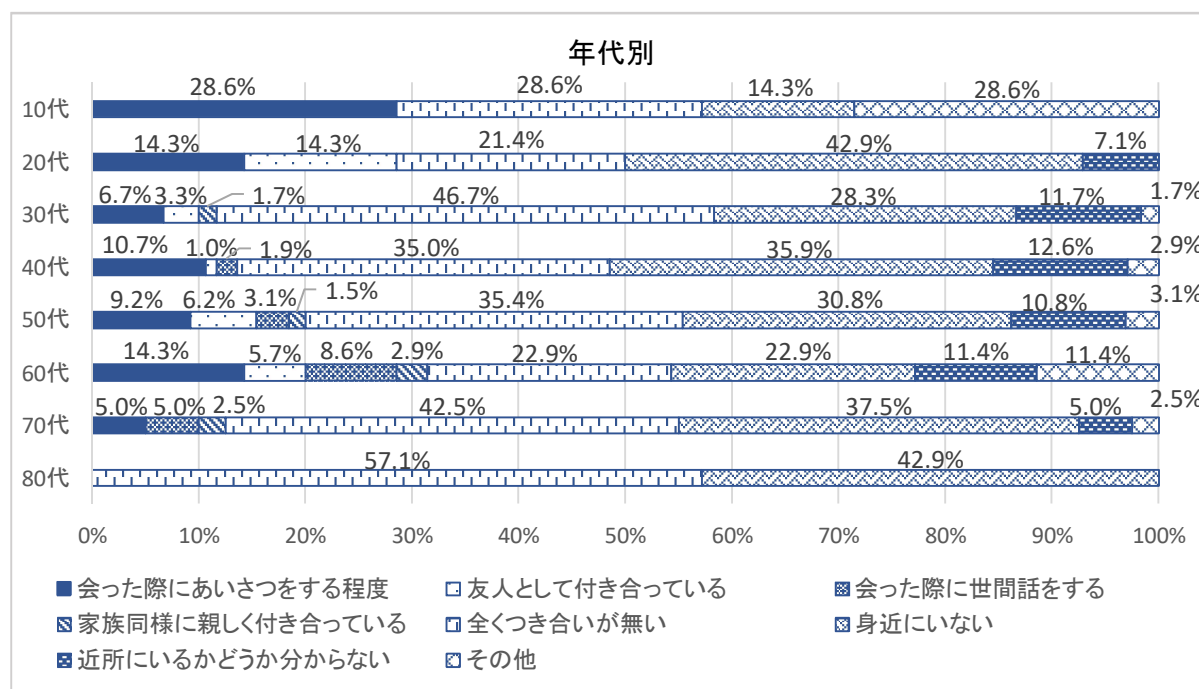
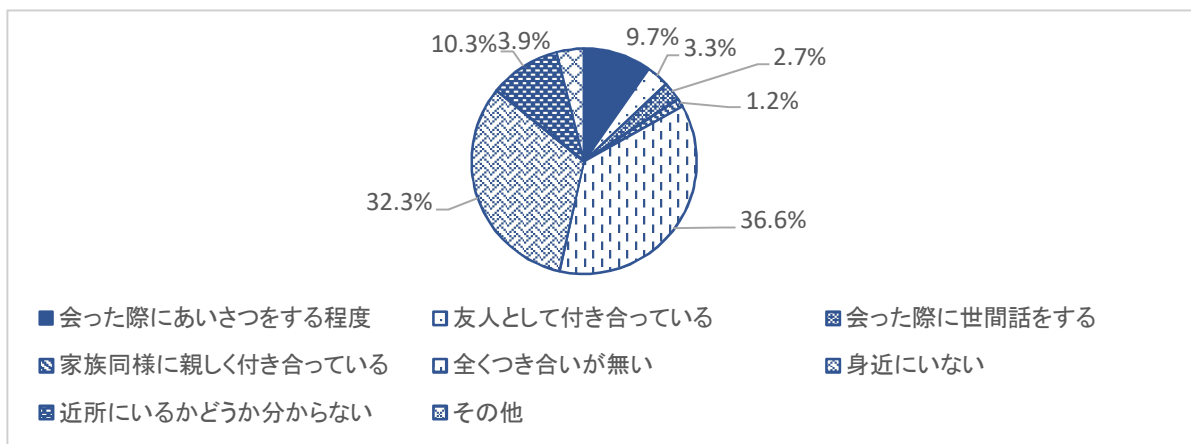
- ・子育てで出会う事がある
- ・子どもの通う学校に外国人の子どもが増えた
- ・自分が勤める会社に外国人が働いている
- ・勤務先にお客さんとして来る
- ・花見をしている外国人が増えた
- ・コンビニの店員さん
- ・買い物（スーパーマーケット）で外国人を見かける
- ・企業から外国出身者に日本語を教えて欲しいという依頼が増えた
- ・息子の嫁が外国人

「増えた」と感じるのは、「通りで外国人を見かける」（80.2%）時と「お店で働く外国人を見かける」（68.7%）時がとても多いという結果となった。

「その他」の意見で、「自分が勤める会社に外国人が働いている」、「企業から外国出身者に日本語を教えてほしいという依頼が増えた」など外国人の就労者が増えていることがうかがえる。

問3 あなたは現在、身近にいる外国人とどんなつき合いがありますか？（1つ選択）

（回答者：331人）



「その他」を選択した方の主な意見

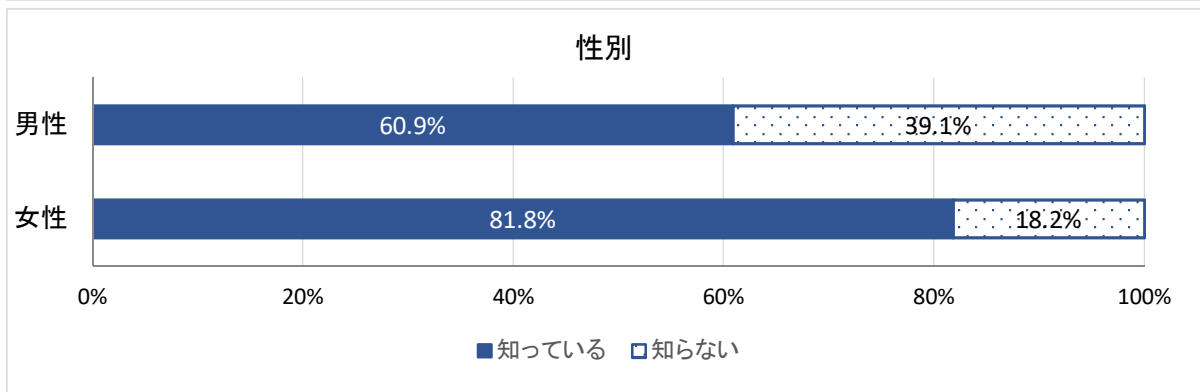
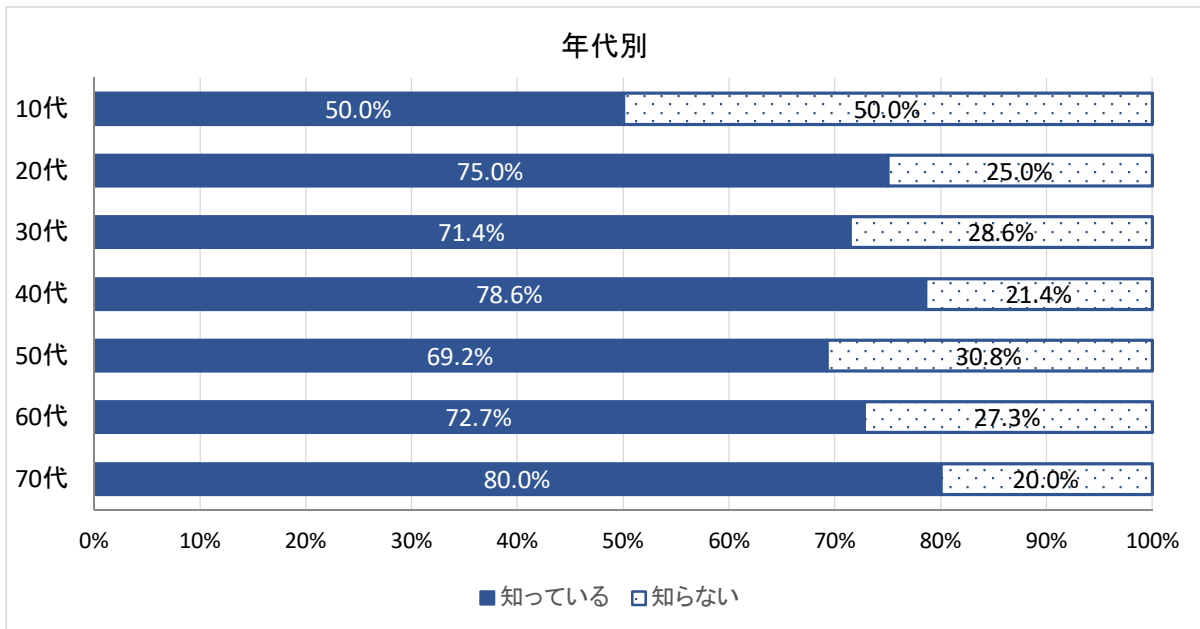
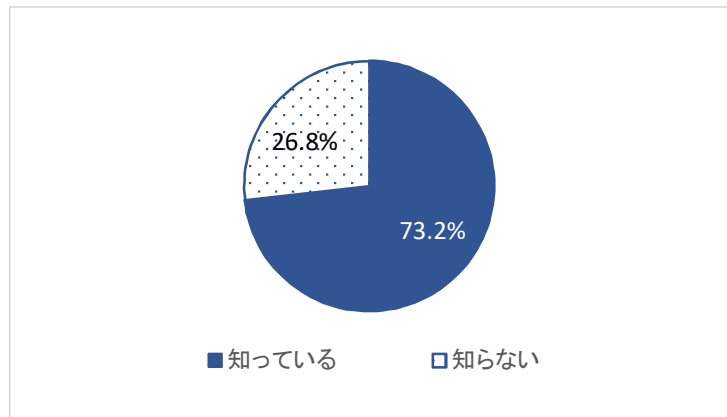
- 会社の同僚（職場にいる）やコンビニの店員
- 企業に勤める外国人への日本語指導など
- 就労する外国人について
- A E Tや英会話学校の講師と話す機会がある
- 日本語を教えたり、文化交流をしている。

外国人とつき合いがある人（あいさつ程度、世間話をする、友人として、家族同様）が、56人（16.9%）、付き合いが無い人（全くつき合いがない、身近にいない、近所にいるか分からない）は、262人（79.2%）となった。

外国人が増えたと感じるものの、実際につき合いがある方は、17%程度という結果となった。

問4 問3で「友人として付き合っている」「家族同様に親しく付き合っている」「会った際にあいさつをする程度」「会った際に世間話をする」を選択した方にお伺いします。その方の在住理由をご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：56人）

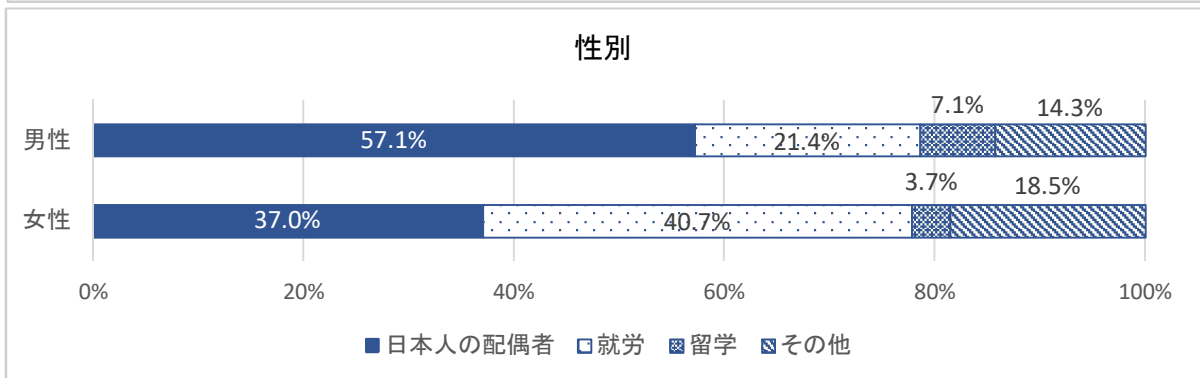
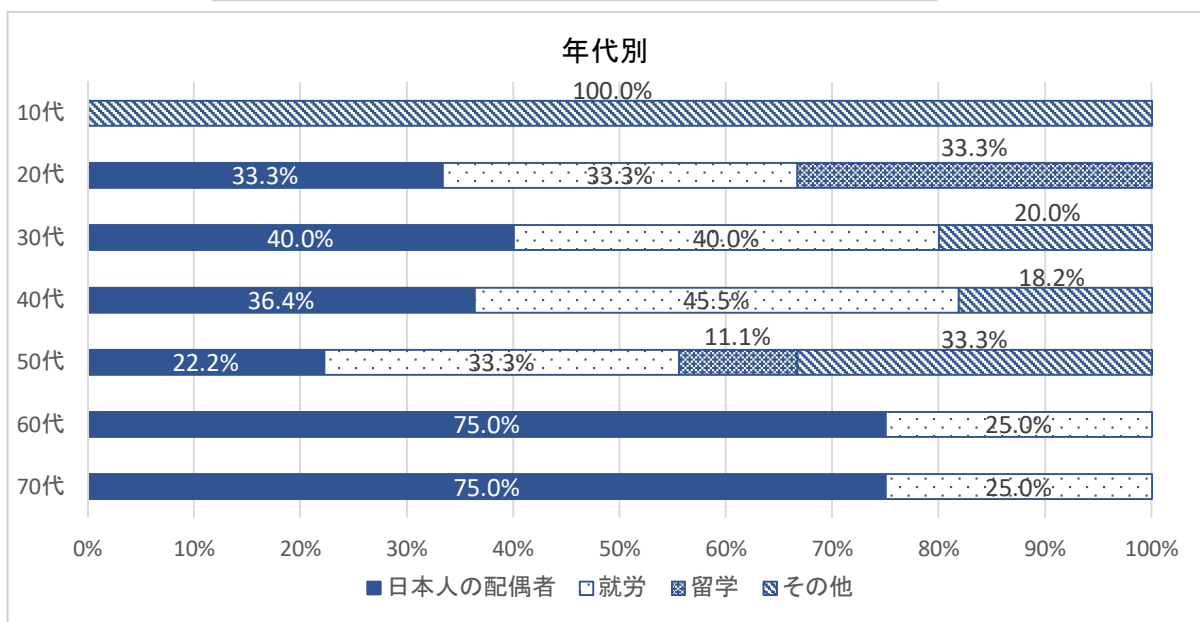
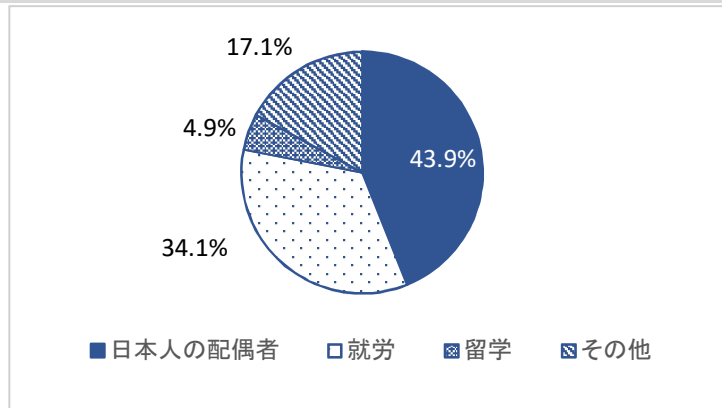


つきあい合いがある方は、概ね外国人の在住理由を知っている（74.6%）。特に、女性が在住理由を知っていることが多く（82.4%）、年代別では70代が多い（80.0%）。

問5 問4で「知っている」と答えた方にお伺いします。その理由は何ですか？

(1つ選択)

(回答者：41人)

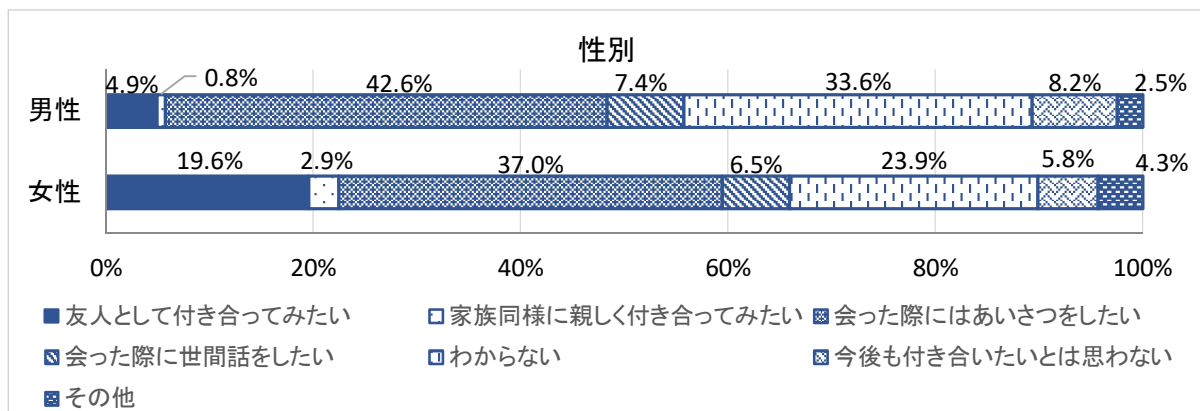
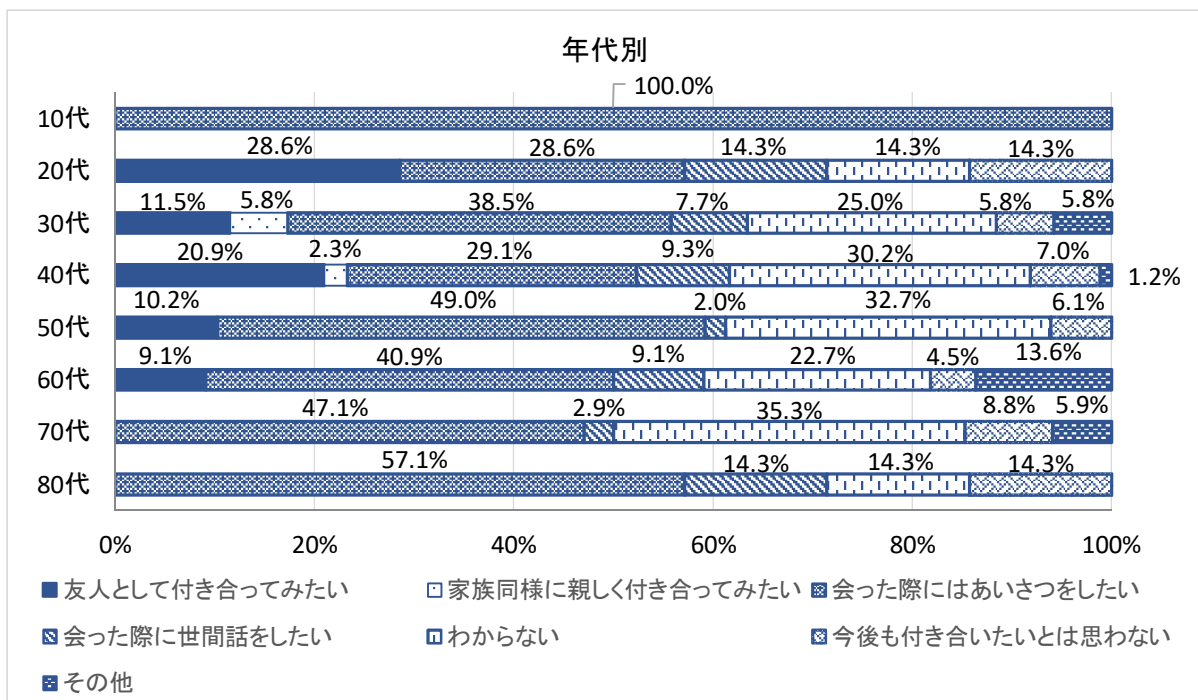
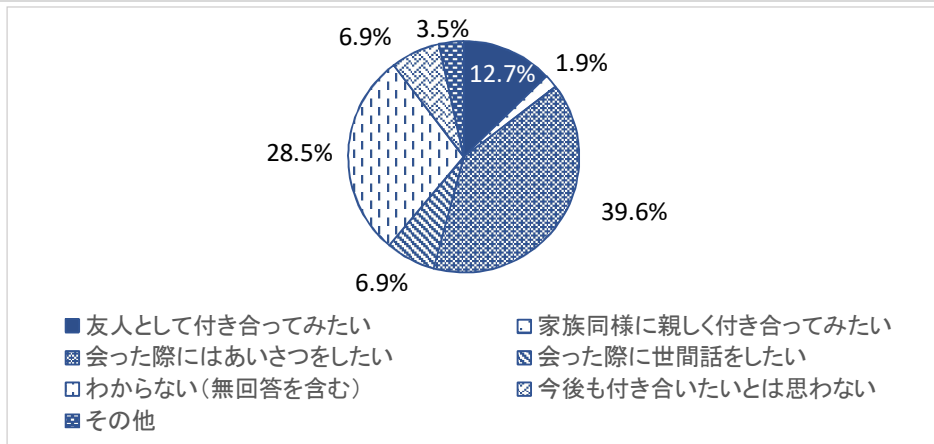


「その他」を選択した方の主な意見

永住・配偶者・就労それぞれのケースを知っている

在住理由が一番多い「日本人の配偶者」(43.2%)については、地域の活動や就労等による交流の機会が多いためと思われる。特に、60代、70代の方が、日本人の配偶者である外国人との付き合いが多い。また、20代の方は、留学生との付き合いが多いという

問6 問3で「全くつき合いが無い」「近所にいるかどうか分からない」「身近にいない」を選択した方にお伺いします。あなたは今後、近所の外国人とどのように接していきたいですか？
(1つ選択) (回答者：262人)



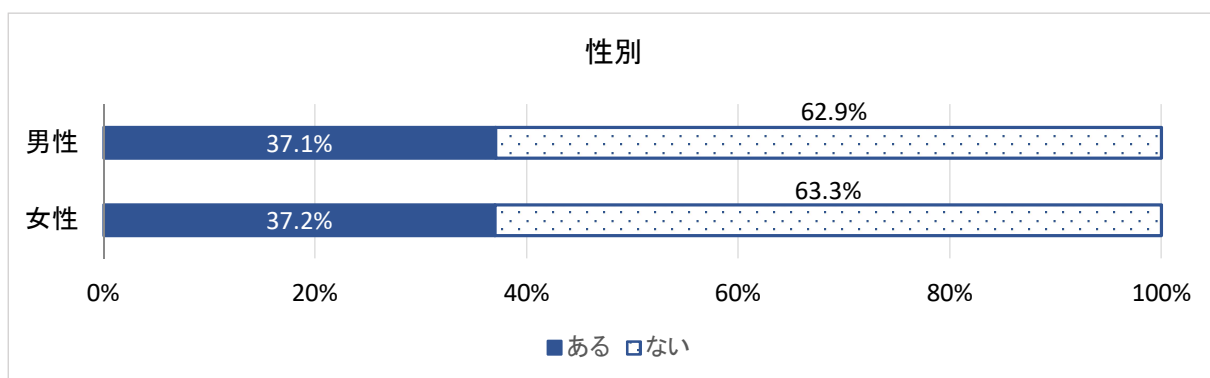
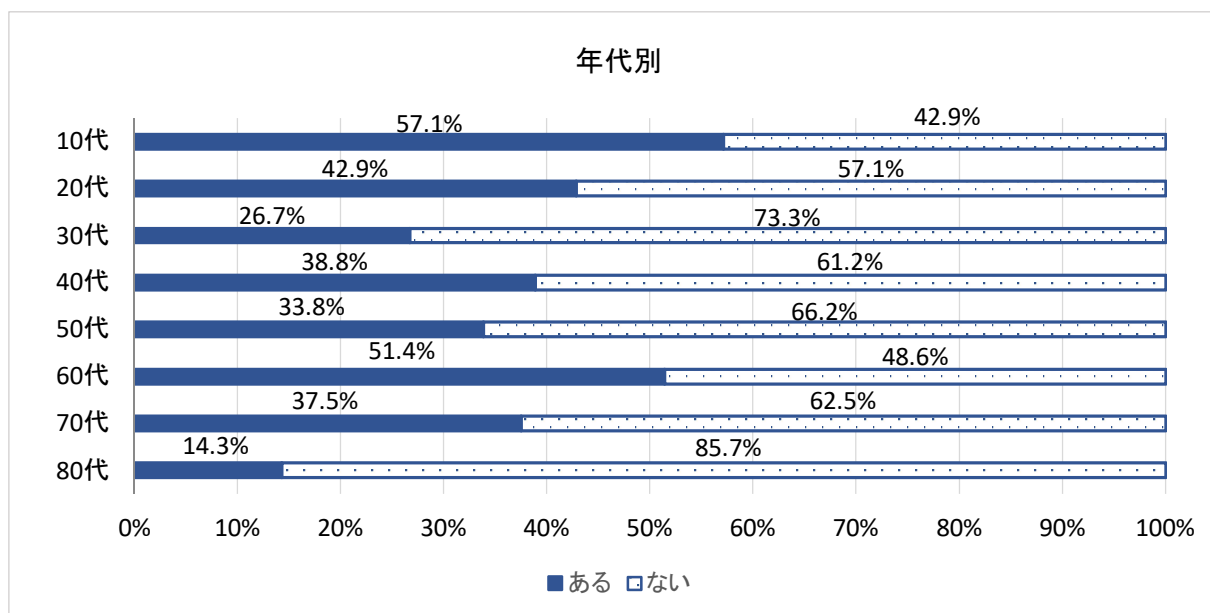
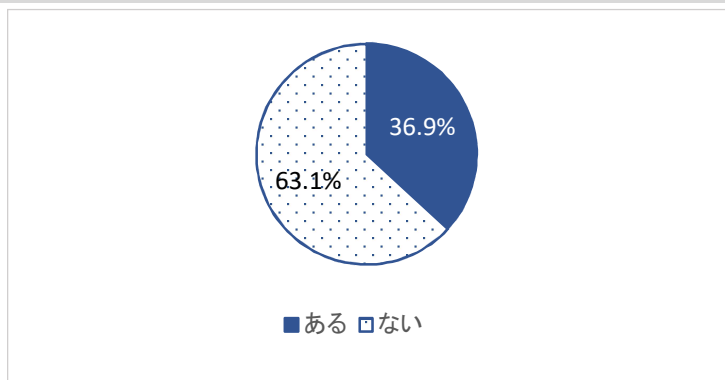
「その他」を選択した方の主な意見

- ・外国人だからという事でなく、日本人と同じつきあい。
- ・同じ町内会なら普通に町内のお付き合いはする。
- ・片言でも、日本語を話せるのであれば世間話をしてみたい。
- ・共通点多ければ友達になるかも知れないし、そうでなければ日本人と同じように挨拶くらいになる。

現在外国人と付き合いがない人の今後の外国人との接し方については、「会った際にはあいさつをしたい（39.6%）」が、「わからない（28.5%）」を上回り、次に、「友人として付き合ってみよう（12.7%）」の順となり、何らかの付き合いをしたいと考えている方は多いことが分かった（「友人として付き合ってみよう（12.7%）」、「家族同様に親しく付き合ってみよう（1.9%）」、「あった際にはあいさつをしたい（39.6%）」、「会った際に世間話をしたい（6.9%）」の合計は、61.1%）。「今後もつき合いたいとは思わない」は、6.9%。

問7 あなたは、海外の文化・習慣にふれたり、外国人と交流したりしてよかったと感じたことはありますか？（1つ選択）

（回答者：331人）

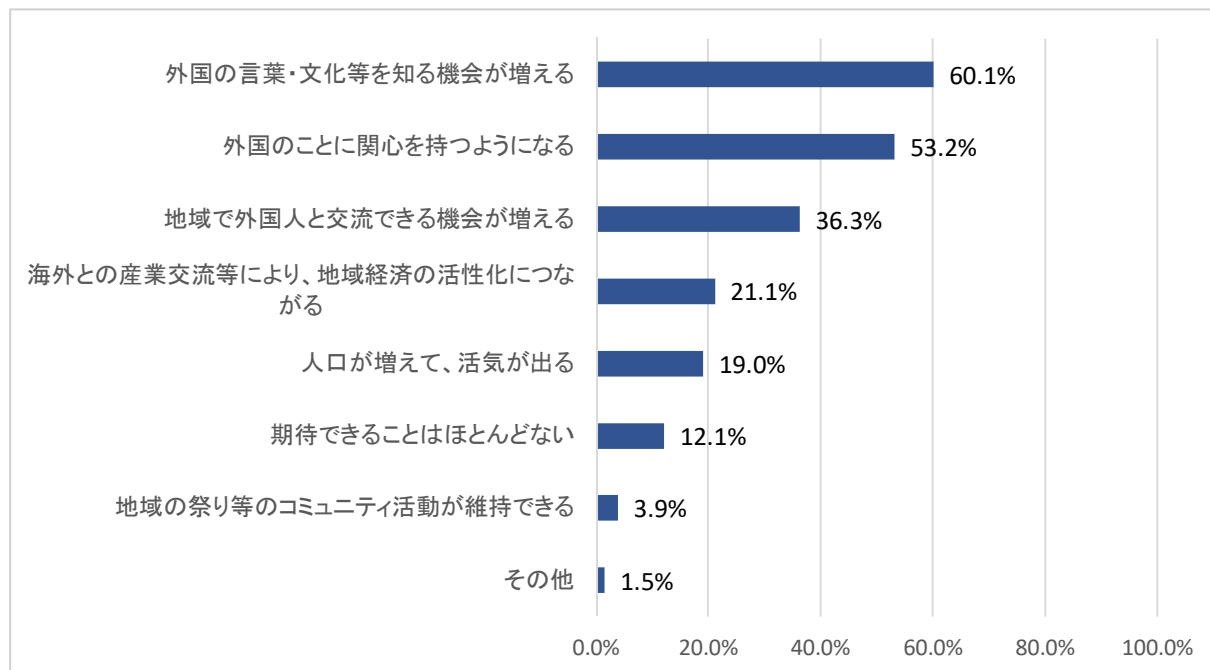


「ある」を選択した方は、36.9%で、「ある」と感じた内容は、海外旅行、留学、ホームステイ等を通じて、コミュニケーションが図れたときの感動や異なる食や慣習等を体験し、「視野が広がった」、「日本のよさを感じた」等の意見が多く見られた。

世代別に見ると、10代、20代の若い世代が「ある」と感じる割合が多く、60代も半数は良かったと感じている。半数以上（63.1%）の方が、「ない」を選択した。

問8 あなたは外国人が地域に増えることでどのようなメリットが地域にもたらされると考えますか？（3つまで選択可）

（回答者：331人）



「その他」を選択した方の主な意見

- ・国内だけの小さな価値観から多様性のある大らかで広い視野と価値観へシフトすると思う。
- ・日本の就労人口が減る中で、外国人労働者の方々には本当に感謝している。
- ・外国人から身近に感じてもらえる。安心感を与える。
- ・種々の問題が起こることを覚悟しなければならない。
- ・異文化を知り受け入れることで日本人同士の違いを認め合い伸ばしあえればブラック慣習もなくなる。
- ・文化背景が違うので問題が起きる。
- ・なぜデメリットの設問がないのか（肯定への誘導）

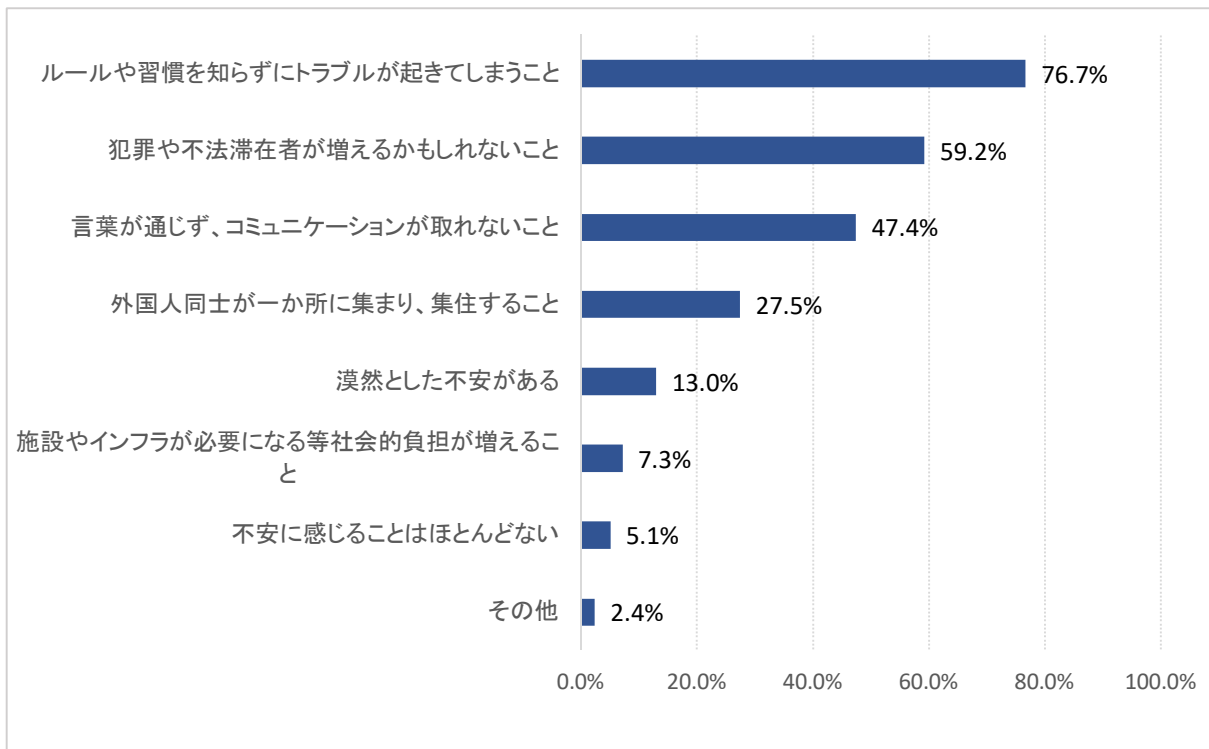
外国人が地域に増えることにより、「外国の言葉・文化を知る機会が増える（60.1%）」、「外国のことに興味を持つようになる（53.2%）」、「地域で外国人と交流できる機会が増える（36.3%）」など異文化理解や相互理解の機会が増えることがメリットとして捉えられている。

「地域の祭り等コミュニティ活動が維持できる」は3.9%で一番少なかった。

「その他」の意見としては、「多様性へのシフト」や「異文化を知ること、日本人同士の違いを認め合えばブラックな習慣もなくなる」等共生社会に関する意見が見られた。

問9 あなたは外国人が地域が増えることで、生活する上で心配や不安に感じることで、どのようなことがありますか？（3つまで選択可）

（回答者：331人）



「その他」を選択した方の主な意見

- ・外国人が、病気、怪我、災害にあった時の対応。
- ・日本に来て不安があるのは外国人のほうだと思う。手を差し伸べ交流を図るのが我々の務めだと思う。
- ・地域の人々の偏見や差別が増えることの方に不安がある。
- ・技能実習生を受け入れている企業の一部の待遇が悪く、人権侵害にならないか心配。
- ・円の流出
- ・不安ではなく日々不具合事実が沢山伝えられている
- ・外来病気が気になる

※不法滞在者

出入国関係法令に違反して日本に入国・上陸した外国人や、許可された在留期間を超えて国内に留まっている者

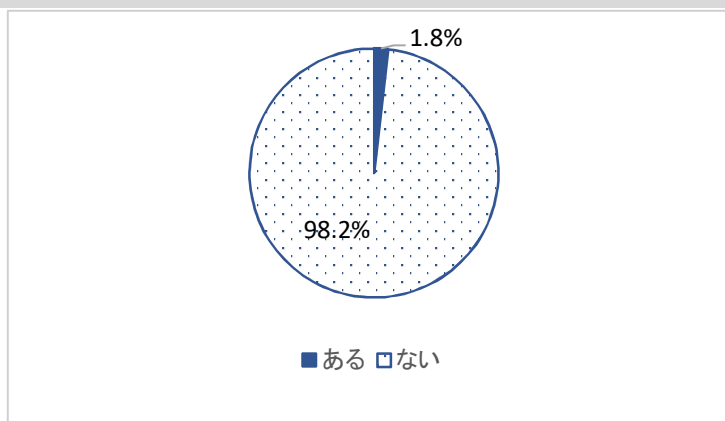
外国人が増えることで心配や不安に感じることについては、7割以上の方が「日本で生活するルールや習慣を知らずにトラブルが起きてしまうこと（76.7%）」を選択している。

次いで、「犯罪や不法滞在者が増えるかもしれないこと」を選択したのは、59.2%、半数には至らなかったが、「言葉が通じず、コミュニケーションが取れないこと」を選択した人も、47.4%いた。

「その他」の意見として、「外国人が、病気、怪我、災害にあった時の対応」や「外来病気が気になる」などの外国人への支援に関する意見が見られた。

問10 あなたは今までに、近所に住んでいる外国人と何かトラブルの経験がありますか？（1つ選択）

（回答者：331人）



「ある」を選択した方の主な意見

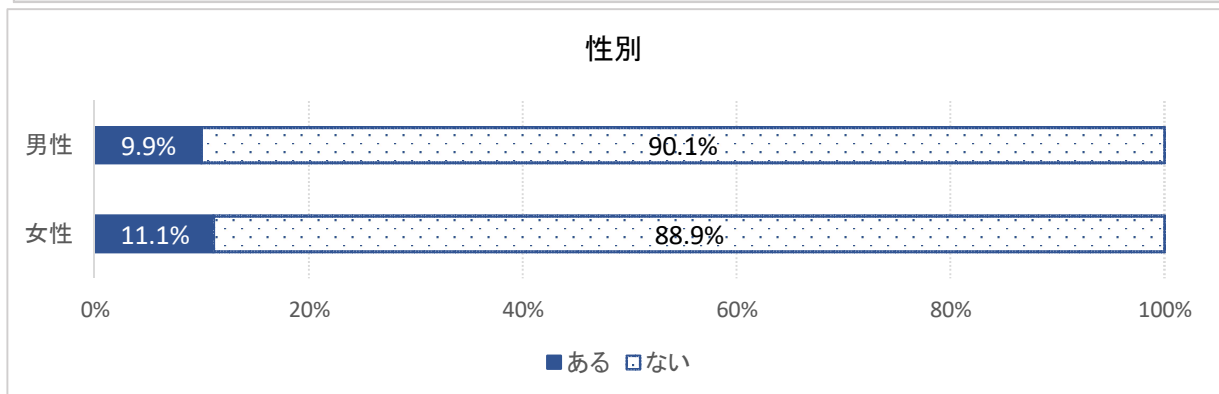
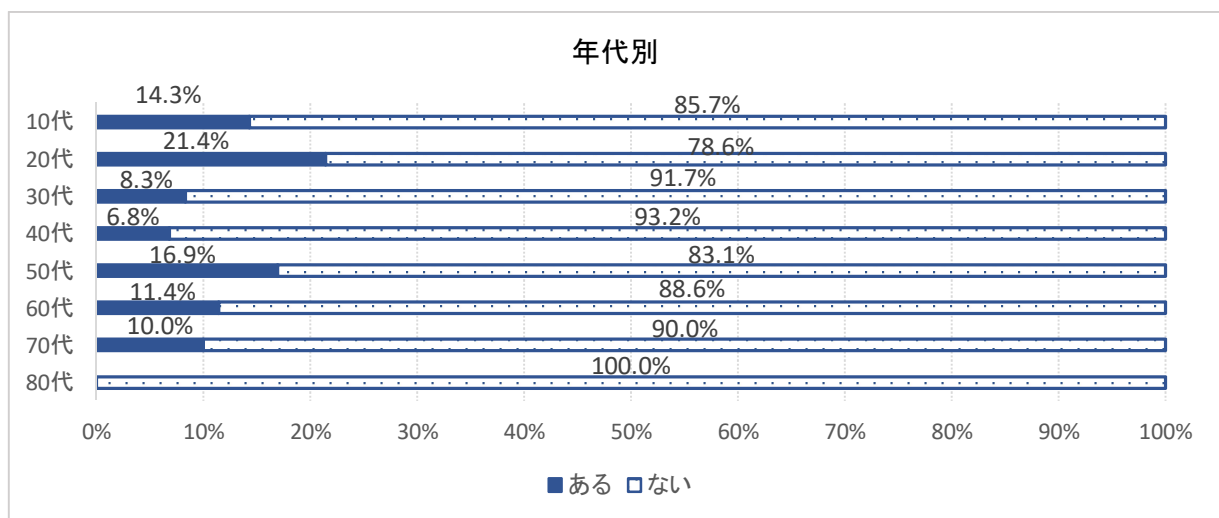
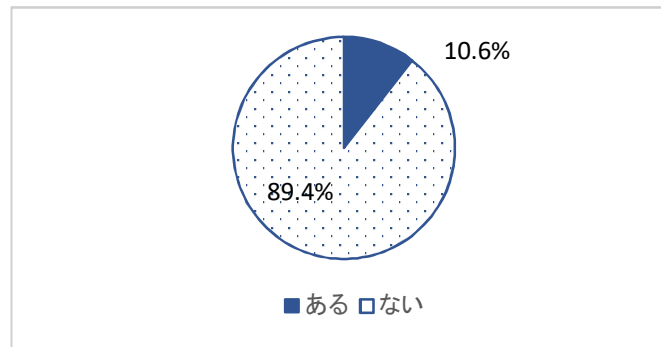
- ・仕事の依頼がドタキャンされた。
- ・騒音。音楽を大きな音でかけていたり、夜遅い時間や朝早い時間にガヤガヤ煩い。
- ・知らないふりをした交通ルール違反。
- ・並んで待っているのに横から入って来て注意しても知らんぷりをしていた。
- ・詐欺的募金の声かけ。
- ・外国人同士の喧嘩。

トラブルを経験した方は、6人（1.8%）でごくわずかという結果となった。

習慣の違いからくるものもあれば、日本人の行動と変わらないものもあり、一概に外国人固有のものとは言えないものもあった。

問11 あなたの身近で、外国人に対する偏見や差別を見たり聞いたりしたことはありますか？（1つ選択）

（回答者：331人）



「ある」を選択した方の主な意見

- ・アジア圏の人たちへの偏見・差別
- ・コンビニの外国人店員への文句
- ・就労や賃貸住宅への差別

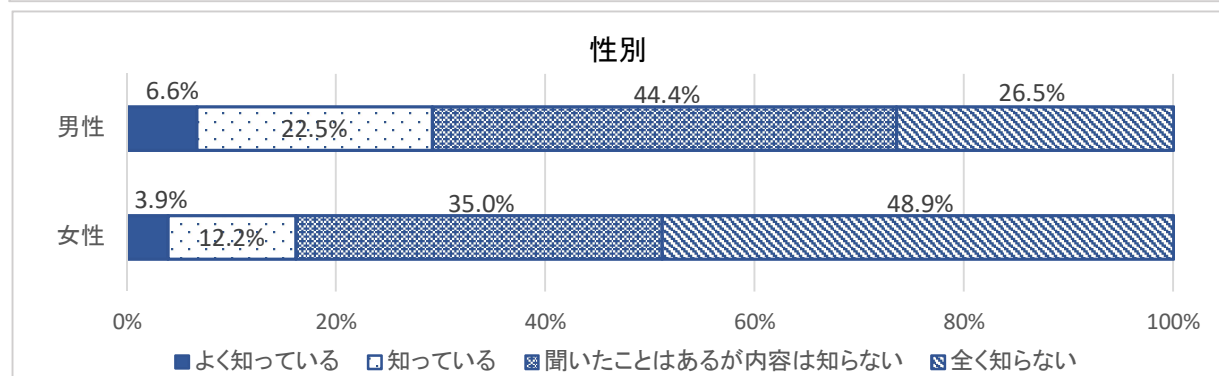
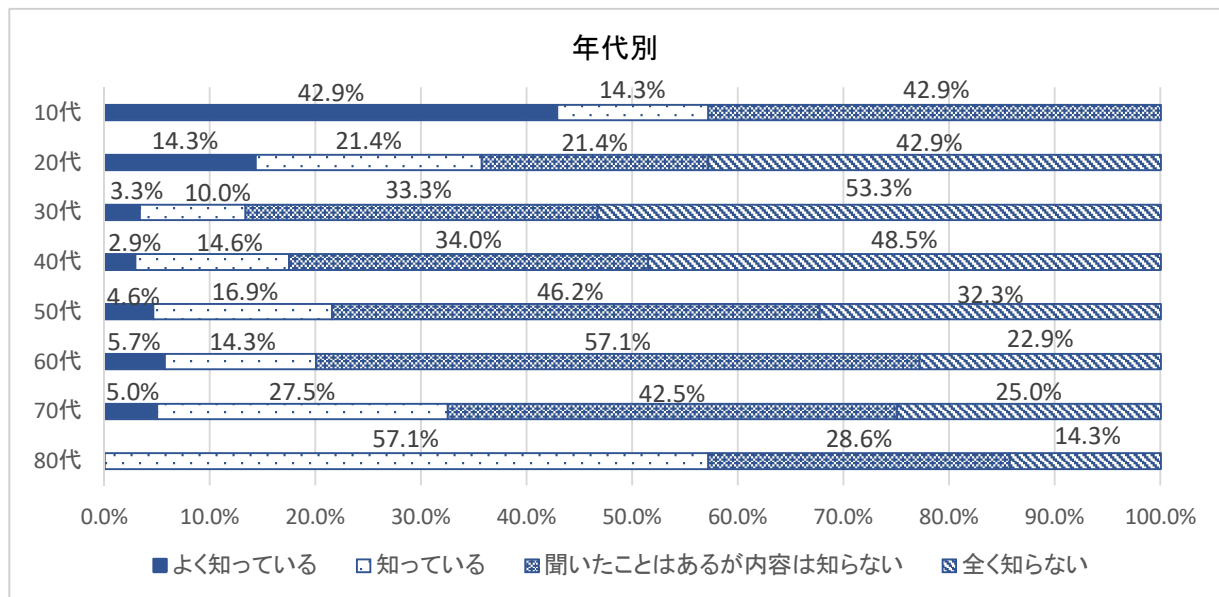
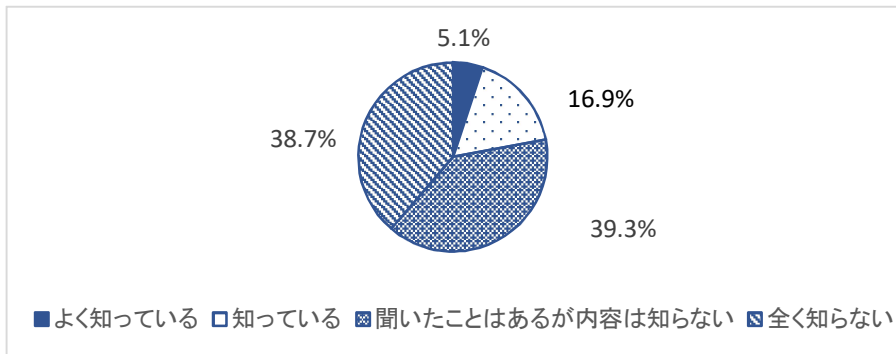
10.6%（35人）の方が、外国人に対する偏見や差別を見たり聞いたりしたことがあると回答している。

主に親族など身近な人の外国人に対する偏見や外国人店員への文句などを見聞きしている。

第2章 多文化共生のまちづくりについて

問 12 「多文化共生社会（※）」をご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：331人）



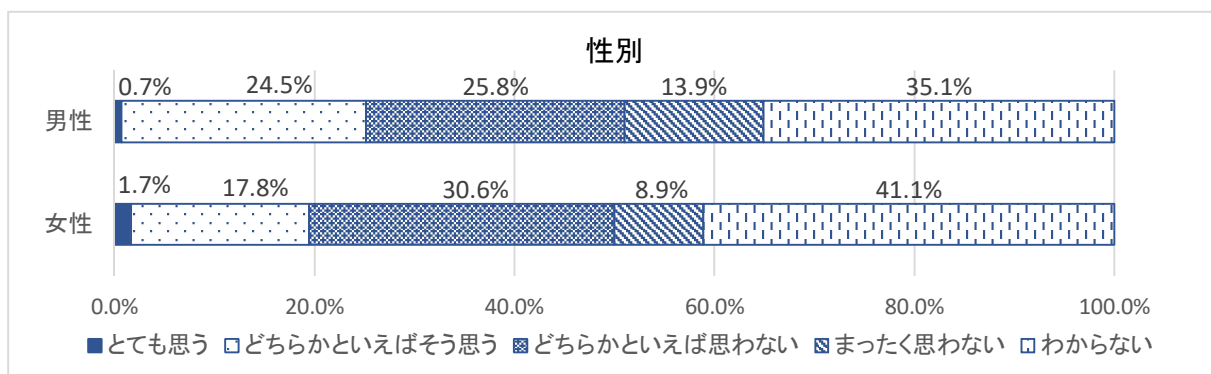
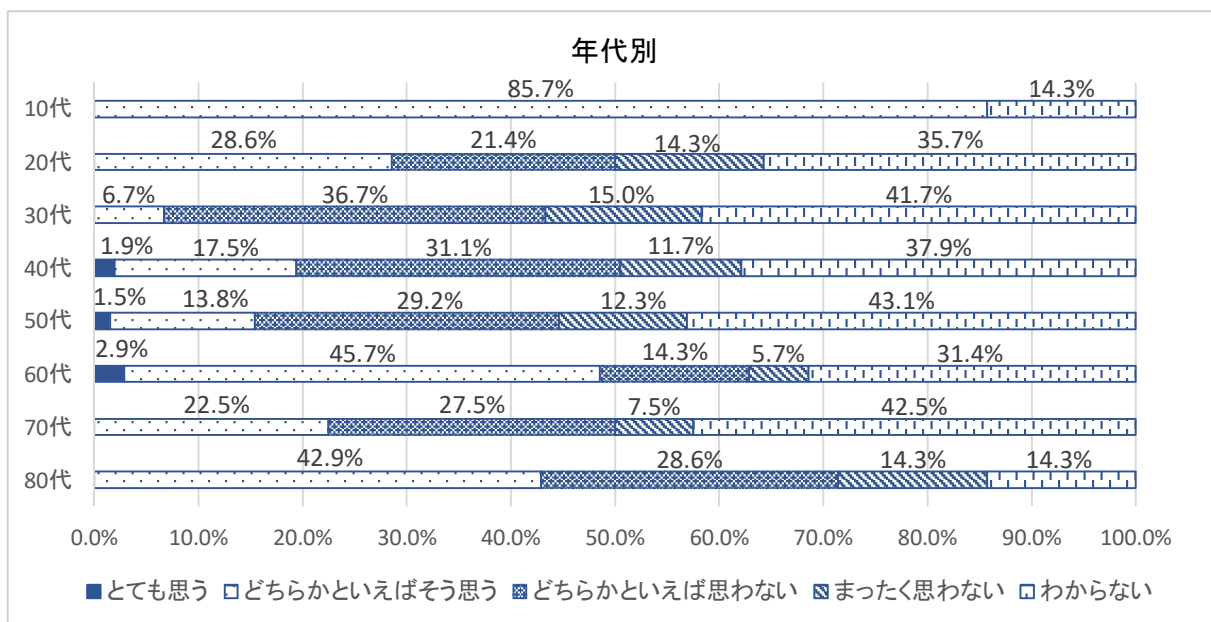
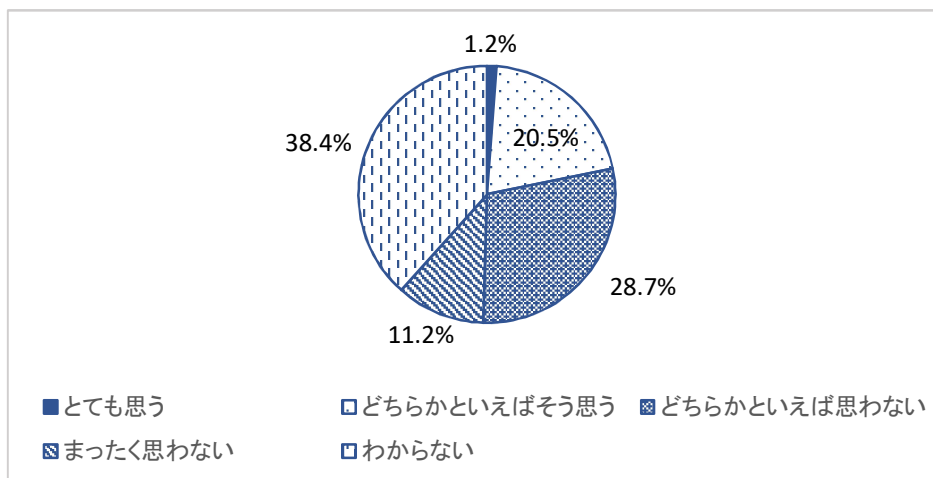
多文化共生社会について、「よく知っている」「知っている」人は、22%。女性（16.1%）よりも男性（29.1%）が知っていると答えている。

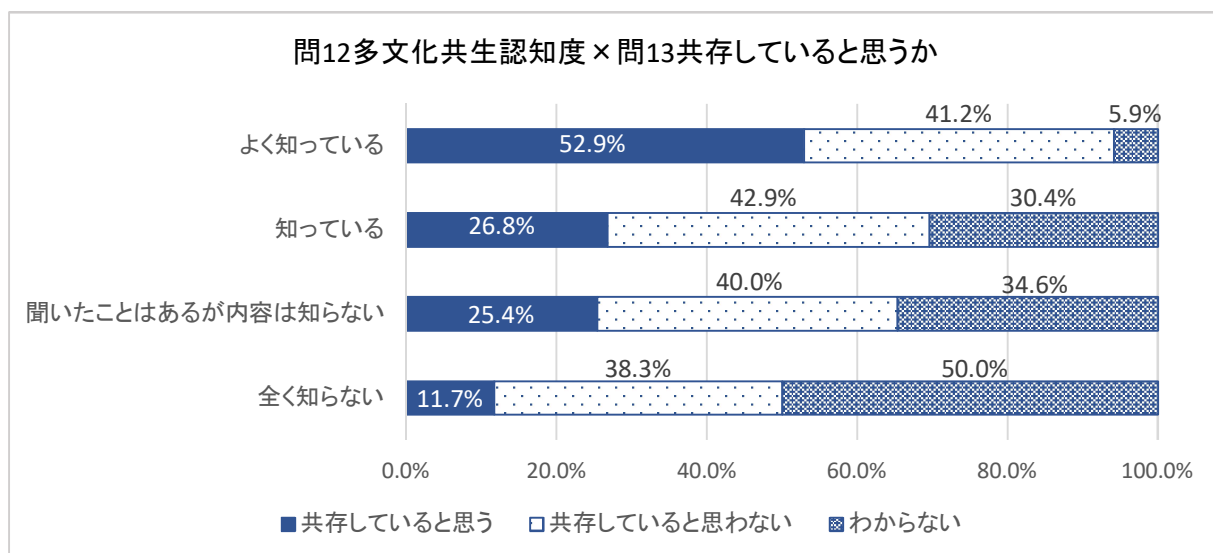
年代別にみると、10代（57.2%）と80代（57.1%）が知っている割合が高く、次いで20代（35.7%）・70代（32.5%）となり、もっとも低いのが、30代（13.3%）であった。

（※）国籍や民族等の異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく社会

問 13 郡山市は、国籍や民族等の異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、共存している 「まち」 だと思いますか？（1つ選択）

（回答者：331人）





郡山市が、国籍や民族の異なる人々が、「共存している」と思う人が、21.7%（「とても思う」、「どちらかといえばそう思う」）、「共存してると思わない」人が、39.9%（「まったく思わない」、「どちらかといえば思わない」）、「わからない」が、38.4%という結果となった。

また、「共存している」を選択したのは、男性が多く（男25.2%：女19.5%）、「共存しているとは思わない」は、男女の差がなかった（男39.7%：女39.5%）。「わからない」を選択したのは、女性が多い（男35.1%：女41.1%）という傾向がみられた。

世代別では、「共存している」は10代・60代が多く、「共存していると思わない」は30代が半数以上（51.7%）と多い。

問12で多文化共生社会を「よく知っている」を選択した人は、本市が共存しているまちだと思える傾向が見られた。問12で「全く知らない」を選択した人の半数は、「共存しているまちかどうか分からない」を選択した。

問 14 問13で「とても思う」「どちらかといえばそう思う」を選択した方にお伺いします。それはなぜですか？

(回答者：73人)

73件の意見を分類すると以下のとおりとなった。

- ・ 職場やお店で働いている姿を見かける
- ・ まちの中で多く見かけける
- ・ 外国人の教師がいる
- ・ 外国人に対して親身に接している
- ・ 外国語表記の案内板を見かける
- ・ 日本語を学ぶ勉強会がある
- ・ 外国人による犯罪や大きなトラブルが少ない
- ・ 特に問題なく日常生活を送れているから
- ・ 多言語による情報発信や多言語表記がある
- ・ 海外の姉妹都市等による国際交流活動がある
- ・ 人手不足問題に貢献している

共生している理由としては、外国人を多く見かけるようになったこと、また増加傾向にあるもののトラブル等が少ないことがあげられた。

また、市の多言語対応や日本語教室、姉妹都市交流をはじめとする国際交流活動等を評価する意見もみられた。

問 15 問13で「どちらかといえば思わない」「まったく思わない」を選択した方にお伺いします。それはなぜですか？

(回答者：131人)

131件の意見を分類すると以下のとおりとなりました。

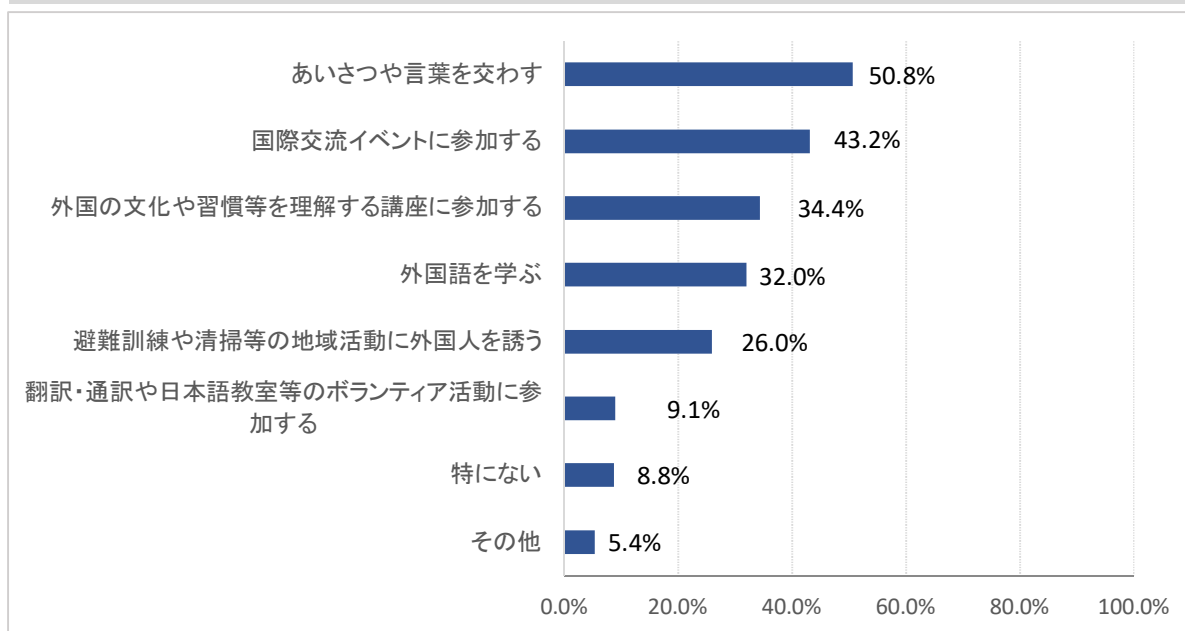
- ・ ほとんど見かけない
- ・ 外国人と関わりがないので、交流する機会がない、実感もない
- ・ 日本人がまだまだ閉鎖的で文化を受け入れない地域もある
- ・ 外国人が地域活動をしている姿を見かけない
- ・ 外国人向けや交流の活動がない、聞いたこともない
- ・ 外国人がどこに住んでいるか分からず、イメージしにくい
- ・ 施策が不十分で、外国語表記も少ない
- ・ 外国人にとって言葉や就職等が不便だから
- ・ 地域で各々暮らしているが、まだ垣根があり共生とはいえない
- ・ 共生するためには両者の努力が求められるが、期待できない

共生していない理由として、外国人が身近にいないこと、また、外国人との交流の機会もないことがあげられた。

また、多言語対応等市の取り組みが不十分であるとの意見もあった。

問16 あなたは「多文化共生のまちづくり」を進めるために、何が必要だと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：331人）



「その他」を選択した方の主な意見

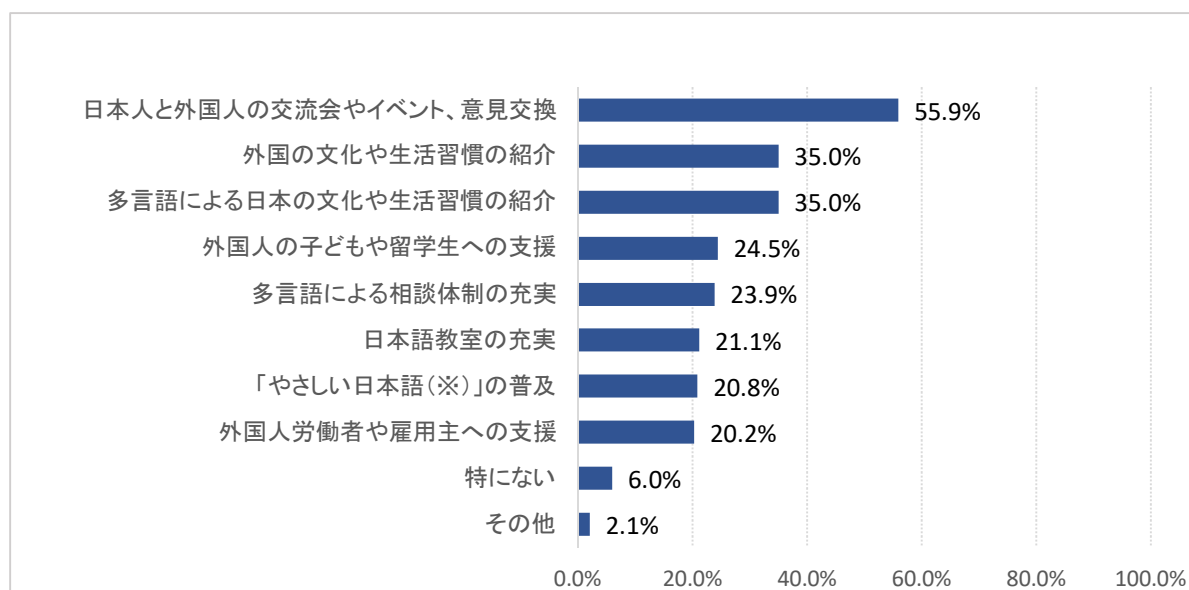
- ・外国人が日本の文化を理解してほしい（郷に入りては郷に従え）
- ・地域での受け入れ（声掛け・地域のイベントへの参加を促す）
- ・責任ある行政の施策（多文化共生イベント、日本語教育、情報発信）

あいさつや交流イベントへの参加等、直接の交流が「多文化共生まちづくり」のために必要であると選択した方が多かった。

また、「避難訓練や清掃等の地域活動に外国人を誘う」と地域での取組みの必要性を選択した方もいた（26%）。

問17 郡山市は「多文化共生のまちづくり」を進めるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：331人）



「その他」を選択した方の主な意見

- ・外国人が郡山市の生活に合わせる（日本の文化習慣を理解させる）
- ・多文化共生は机上の空論
- ・お隣さん意識の醸成
- ・国際交流協会の充実

「日本人と外国人の交流会やイベント、意見交換」が55.9%と最も多く、次いで「外国の文化や生活習慣の紹介」「多言語による日本の文化や生活習慣の紹介」が35.0%となっている。交流イベントや意見交換の機会の提供が必要であると考えての方が最も多く、次いで、日本人も外国人も相互の生活習慣を理解することが必要であると考えている。

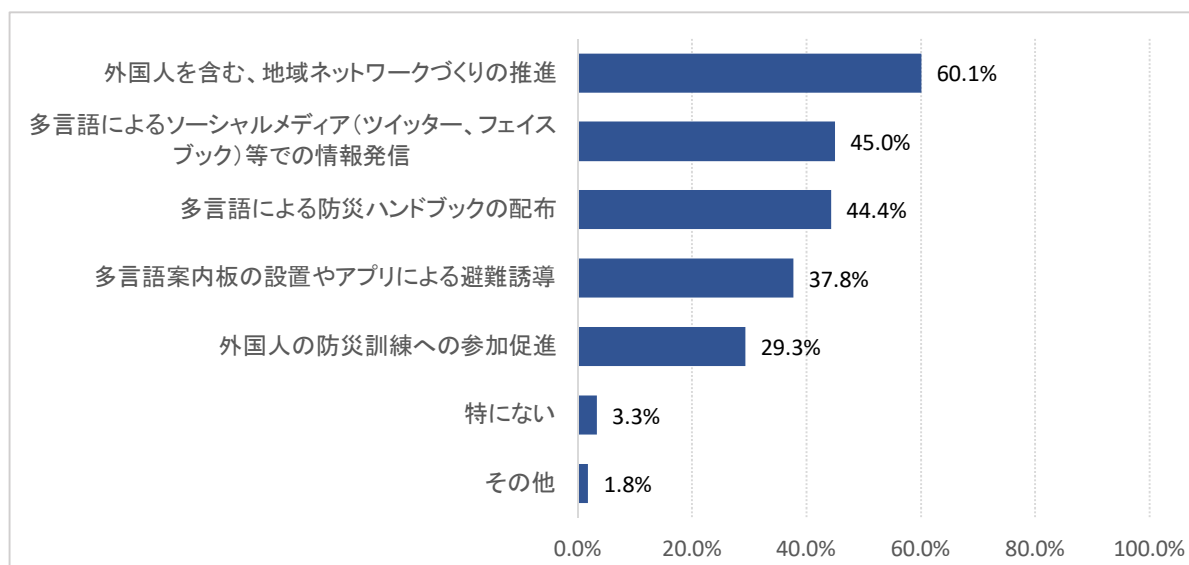
「その他」の意見として、国際交流協会の事業の充実を望む意見が見られた。

※やさしい日本語

外国人にもわかるように、普段使っている言葉(日本語)を簡単な日本語に言い換えた言葉。

問18 「多文化共生のまちづくり」において、地震や水害等の災害発生時に、外国人の安全を確保するためには、特に何が重要だと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：331人）



災害発生時に外国人の安全確保のために必要なこととして、「外国人を含む、地域ネットワークづくりの推進」(60.1%)が最も多く選択され、共に助け合うこと(共助)が必要だと思ふ人が多かった。

また、多言語による情報提供も必要だと思ふ人が多かった(「多言語によるソーシャルメディア等での情報発信」(45.0%)、「多言語による防災ハンドブックの配布」(44.4%)、「多言語案内板の設置やアプリによる誘導」(37.8%))。

問19 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

（回答者：331人）

多くの方が、交流の機会があれば、相互理解が深まりお互い安心して生活ができると考えている。一方で、「多文化共生の必要がない」、「多文化共生を目指す意味がわからない」、「外国人を受入れを進めて自治体として破綻する前に再考すべき」とする意見もみられた。

主な意見は以下のとおり。

・外国の方と交流したい人は意外と多いと思います。交流イベントを増やして貰いたいです。（40代 女性）

・外国人が、気軽に病院に行けるような体制が郡山にあるのか疑問です。多文化交流も良いのですが、外国人が安心して当たり前の生活ができることがまず大切だとも思います。（40代 女性）

・日本人側と外国人側、双方とも互いの文化やバックグラウンドの違いを理解するよう歩み寄る必要がある。（30代 女性）

・外国人も日本社会に馴染まなくてはならない。そのための施策をもっと考えることが必要。（70代 男性）

・外国人労働者の受け入れは日本にとって喫緊の問題です。外国人自身の共生の意識も大切ですが、受け入れる側の意識も大切だと思います。（50代 男性）

・素性が不明なため不安でしかありません。お互いに誤解を生まないためにもしっかりとしたルール作りと受け入れ体制の整備が必要だと感じます。（30代 男性）

・災害時の対策も確実にしておく必要があるが、病院受診等の対応や翻訳も進めていくべきだと考える。（30代 女性）

・多文化「共生」は、受け入れる側の努力だけでは成り立たない。受け入れられる側にも努力が必要だが、彼らは日本人ではないから日本的発想でそのようなものを構築しようとしても、徒労に終わるのは目に見えている。外国人の受け入れを進めて自治体として破綻する前に、再考するべきであると考えます。（50代 男性）

2019年度まちづくりネットモニター第9回調査結果

テーマ「住宅政策について」

人口減少や高齢化が進展するなか、日本ではすでに住宅総数が世帯数を上回っており、これまで整備されてきた建物をいかに活用していくかなど人口減少時代に対応した住宅政策が必要となっています。

今後、増加が見込まれる空家に関するアンケートと子育て支援の一環として行っている市営住宅の定期借家制度に関するアンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

(住宅政策課)

調査概要

- 調査期間 令和元年9月2日(月)～9月11日(水) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 159名 女性 201名)
- 回答者数 329名 (男性 150名 女性 179名)
- 回答率 91.4%

【分析】

《回答者内訳(人)》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	4	5	13	32	30	21	38	7	150
女性	2	10	43	72	36	14	2	0	179
合計	6	15	56	104	66	35	40	7	329

《空家について》

- ・「建物を解体して土地を活用してほしい」と回答した方が48.1%
- ・「維持管理がなされていない空家は積極的に助言や指導すべき」と回答した方が48.6%
- ・行政が強制的に解体工事などを行う代執行について、「危険な空家は積極的に実施すべき」と回答した方が62.6%

《NPO法人こおりやま空家バンク、空家等に関する支援制度について》

- ・利活用の無料相談や補助制度を「知らない」と回答した方が約90%

《新築住宅と既存住宅について》

- ・「新築住宅を選びたい」方57.4%、「既存住宅を選びたい」方15.8%

《市営住宅の定期借家制度について》

- ・「知っている」と回答した方は7.9%
- ・制度の利用が低調な理由は「建物が古いから」が65.4%、「周知が十分でないから」が61.5%

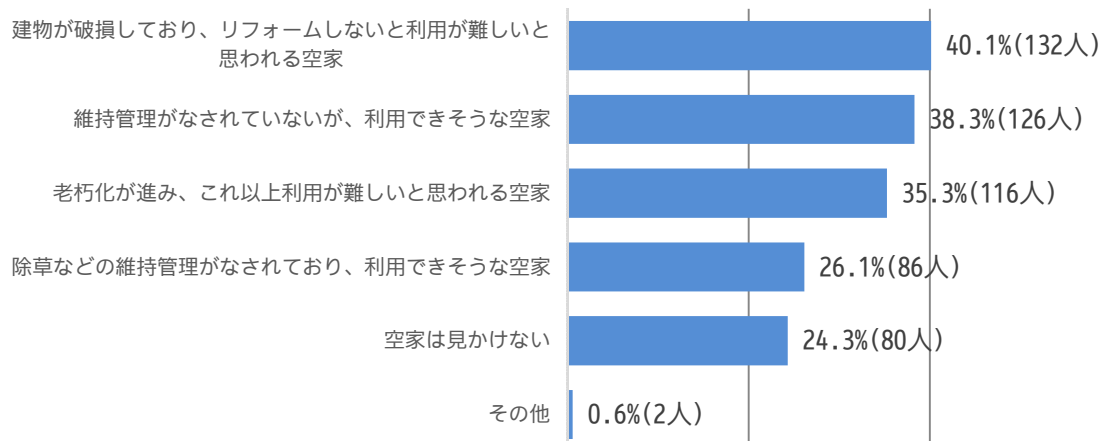
【考察】

- ・空家をどのようにしてほしいかについて、「解体して土地を活用」や「誰かに住んでほしい」とした利活用等を望む回答が7割以上となった。
- ・行政がどのように空家に対応すべきかについて、「積極的に助言や指導を行うべき」とした回答が半数近くになったが、「危険な空家に限って行うべき」とした回答も4割となった。
- ・NPO法人こおりやま空家バンクや空家等に関する支援制度について、9割の方が「知らない」としており、認知度向上のため、情報の発信を工夫していく必要がある。
- ・「新築住宅を選びたい」とした方が6割程度となり、「既存住宅を選びたい」とした方は2割弱にとどまった。新築住宅の理由として、「間取りやデザインの自由度」、「耐震性などの品質面」の割合が高くなっており、これらの項目は既存住宅を活用していくためのポイントにもなってくると考えられる。
- ・市営住宅の定期借家制度について、9割以上の方が「知らなかった」としており、制度の周知を十分におこなっていく必要がある。利用が低調な理由に建物のことだけでなく入居期間など制度の条件に関する意見もあったことから制度の条件も含め検討を行っていく必要がある。

第1章 空家について

問1 どのような空家を見かけますか？（複数選択可）

（回答者：329人）



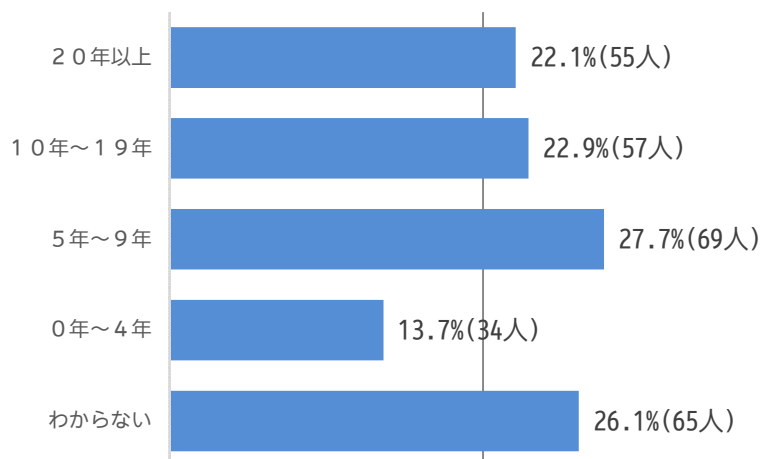
「その他」を選択した方の主な意見

- ・間違いなく空き家だと分かっている家は近くにはないが、住んでいるのか分からないような家は通勤路の途中にある。

40.1%の方が「建物が破損しており、リフォームしないと利用が難しいと思われる空家」と回答。次いで、「維持管理がなされていないが、利用できそうな空家」38.3%、「老朽化が進み、これ以上利用が難しいと思われる空家」35.3%となっている。一方で24.3%は「空家は見かけない」と回答している。

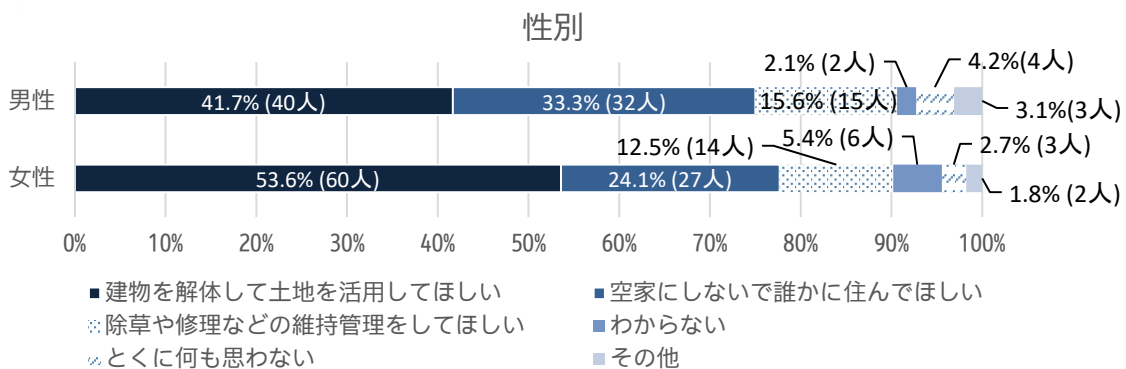
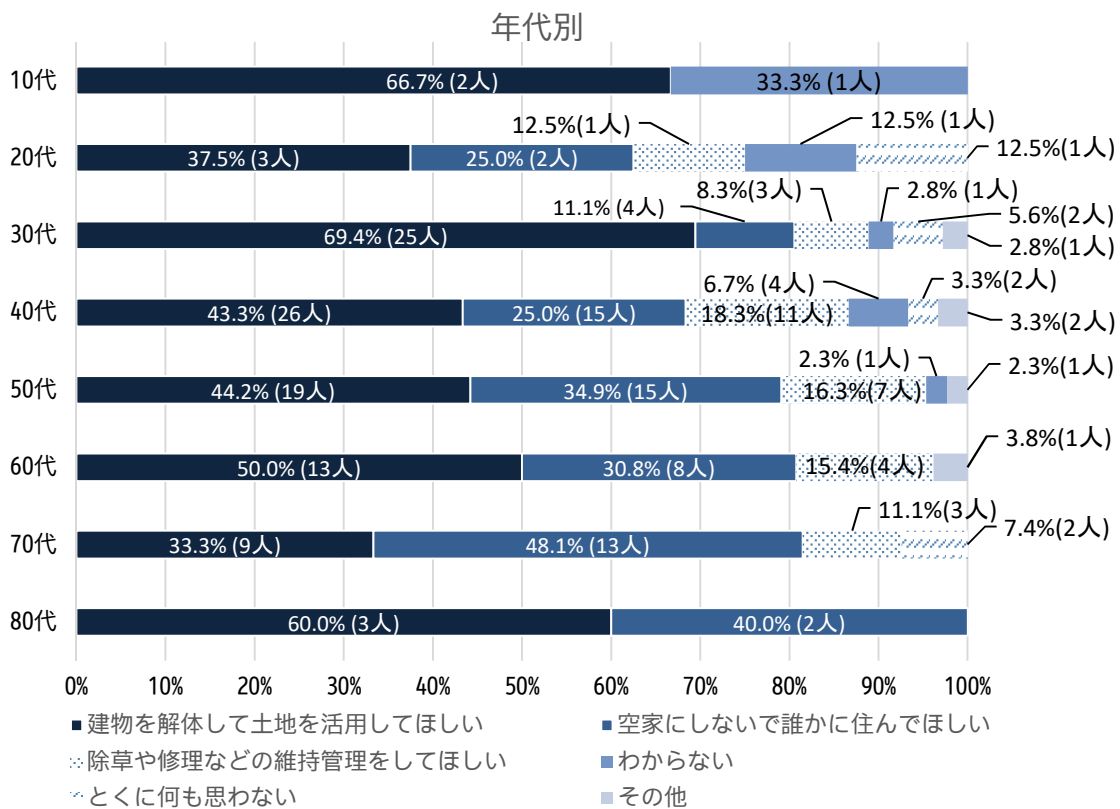
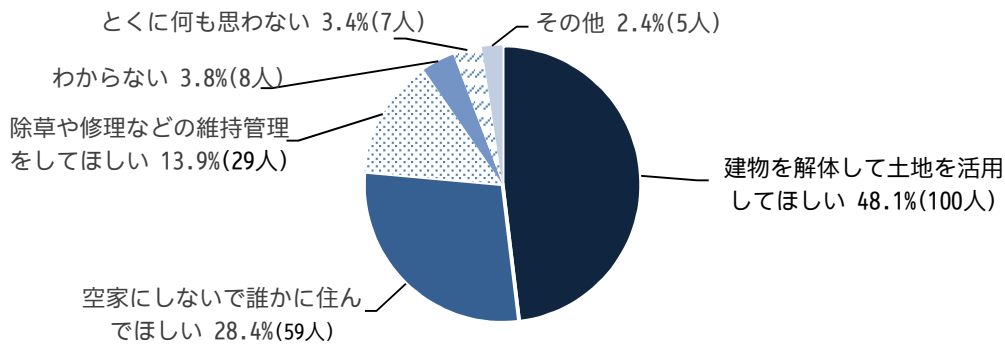
問2 問1で「空家は見かけない」以外を選択した方にお伺いします。お気づきの空家は 何年ぐらい空家の状態ですか？（複数選択可）

（回答者：249人）



空家を見かけた方のうち、27.7%の方が「5年～9年」と回答。次いで、「10年～19年」22.9%、「20年以上」22.1%、「0年～4年」13.7%となっており、「わからない」とする回答が26.1%となっている。

問3 問1で「空家は見かけない」以外を選択した方にお伺いします。空家をどのようにしてほしいですか？（1つ選択）
（回答者：208人）



「その他」を選択した方の主な意見

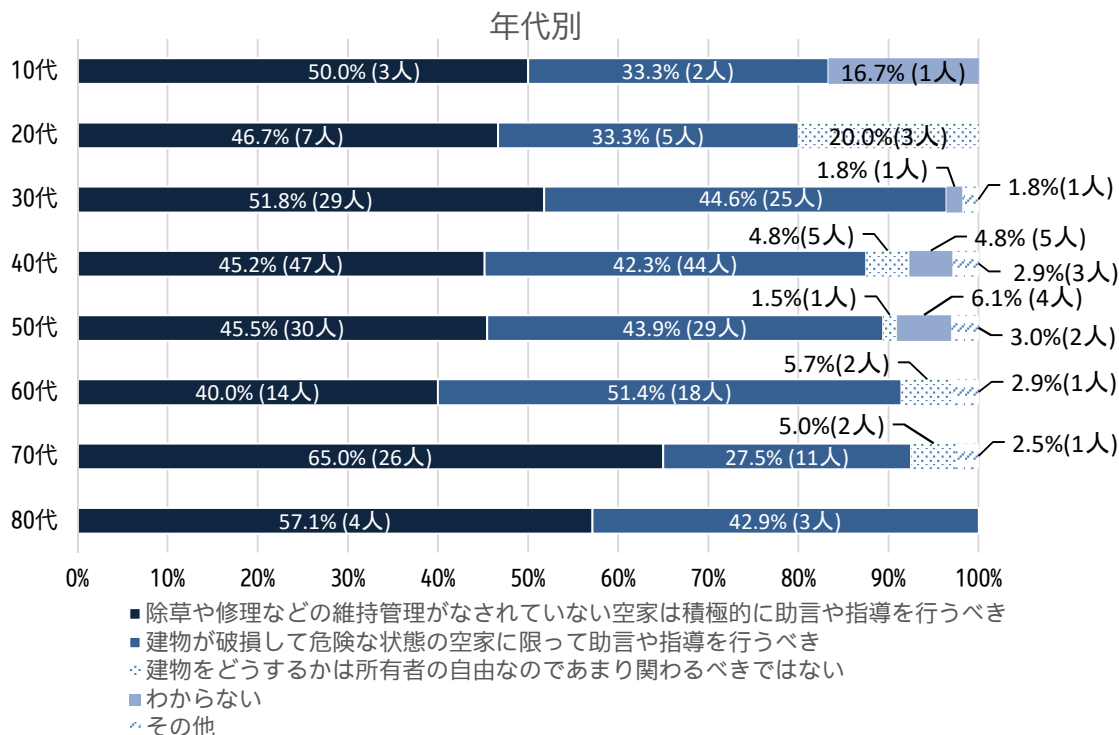
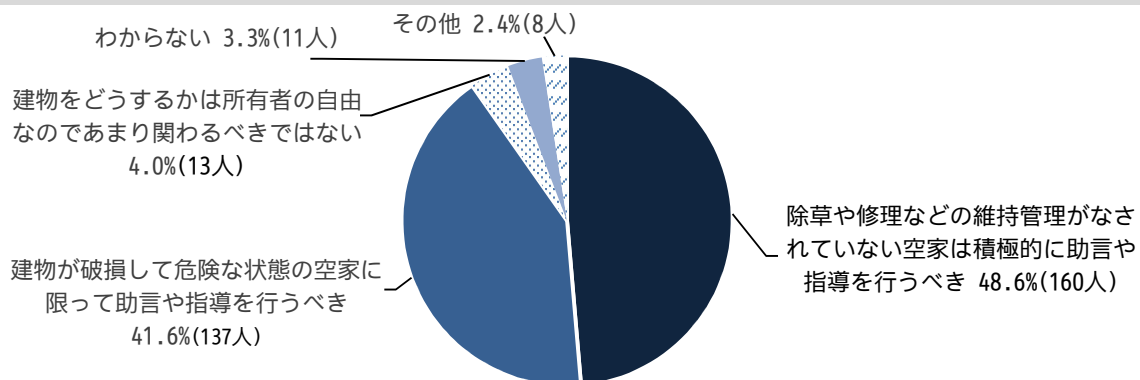
- ・ その場所にあった対応をしてほしい。
- ・ 空き家の状態によると思うので一概に言えない。
- ・ まずは、更地にして活用はなりゆき。活用ありきではない。
- ・ 行政が買い取って必要な人に払い下げてほしい。
- ・ 自殺とかがあった家と聞いているので解体しないと難しいかも・・・。

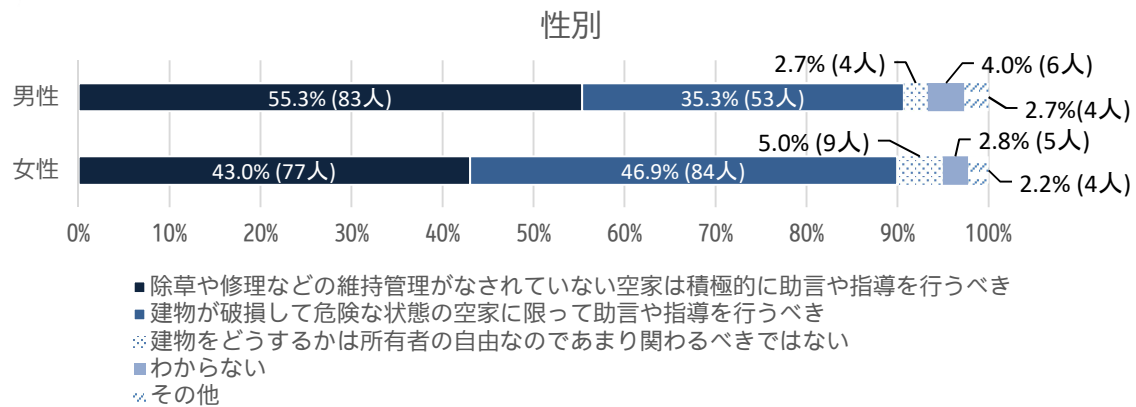
空家を見かけた方のうち、48.1%の方が「建物を解体して土地を活用してほしい」と回答。次いで、「空家にしないで誰かに住んでほしい」28.4%、「除草や修理などの維持管理をしてほしい」13.9%となっている。

年代別では、30代で「建物を解体して土地を活用してほしい」と回答した割合が他の年代より高くなっている。

空家をどのようにしてほしいかについて、「解体して土地を活用」や「誰かに住んでほしい」とした利活用等を望む回答が7割以上となった。

問4 行政がどのように空家に対応すべきと考えますか？（1つ選択）（回答者：329人）





「その他」を選択した方の主な意見

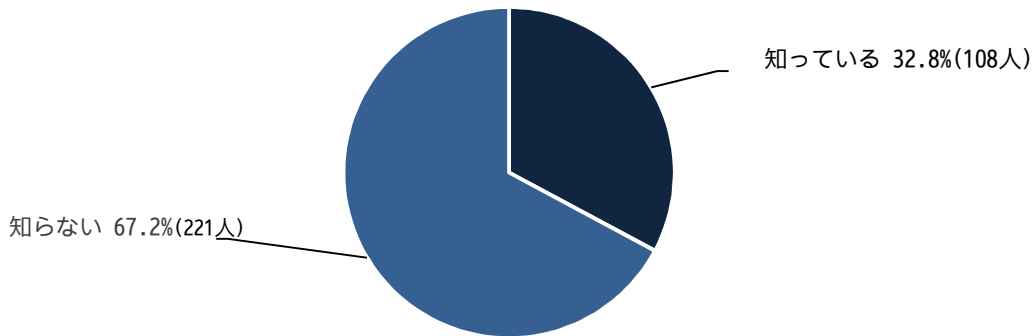
- ・助言したとしても資金不足かもしれない。買取し再利用してほしい。
- ・行政が管理する。（持ち主が望んでいる時）
- ・維持管理をする補助金や手助けをするべき。
- ・となり近所に迷惑をかける状態や苦情相談がある場合のみ、行政の助言や指導が必要。
- ・空き家解体時の補助金。
- ・空き家を有効活用できるよう家主を支援したらどうか。
- ・福祉施設や住宅としての再利用への推進。
- ・空き家であることを認識し、近隣の迷惑度に応じた対応をすべきである。

48.6%の方が「除草や修理などの維持管理がなされていない空家は積極的に助言や指導を行うべき」と回答。次いで、「建物が破損して危険な状態の空家に限って助言や指導を行うべき」41.6%となっている。「あまり関わるべきでない」は、4.0%にとどまった。

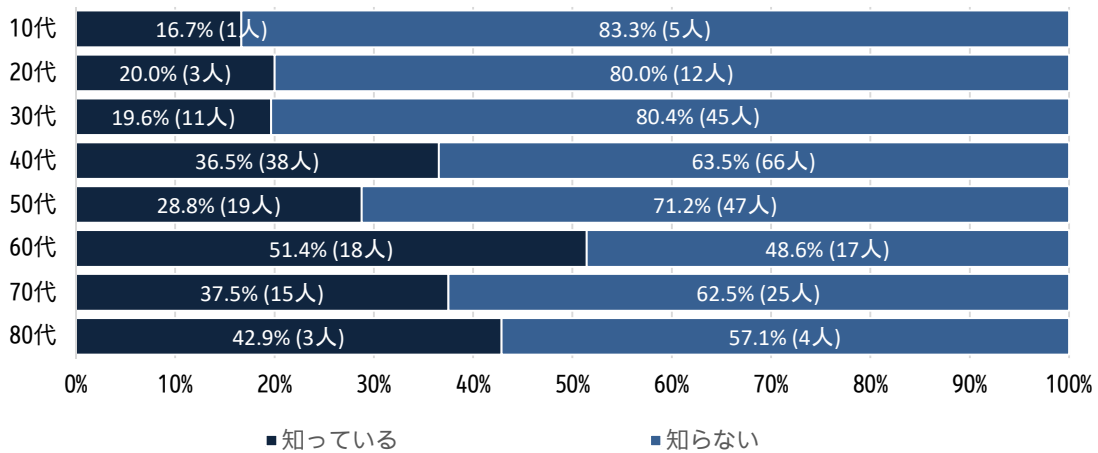
性別では、男性は、「積極的に助言や指導を行うべき」の割合が女性より12.3ポイント高いが、女性は「危険な状態の空家に限って助言や指導を行うべき」の方が男性より11.6ポイント高くなっている。

行政がどのように空家に対応すべきかについて、「積極的に助言や指導を行うべき」とした回答が半数近くになったが、「危険な空家に限って行うべき」とした回答も4割となった。

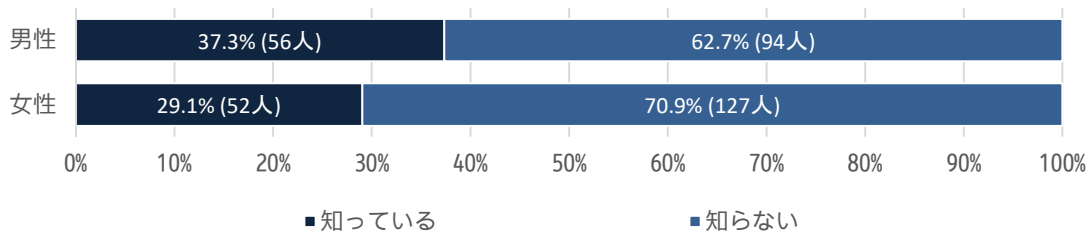
問5 平成27年5月に空家に関する法律(空家等対策の推進に関する特別措置法)が施行されたことをご存知ですか？(1つ選択) (回答者：329人)



年代別

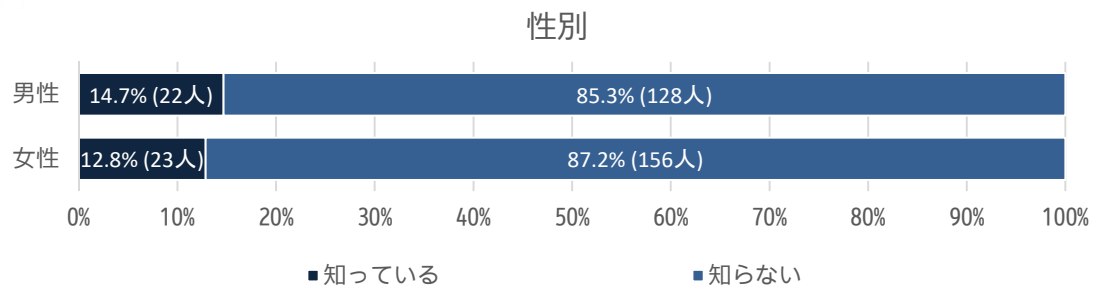
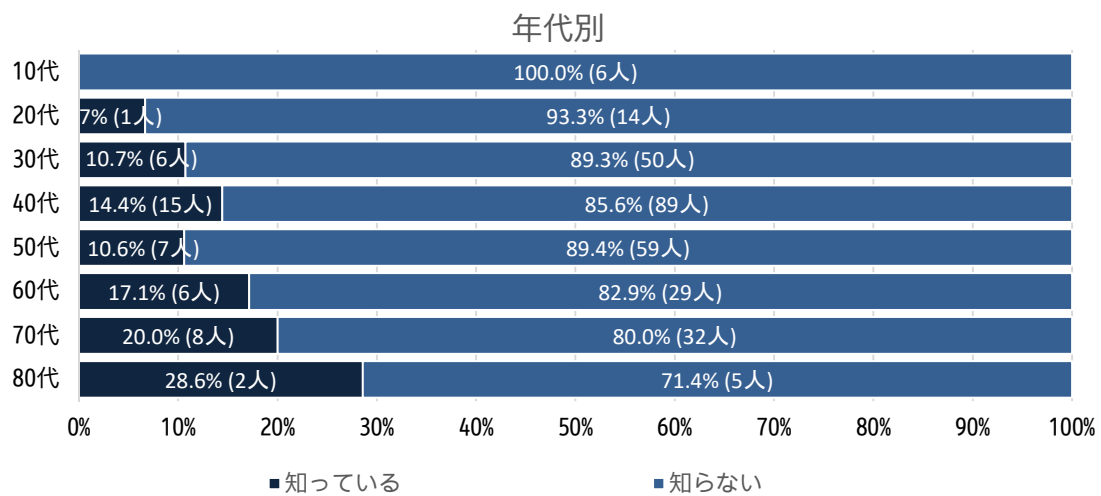
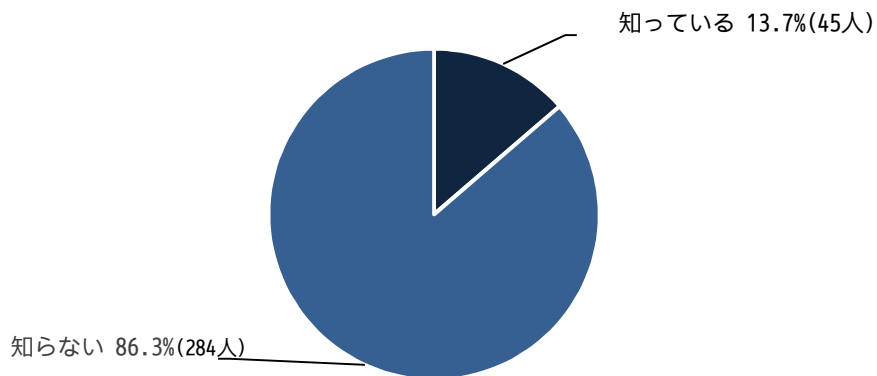


性別



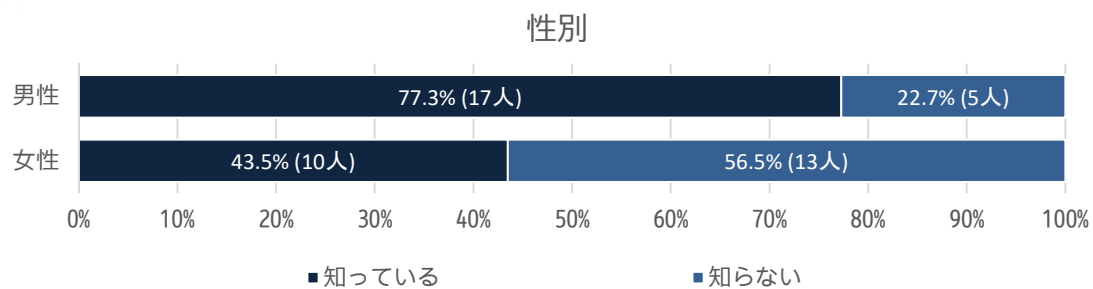
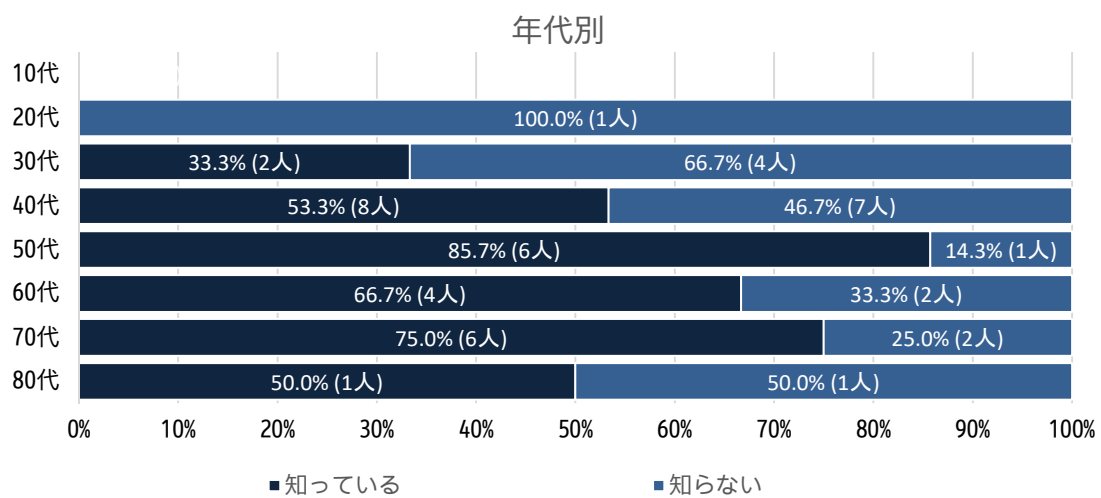
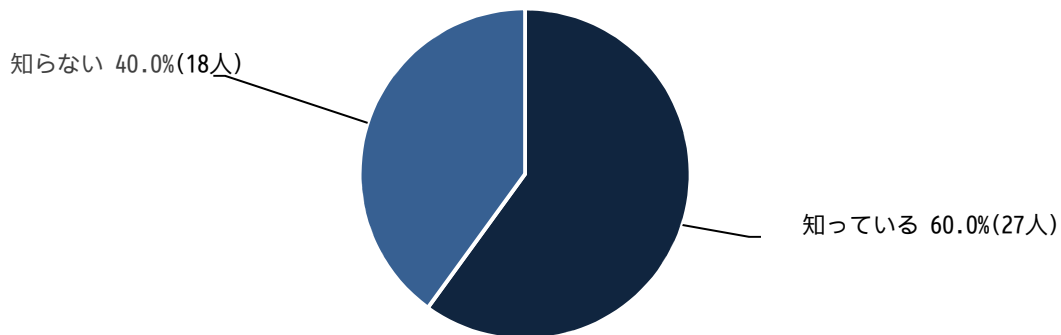
空家に関する法律について、32.8%の方が「知っている」と回答。
 年代別では、60代が51.4%で他の年代より高くなっている。
 性別では、男性の方が「知っている」割合が女性より8.2ポイント高い。

問6 空家に関する法律ではそのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態等の空家を「特定空家」としていますが、特定空家という言葉をご存知ですか？（1つ選択）
 （回答者：329人）



特定空家について、13.7%の方が「知っている」と回答。
 年代が高くなると「知っている」割合が高くなる傾向となっている。

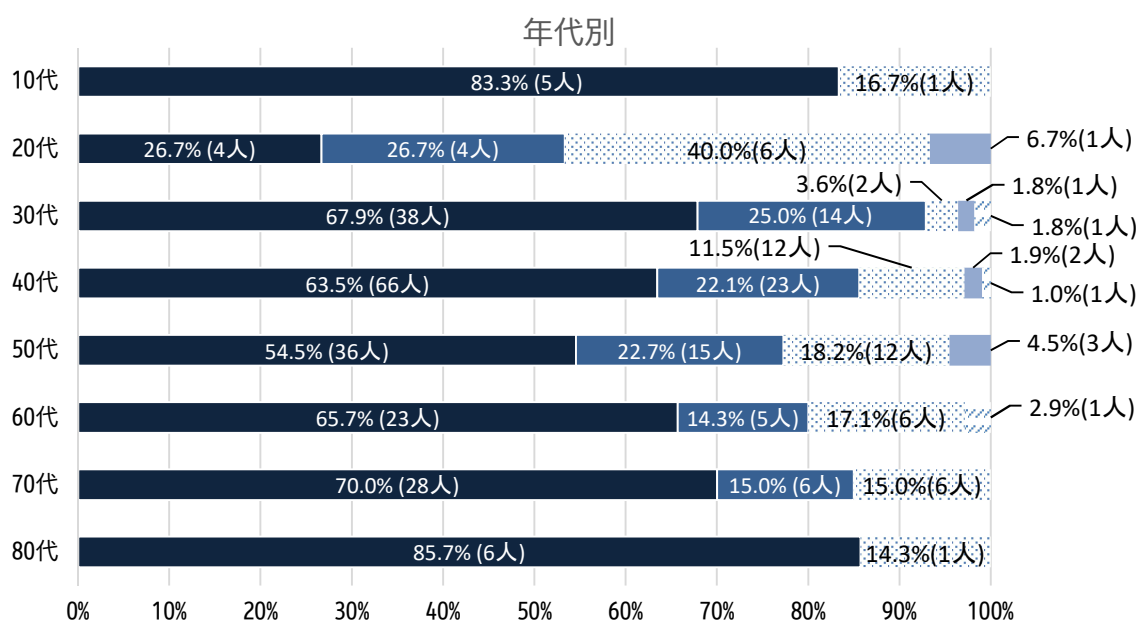
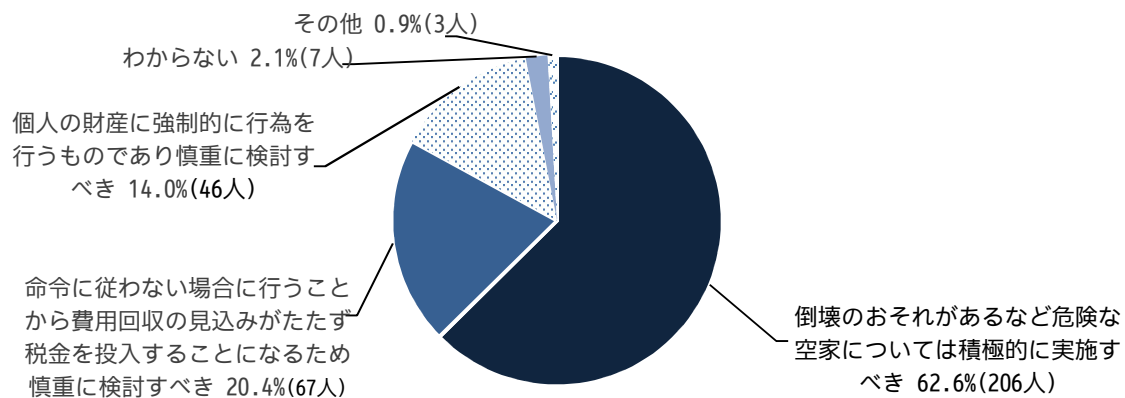
問7 問6で「知っている」を選択した方にお伺いします。特定空家に該当し改善等の勧告を受けると固定資産税等の住宅用地の特例が受けられなくなり、土地の固定資産税等の税額が上がることとなりますが、このことをご存知ですか？（1つ選択）
（回答者：45人）



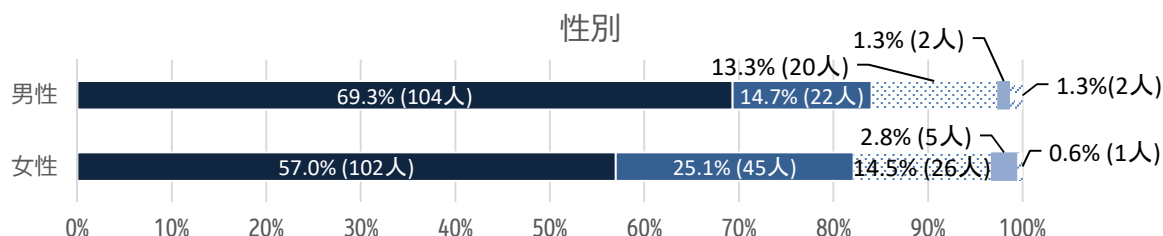
特定空家を「知っている」と回答した方のうち60.0%が「改善等の勧告を受けると固定資産税等の住宅用地の特例が受けられなくなることを知っている」と回答。
性別では、男性は「知っている」と回答した割合の方が「知らない」と回答した割合より高いが、女性は「知らない」と回答した割合の方が高い。

問8 行政が所有者に代わって強制的に解体工事などを行う代執行についてどう考えますか？（1つ選択）

（回答者：329人）



- 倒壊のおそれがあるなど危険な空家については積極的に実施すべき
- 命令に従わない場合に行うことから費用回収の見込みがたたず税金を投入することになるため慎重に検討すべき
- ※ 個人の財産に強制的に行為を行うものであり慎重に検討すべき
- わからない
- ※ その他



- 倒壊のおそれがあるなど危険な空家については積極的に実施すべき
- 命令に従わない場合に行うことから費用回収の見込みがたたず税金を投入することになるため慎重に検討すべき
- ※ 個人の財産に強制的に行為を行うものであり慎重に検討すべき
- わからない
- ※ その他

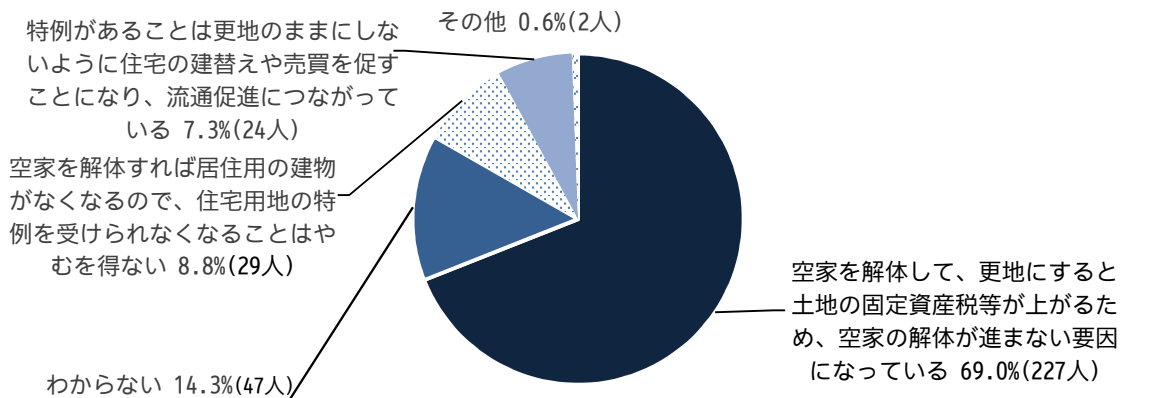
「その他」を選択した方の主な意見

- ・倒壊の恐れのある空き家は積極的に壊してほしいが、そこに税金が多く投入されることになるのはやめてほしい。
- ・倒壊のおそれがあれば積極的に執行してほしいが、思い入れなど原因には寄り添うべき。
- ・空き家が要らない人もいる。行政で買い取って有効利用する。

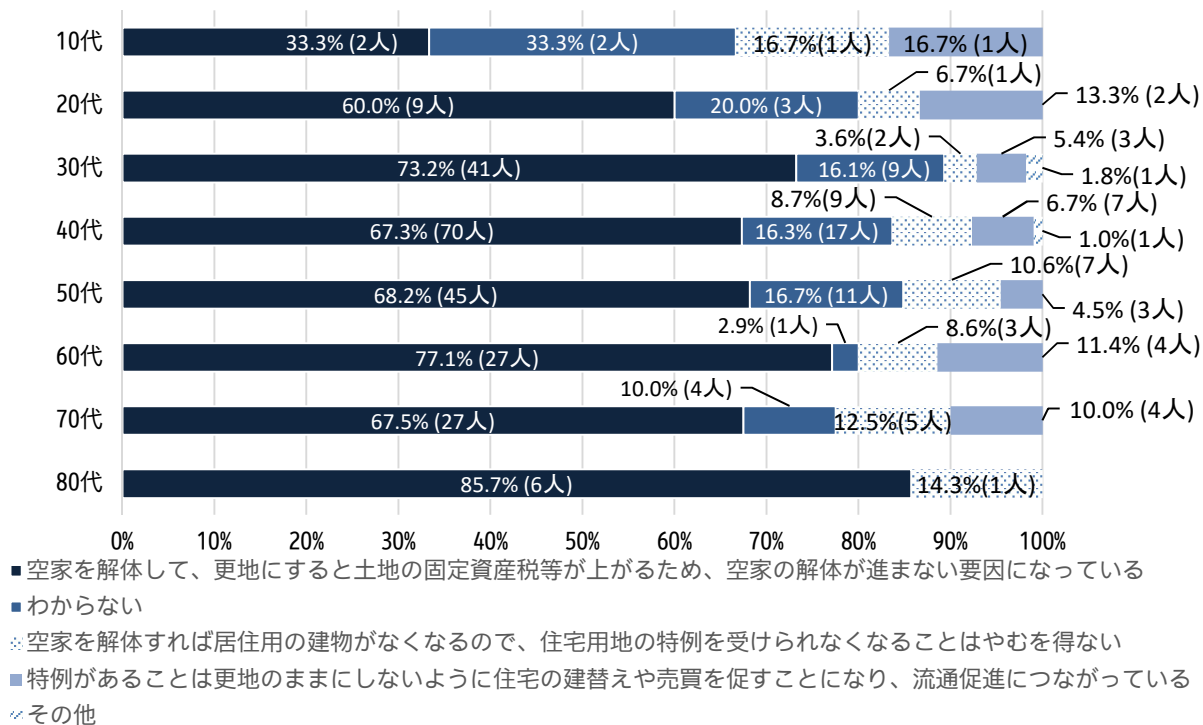
62.6%の方が「倒壊のおそれがあるなど危険な空家については積極的に実施すべき」と回答。次いで、「税金を投入することになるため慎重に検討すべき」20.4%、「個人の財産に強制的に行為を行うものであり慎重に検討すべき」14.0%となっている。

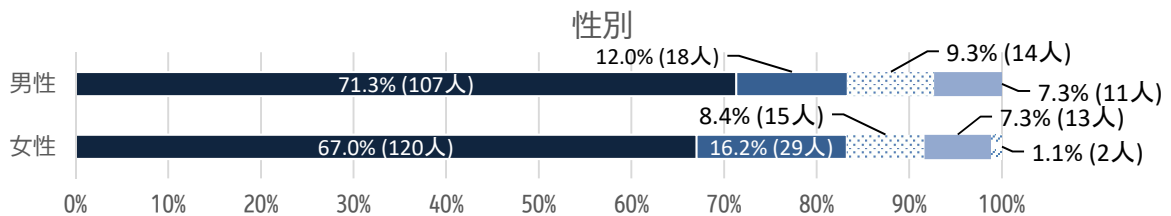
性別では、男性は、「積極的に実施すべき」の割合が女性より12.3ポイント高いが、女性は「税金を投入することになるため慎重に検討すべき」の割合が男性より10.4ポイント高くなっている。

問9 住宅の土地は、特例により固定資産税等の税金が1/3～1/6程度に軽減されていますが、住宅を解体して、更地の状態にすると特例が受けられなくなり、土地の固定資産税等の税金が上がることとなります。空家対策とこの住宅用地の特例の関係についてどう考えますか？（1つ選択）
（回答者：329人）



年代別





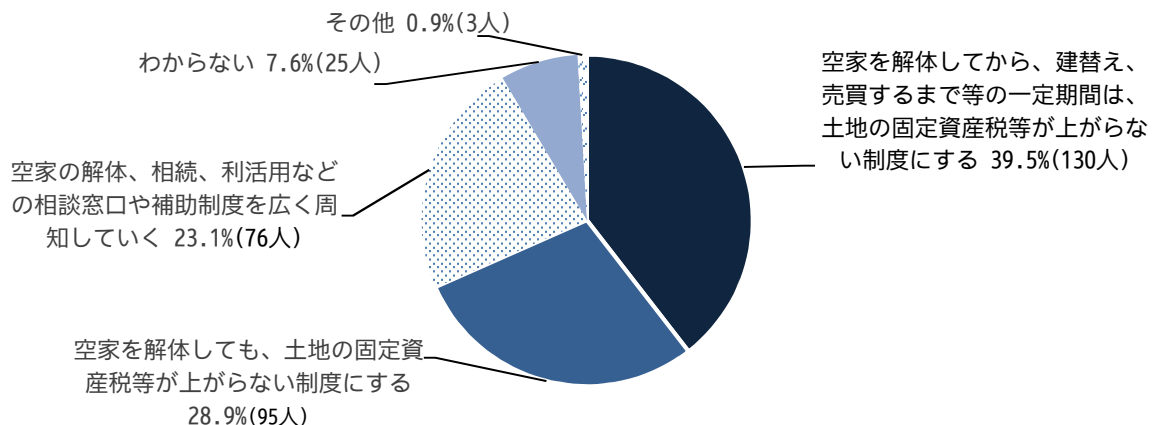
- 空家を解体して、更地にすると土地の固定資産税等が上がるため、空家の解体が進まない要因になっている
- わからない
- ※ 空家を解体すれば居住用の建物がなくなるので、住宅用地の特例を受けられなくなることはやむを得ない
- 特例があることは更地のままにしないように住宅の建替えや売買を促すことになり、流通促進につながっている
- ※ その他

「その他」を選択した方の主な意見

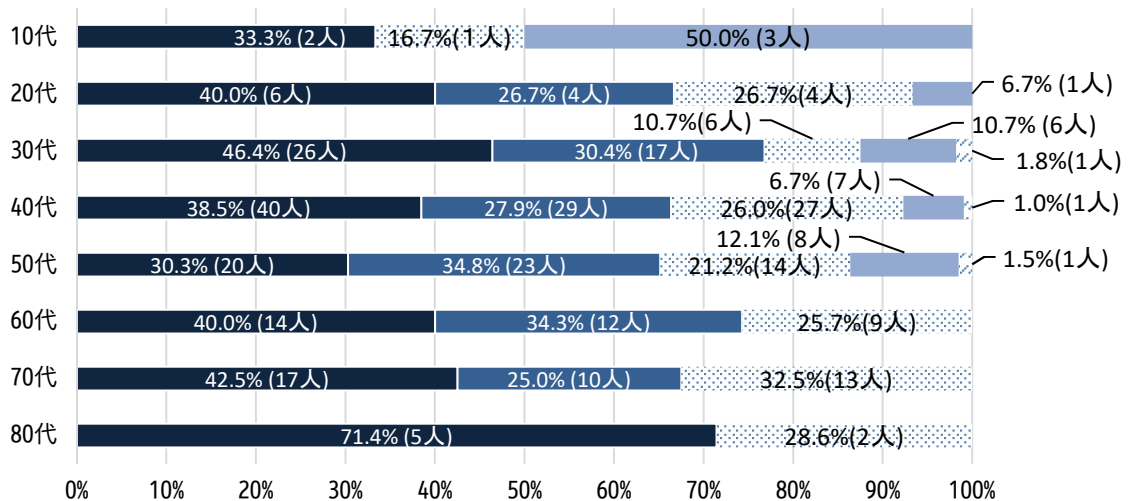
- ・ 空き家の持ち主が全員その特例を知っているわけではないと思う。
- ・ そもそも税金は関係なく、空き家の処理が面倒で放置されているのではないかな。

69.0%の方が「空家を解体して、更地にすると土地の固定資産税等が上がるため、空家の解体が進まない要因になっている」と回答。次いで、「わからない」14.3%、「空家を解体すれば居住用の建物がなくなるので、住宅用地の特例を受けられなくなることはやむを得ない」8.8%となっている。
 「特例があることは更地のままにしないように住宅の建替えや売買を促すことになり、流通促進につながっている」は7.3%となっている。

問10 空家の解体や活用を促し、建物や土地が利用されるように流動性を確保していくにはどうすればよいと思いますか？（1つ選択）
 （回答者：329人）

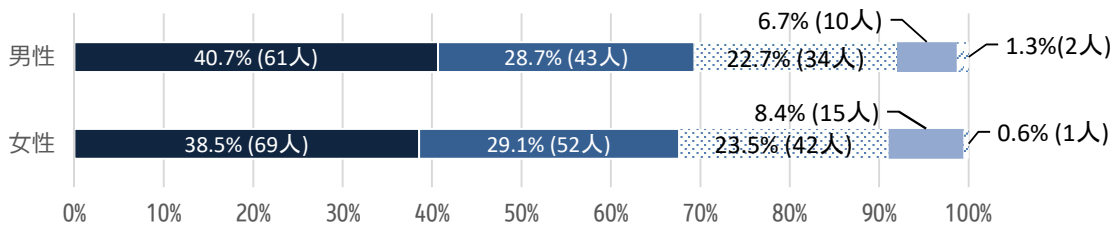


年代別



- 空家を解体してから、建替え、売買するまで等の一定期間は、土地の固定資産税等が上がらない制度にする
- 空家を解体しても、土地の固定資産税等が上がらない制度にする
- ◇ 空家の解体、相続、利活用などの相談窓口や補助制度を広く周知していく
- わからない
- ◇ その他

性別



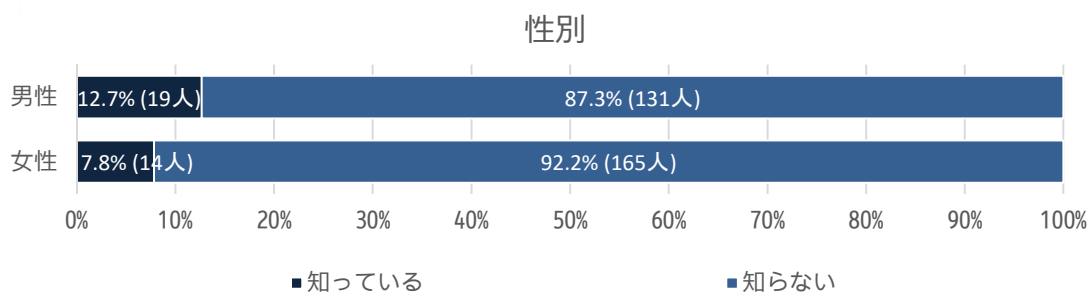
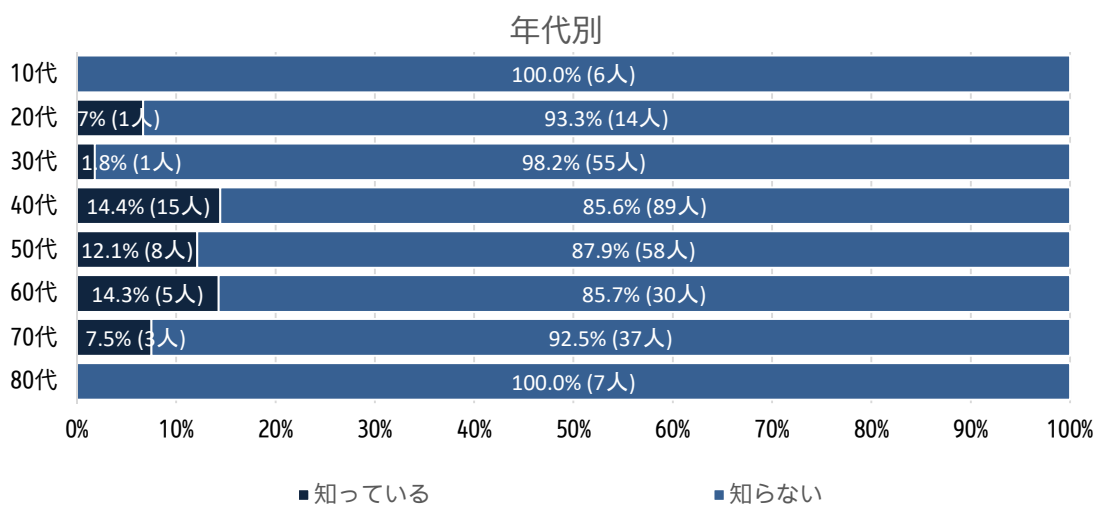
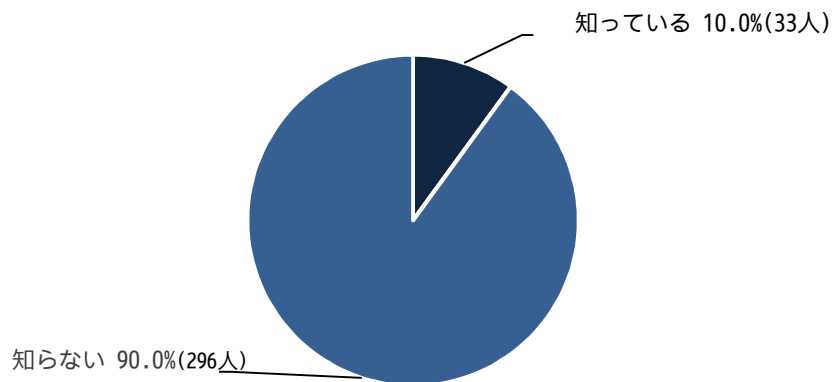
- 空家を解体してから、建替え、売買するまで等の一定期間は、土地の固定資産税等が上がらない制度にする
- 空家を解体しても、土地の固定資産税等が上がらない制度にする
- ◇ 空家の解体、相続、利活用などの相談窓口や補助制度を広く周知していく
- わからない
- ◇ その他

「その他」を選択した方の主な意見

- 税金を集めているのだから資産価値を見極め国が買い取る。
- 家を購入する時点で、先に支払っておく制度にする。(敷金みたいに)
- まだ使える家ならば市でリノベーション支援をして安く貸してはどうか。(戸建てなら借りたい)

39.5%の方が「空家を解体してから、建替え、売買するまで等の一定期間は、土地の固定資産税等が上がらない制度にする」と回答。次いで、「空家を解体しても、土地の固定資産税等が上がらない制度にする」28.9%、「空家の解体、相続、利活用などの相談窓口や補助制度を広く周知していく」23.1%となっている。

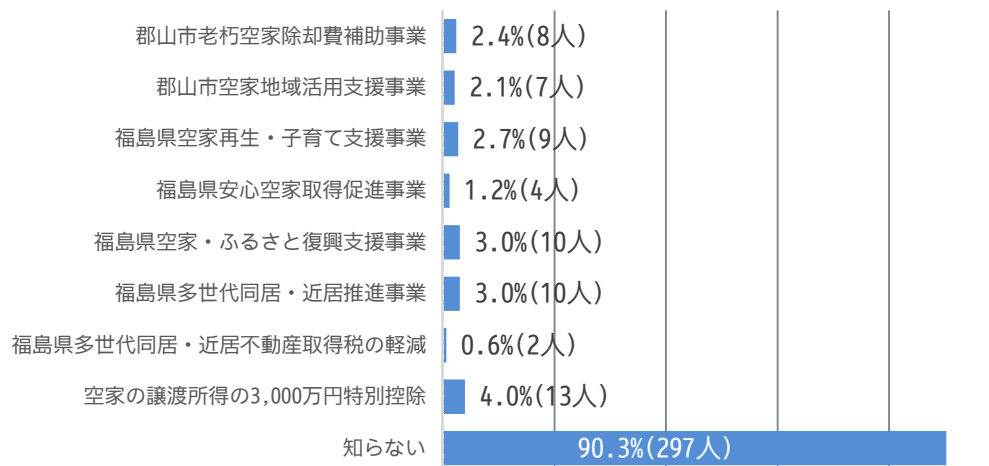
問11 民間の建築・不動産関係団体からなるNPO法人こおりやま空家バンクでは郡山市と協定を締結し、空家に関する情報提供や空家の利活用に関する相談に無料に対応していますが、このことをご存知ですか？（1つ選択） （回答者：329人）



NPO法人こおりやま空家バンクによる情報提供や利活用の相談対応について、10.0%の方が「知っている」と回答。
 年代別では、40代が14.4%で他の年代よりも高くなっている。
 性別では、男性の方が知っている割合が4.9ポイント高い。
 NPO法人こおりやま空家バンクによる情報提供や利活用の相談対応について、9割の方が「知らない」としており、認知度向上のため、情報の発信を工夫していく必要がある。

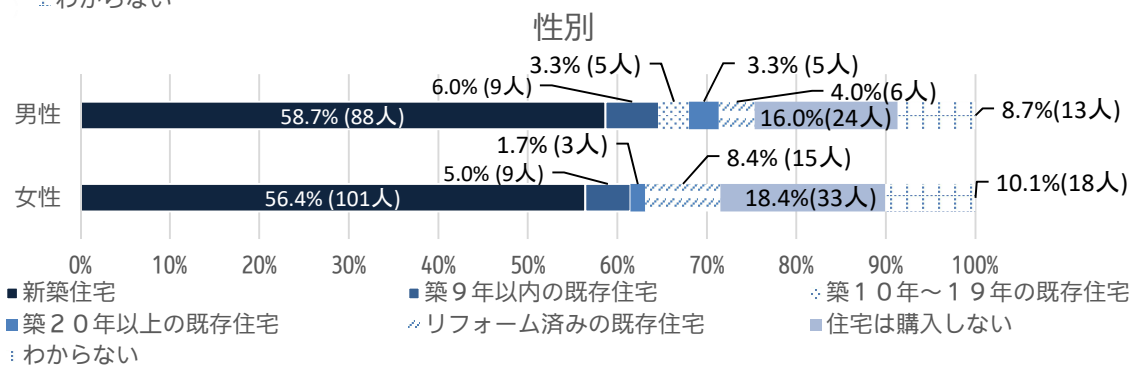
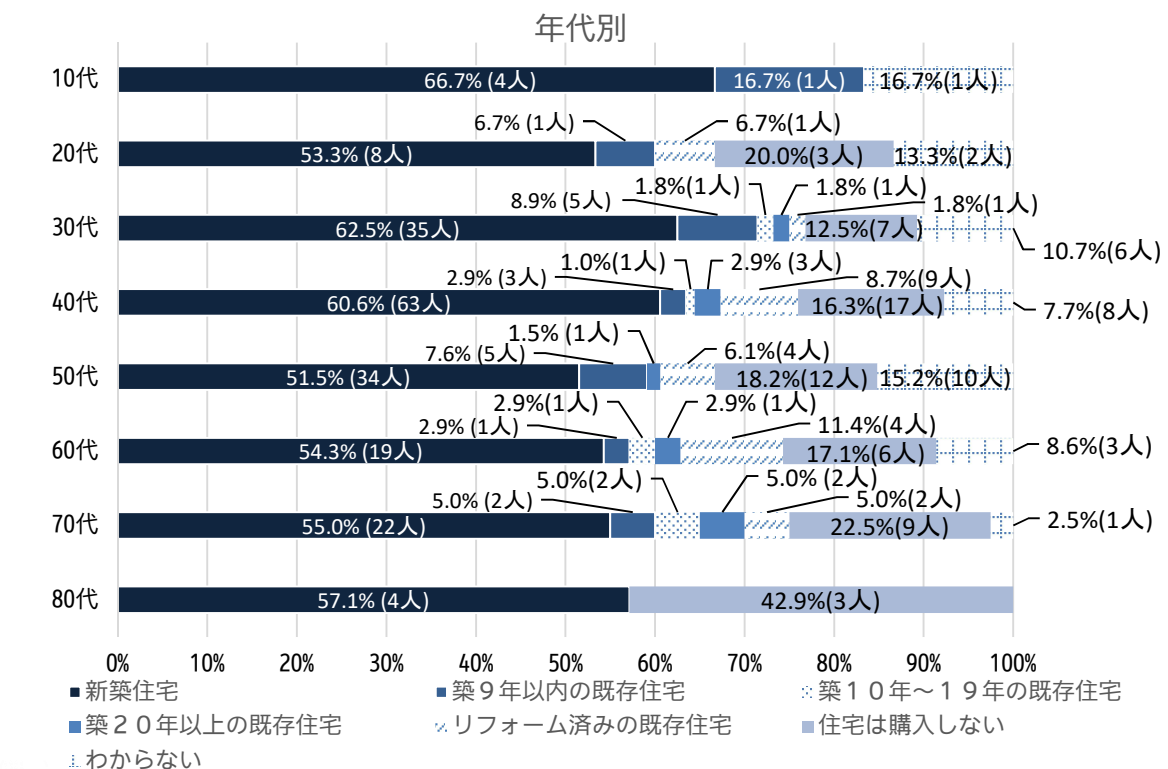
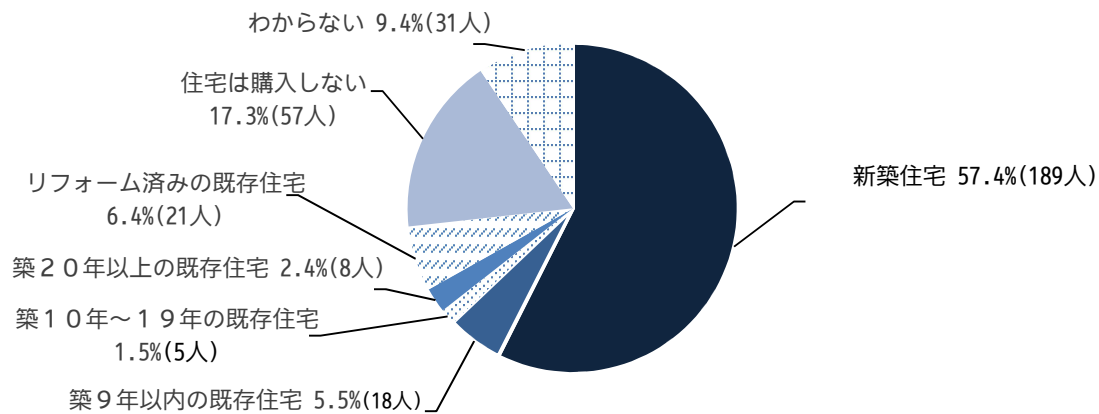
問12 福島県や郡山市などで空家等に関する支援制度を設けていますが、ご存知の制度はありますか？（複数選択可）
（回答者：329人）

選択肢	回答数
郡山市老朽空家除却費補助事業 （老朽度合が高い空家の解体工事費最大50万円補助）	8人
郡山市空家地域活用支援事業 （交流施設などとしての空家の改修工事費最大100万円補助）	7人
福島県空家再生・子育て支援事業 （子育て世帯の空家バンク物件リフォーム等費用最大190万円補助）	9人
福島県安心空家取得促進事業 （空家バンク物件の既存住宅状況調査費用最大37,500円補助）	4人
福島県空家・ふるさと復興支援事業 （移住者等の空家リフォーム等費用最大190万円補助）	10人
福島県多世代同居・近居推進事業 （3世代以上の同居近居の住宅取得等費用最大110万円補助）	10人
福島県多世代同居・近居不動産取得税の軽減 （3世代以上の同居近居の不動産取得税最大30万円軽減）	2人
空家の譲渡所得の3,000万円特別控除 （相続から3年以内に家屋及び敷地の譲渡で所得税等を軽減）	13人
知らない	297人



90.3%の方が「知らない」と回答。
 知っているという回答があった中で最も割合が高いものでも「空家の譲渡所得の3,000万円特別控除」の4.0%となっている。
 空家等に関する支援制度について、9割の方が「知らない」としており、認知度向上のため、情報の発信を工夫していく必要がある。

問13 ご自身が住宅を購入する場合、新築住宅と既存住宅どちらを選びたいですか？(選びましたか) (1つ選択) (回答者：329人)

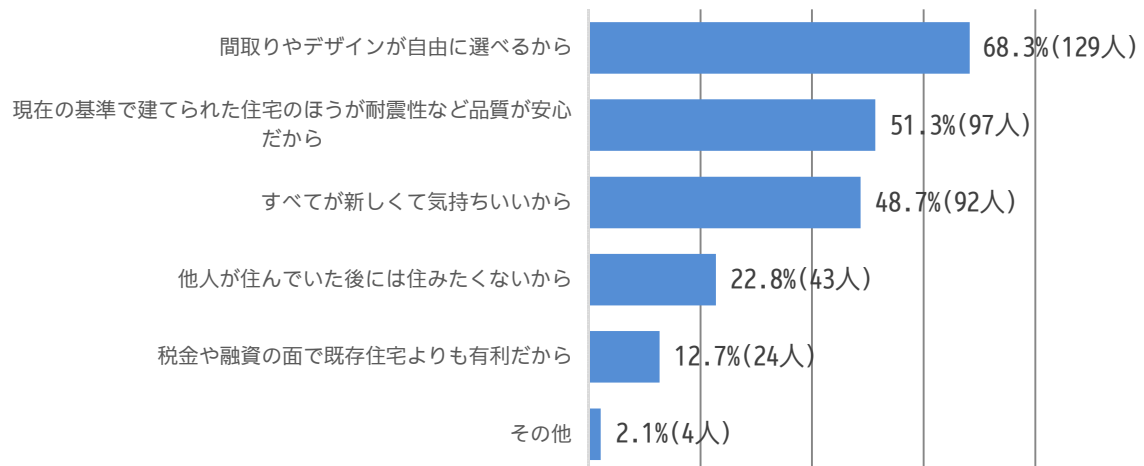


57.4%の方が、「新築住宅」と回答。「既存住宅」と回答した方は15.8%となっている。既存住宅の中では、「リフォーム済み」が6.4%、次いで「築9年以内」5.5%となっている。一方で「住宅は購入しない」と回答した方は17.3%となっている。

「新築住宅を選びたい」とした方が6割程度となり、「既存住宅を選びたい」とした方は2割弱にとどまった。新築住宅の理由として、「間取りやデザインの自由度」、「耐震性などの品質面」の割合が高くなっており、これらの項目は既存住宅を活用していくためのポイントにもなってくると考えられる。

問14 問13で「新築住宅」を選択した方にお伺いします。理由は何ですか？
(複数選択可)

(回答者：189人)



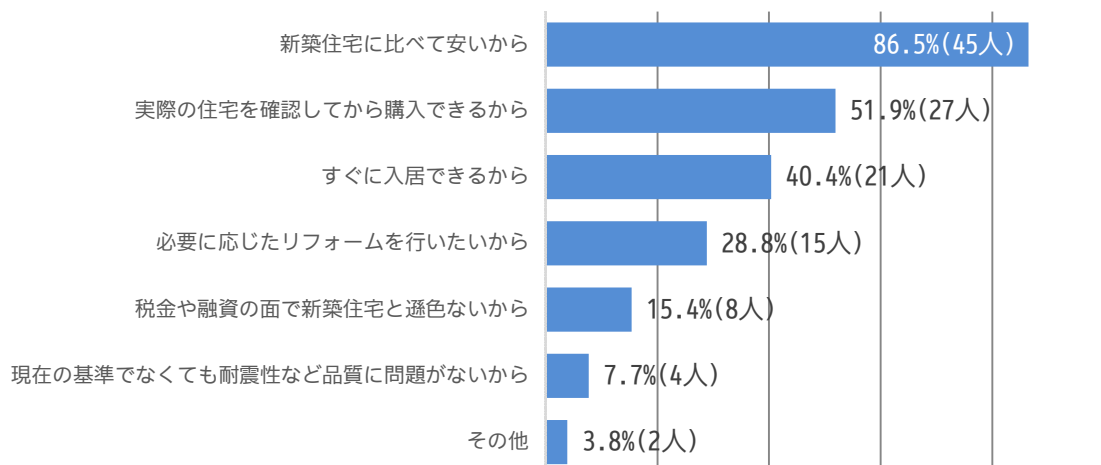
「その他」を選択した方の主な意見

- ・リフォームされた家の近所（町内会など）は古くから住んでいる方が多くお付き合いが大変。
- ・排水管、断熱材等目に見えない部分があるため。
- ・既存住宅を新築住宅より安く購入しても、どこか直したり修繕費がかかるイメージがあるから。

新築住宅を選択した方のうち68.3%が、「間取りやデザインが自由に選べるから」と回答。次いで「現在の基準で建てられた住宅のほうが耐震性など品質が安心だから」51.3%、「すべてが新しく気持ちいいから」48.7%となっている。

問15 問13で「既存住宅」を選択した方にお伺いします。理由は何ですか？
(複数選択可)

(回答者：52人)



「その他」を選択した方の主な意見

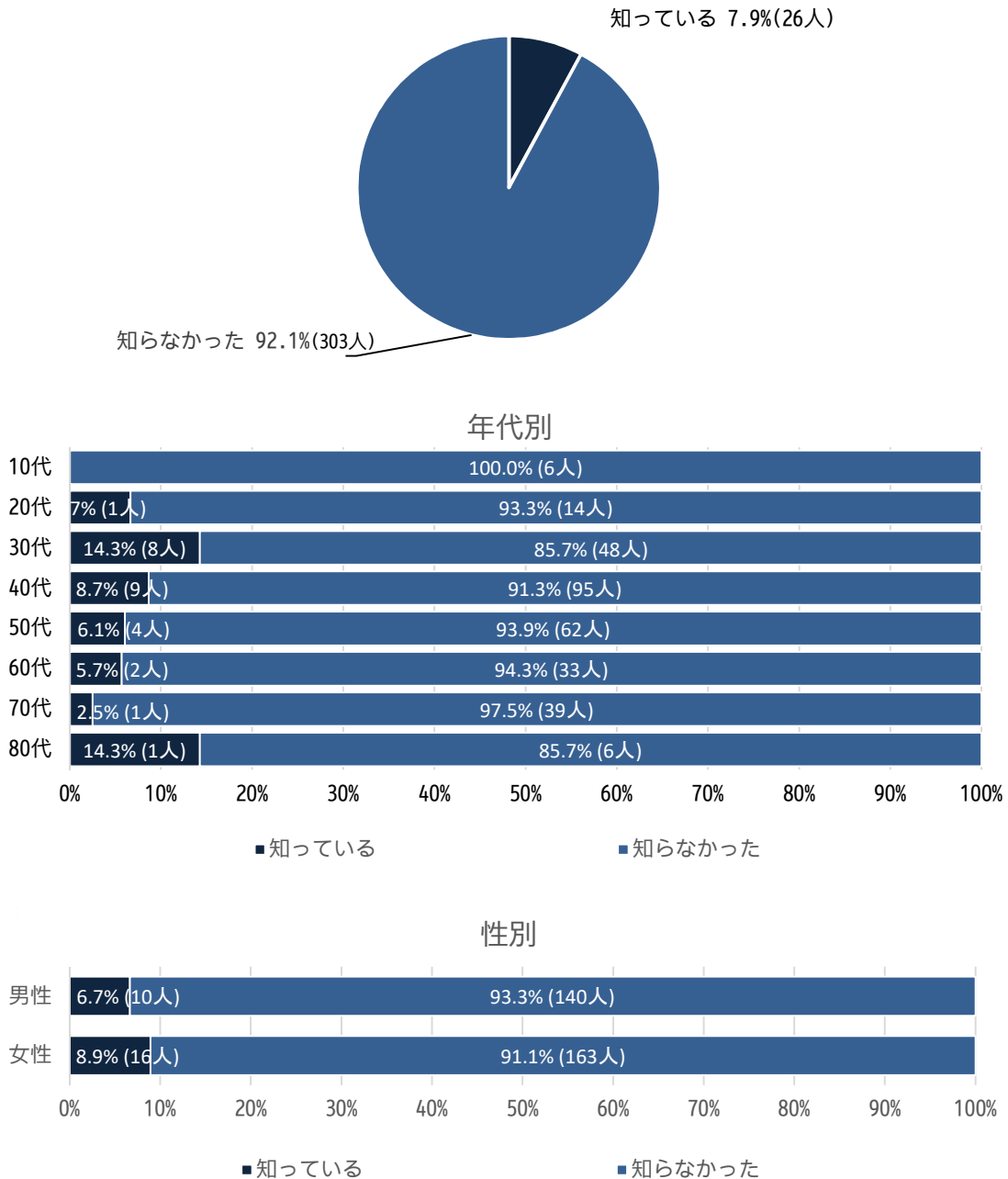
- ・住みたい土地で探せる。
- ・シックハウス症候群の心配がない。

既存住宅を選択した方のうち86.5%が、「新築住宅に比べて安いから」と回答。次いで「実際の住宅を確認してから購入できるから」51.9%、「すぐに入居できるから」40.4%となっている。

第2章 市営住宅の定期借家制度について

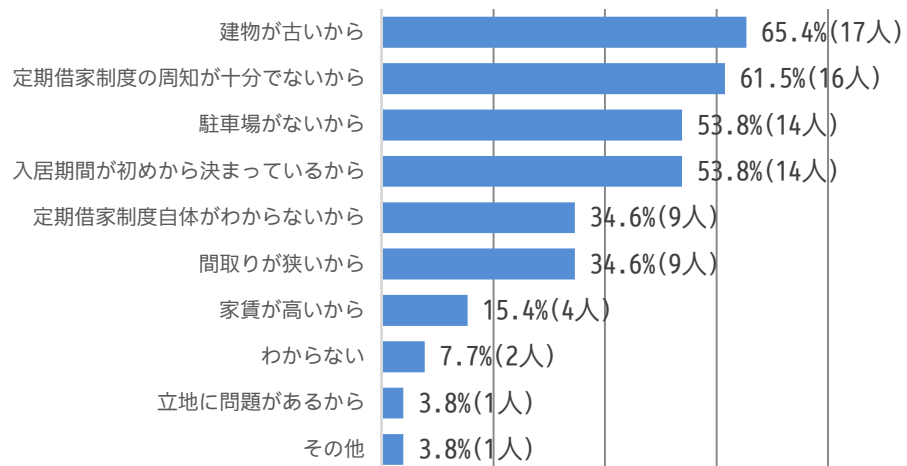
問16 市営住宅の定期借家の制度をご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：329人）



市営住宅の定期借家制度について、7.9%の方が「知っている」と回答。
年代別では、30代と80代が14.3%で他の年代より高くなっている。
性別では、女性の方が知っている割合が2.2ポイント高い。
市営住宅の定期借家制度について、9割以上の方が「知らなかった」としており、制度の周知を十分におこなっていく必要がある。

問17 問16で「知っている」を選択した方にお伺いします。市営住宅の定期借家制度の利用が低調な理由はなぜだと思いますか？（複数選択可）
（回答者：26人）



「その他」を選択した方の主な意見

- ・冷暖房設備がないから。

定期借家制度を知っていると回答した方のうち65.4%が、「建物が古いから」と回答。次いで「定期借家制度の周知が十分でないから」61.5%、「駐車場がないから」、「入居期間が決まっているから」53.8%となっている。

利用が低調な理由に建物のことだけでなく入居期間など制度の条件に関する意見もあったことから制度の条件も含め検討を行っていく必要がある。

問18 問17で「立地に問題があるから」を選択した方にお伺いします。理由は何ですか？（複数選択可）
（回答者：1人）

選択肢	回答数
公共交通機関を利用しにくいから	1人
買い物に不便だから	1人
職場が遠いから	0人
学校が遠いから	0人
その他	0人

問19 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

（回答者：70人）

空家について

・ほとんど知らなくて、実際自分の事を考えると、実家の母が独居で持ち家です。万が一の事があると、自分も持ち家なので空家になります。古い家なので貸すことも難しいと思います。どうするんだろうと思いました。心配になるのは固定資産税です。色々勉強しなくてはと思いました。（60代・女性）

・空家について、行政でも色々な施策を行っていることが分かりましたので、積極的に活用して行きたいと思います。また知人にも紹介します。（40代・男性）

・自宅付近は高齢化が進み、空き家が目立ち始めてます。有効に活用できるように、民間と協力してほしいです。（50代・女性）

・空家問題は相続問題が絡み複雑だが、現実には近所の植木が道路にはみ出し、町会役員と伐採している。相続人がどこにいるか分からないので連絡もできない。ある程度の情報公開は必要では？（70代・男性）

・空き家相談窓口等をもっとPRして下さい。（60代・男性）

・震災で壊れたままの空き家や、公営住宅でもかなり古そうな建物があります。市と建築会社などが協力して建て替えや開発などを行ってはいかがでしょうか？

また、優遇される制度が全てわかりませんでした。広報、ネットなどの方法で周知してほしいです。これから結婚する若い世帯などに必要な情報だと思います。（50代・女性）

・倒壊の危険がある家は市が早急に対処すべきだと思う。市民からの情報も募集するとよいと思う。（40代・女性）

・なぜ空き家なのかも調べてほしい。所有者(相続者)不明や、所有者の経済的な理由が主かもしれないが、思い出などで壊せない方もいらっしゃる気がします。（40代・女性）

・今回の調査に関しては、関心が無かったせいもあり、施策のほとんどを知りませんでした。ただ、町内に空き家が増えていることも事実で何らかの対策が必要だと思います。（60代・男性）

・空き家対策は必要なので、市にはしっかりした対策をお願いしたい。（70代・男性）

・空き家が草むしりを放置しているだけでも、蚊が大量に発生したり蜂の巣ができて子どもがさされたりするので、その駆除などをどうにかしてもらいたいのが悩みです。（40代・男性）

・空き家対策は、防犯上、安全性（火災等）から、なるべくなくすべき、定期的な見回りが必要かと。（50代・男性）

・空き家の件とは少し違うかもしれないが、駅前に老朽化した建物が多いため、早急に取り壊し、県の中心都市にふさわしい土地利用をしてもらいたい。（10代・男性）

・全国的に空家が問題になっているので、積極的に行政が関わって利活用できる施策を市独自でも打ち出してほしいと思います。(40代・男性)

・地域活用支援事業を始めたい方向けの経費・補助等具体的事例の講座を開講し、開所できるかの判断材料を提供する。公民館の講座など一部を空家と提携し開講する。高齢者には公民館が遠い場合もあるので近くで開講し交流の機会を増やし活性化及び健康寿命を延ばせるような機会を設ける。(50代・女性)

・空き家をリフォームして身体障害者が住みやすくして貸してほしい。(50代・男性)

・郡山は、住宅を建てたい人は多いと思う。人口は増え、田や山が無くなり宅地になっているのは、周りを見れば認識出来る。若い世代に、経済的なメリットがある形で空家を再利用出来る様に、市として考える事は大切だと思う。

まずは、空家の所有者へのサポート体制が最初の課題ではないでしょうか。

(40代・男性)

・今後増加が予想される空き家対策は早急に取り組むべき課題です。より有効利用を前提とした対策を検討されたい。(80代・男性)

市営住宅について

・鶴見坦市営住宅が定期借家制度で利用されていることを知らなかった。(鶴見坦市営住宅自体は知っている)

確かに立地は良いかもしれないが、そもそも子育て世代が借りたいと思う建物かどうか疑問を感じる。(50代・女性)

・市営住宅の風呂(要リース契約)は改定すべきだと思います。現代は学生アパートでさえお風呂付の状況です。時代に合わせた契約に改定すべきだと思います。(60代・女性)

・市営住宅の定期借家制度を知っている子育て世代は少ないと思うので、学校を通じてパンフレットなどで通知していただくと良いと思います。(40代・女性)

・市営住宅の活用など知らない事が多かったので、PRの方法などいろいろな方面から調べることができたら、活用の場面がひろがるのでは？ウェブサイトなど、いろいろなところからアクセスできるような仕様にしたりなど。(50代・女性)

・第2章の定期借家制度に関して、当方該当世帯だが、初めて知った。こういった内容はニコニコこども館などの育児世代が訪れる場所に掲示するなど、もっと告知が必要だと思う。更に言えば、このご時世で車がないと生活はしにくいため、駐車場は必須だと考える。(30代・女性)

・今は高齢出産も増えており、そういう方のほうが不妊治療後だったり、補助を受けたい方もいるかと思います。40歳未満でなければ初めて子どもを産んだとしても使えない制度というのは少し差別的な感じがして悲しいです。(30代・女性)

・子どもの義務教育が終わるまで等の誓約があるのはなぜか？成人した子どもでも親にとっては子どもで、大学等に行っていたら、お金もかかるのになと思う。2LDKでは狭いとも思う。(50代・女性)

・市営住宅の定期借家制度については知りませんでした。子どもがいてこの広さと駐車場なしの条件、義務教育期間が終わるまでという条件では、この制度のメリットをあまり感じないと思いました。(30代・女性)

住宅制度等について

・今回のような設問に関して知らなかったことが多かった。周知徹底できるようにするにはどうしたらいいのかと思いました。(60代・女性)

・住宅制度を何も知らないことがわかりました。いろいろな制度があるんですね。利用する機会がありましたらきちんと理解したいと思います。(50代・女性)

2019年度まちづくりネットモニター第10回調査結果
 テーマ「郡山市公式ウェブサイトの使いやすさ等について」

ウェブサイトは、郡山市政や暮らしの手続き、イベント情報などをお知らせのほか、市内外へ向けてシティープロモーションを行う重要なツールです。2019年3月にウェブサイトをリニューアルし、スマートフォン等の携帯端末での見やすさやソーシャルメディアとの連携を拡充したほか、高齢者などに配慮したウェブアクセシビリティを強化しました。

市民の皆様の情報入手手段やウェブサイトの活用状況、市ウェブサイトへの見やすさや情報量、特設サイトへの感想などについてのご意見を把握するため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

(広聴広報課)

調査概要

- 調査期間 令和元年10月3日(木)～10月12日(土) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 159名 女性 201名)
- 回答者数 318名 (男性 145名 女性 173名)
- 回答率 88.3%

【分析】

《回答者内訳(人)》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	5	5	13	31	28	19	37	7	145
女性	2	8	44	69	35	13	2	0	173
合計	7	13	57	100	63	32	39	7	318

《情報の入手手段》

- ・42%が「インターネットのニュース」と回答

《郡山市の情報の入手について》

- ・「広報こおりやま」が73.6%、市ウェブサイトが39.3%

《市ウェブサイトへの感想について》

- ・「大変満足」「どちらかという満足」が66.6%

《市ウェブサイトへの具体的な感想について》

- ・「必要な情報が簡単に入手できる」が35.2%
- ・「必要な情報を入手するのに時間がかかる」が27.7%

《市ウェブサイトを利用するときの手段について》

- ・「スマートフォン(49.1%)」、「パソコン(43.4%)」の順に回答

《市ウェブサイトにあると便利な機能》

- ・「利用者の生活や関心に合わせて、必要な情報を自動的に配信する機能」43.7%

《広報こおりやまについて》

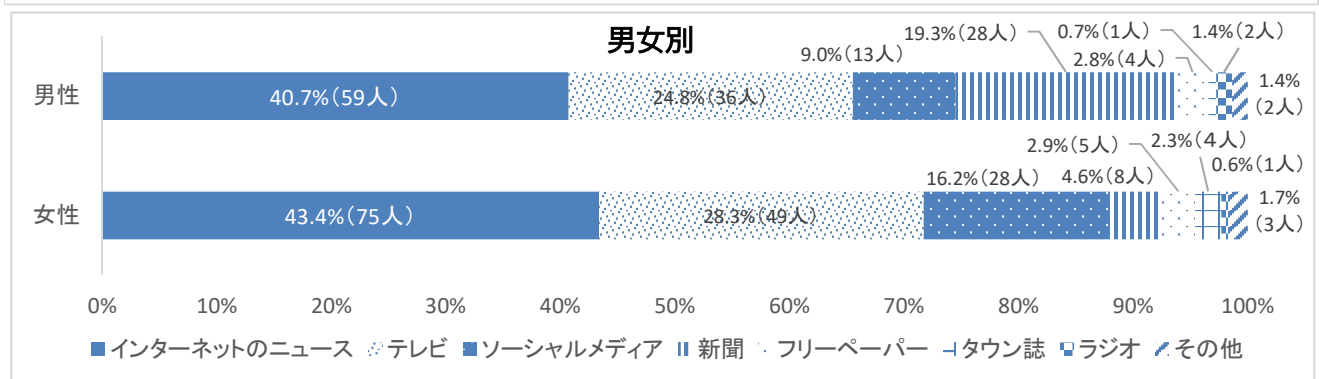
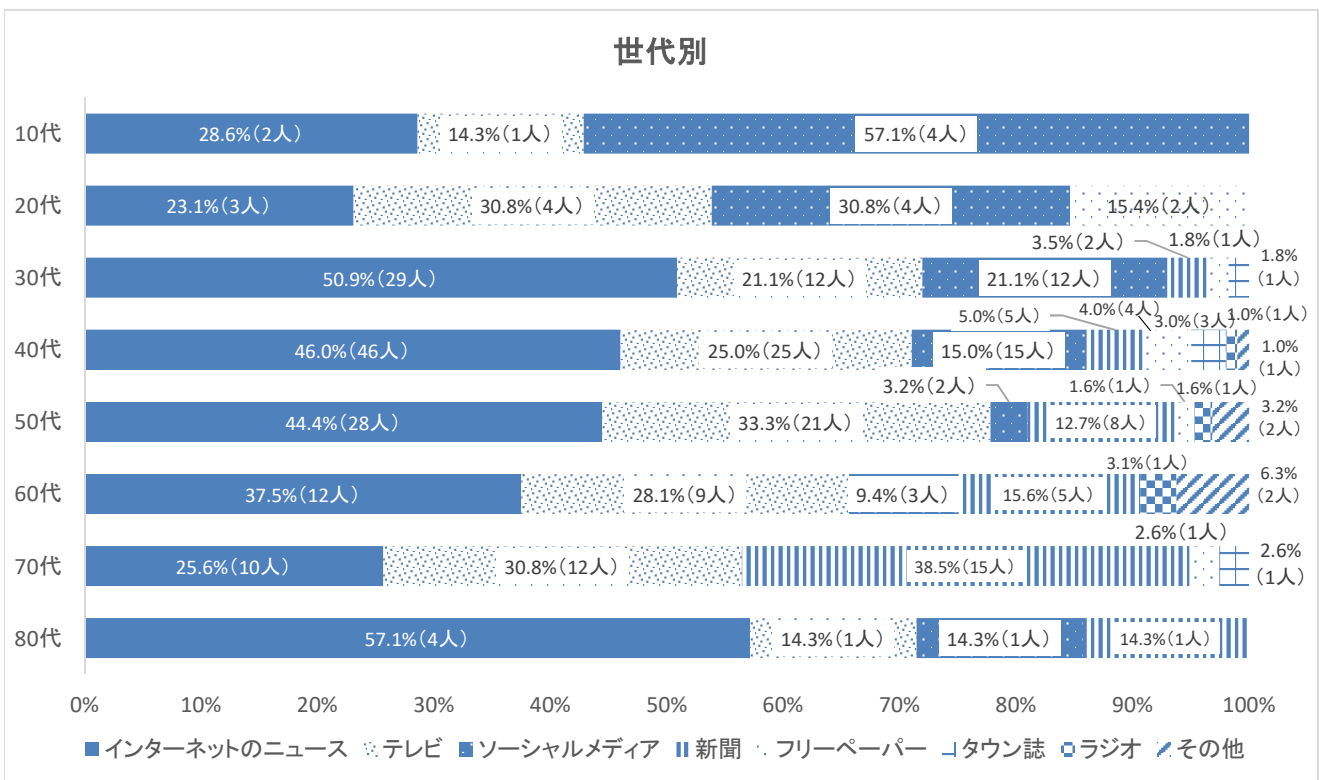
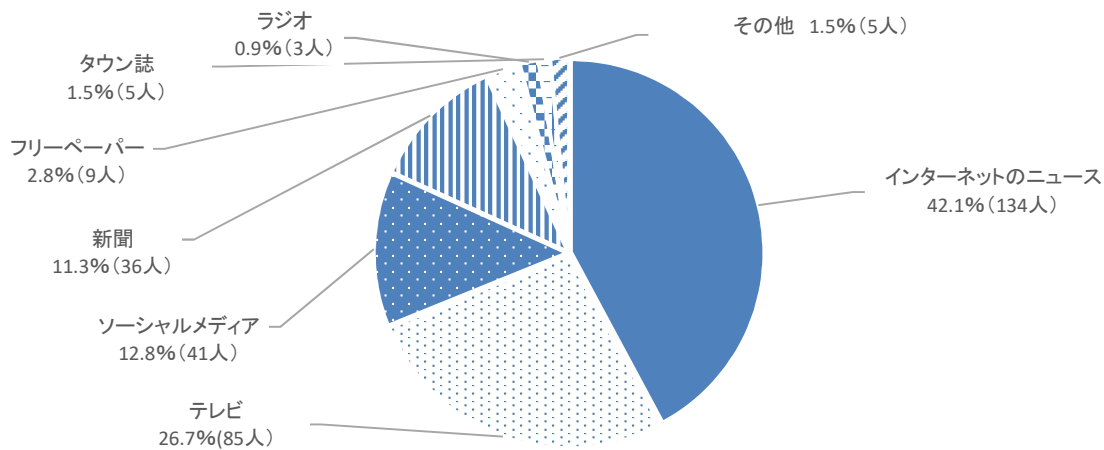
- ・「大変満足」「どちらかという満足」が87.5%

【考察】

- ・生活において、インターネットニュースから情報入手している方が多い。
- ・市の情報を「広報こおりやま」及び「市ウェブサイト」から入手している方が多い。
- ・ウェブサイトの感想について「大変満足」5%「どちらかという満足」61.6%で、高評価。
- ・市ウェブサイトの感想は、「必要な情報を簡単に入手できる」の回答が多いものの「必要な情報の入手に時間がかかる」の回答も多いので、検索性の向上が必要である。
- ・利用手段は、「スマートフォン」が最も高く、次に「パソコン」であり、今後も「スマートフォン」での操作やデザインを意識して設計することが重要。
- ・今後の利便性向上に向けて「利用者の生活や関心に合わせた情報配信」や「手続きのインターネット化」が求められている。
- ・広報こおりやまについては、「大変満足」「どちらかという満足」が88%と高評価。

**問1 あなたは、普段必要な情報を入手する時に、どんな手段を利用しますか？
(1つ選択)**

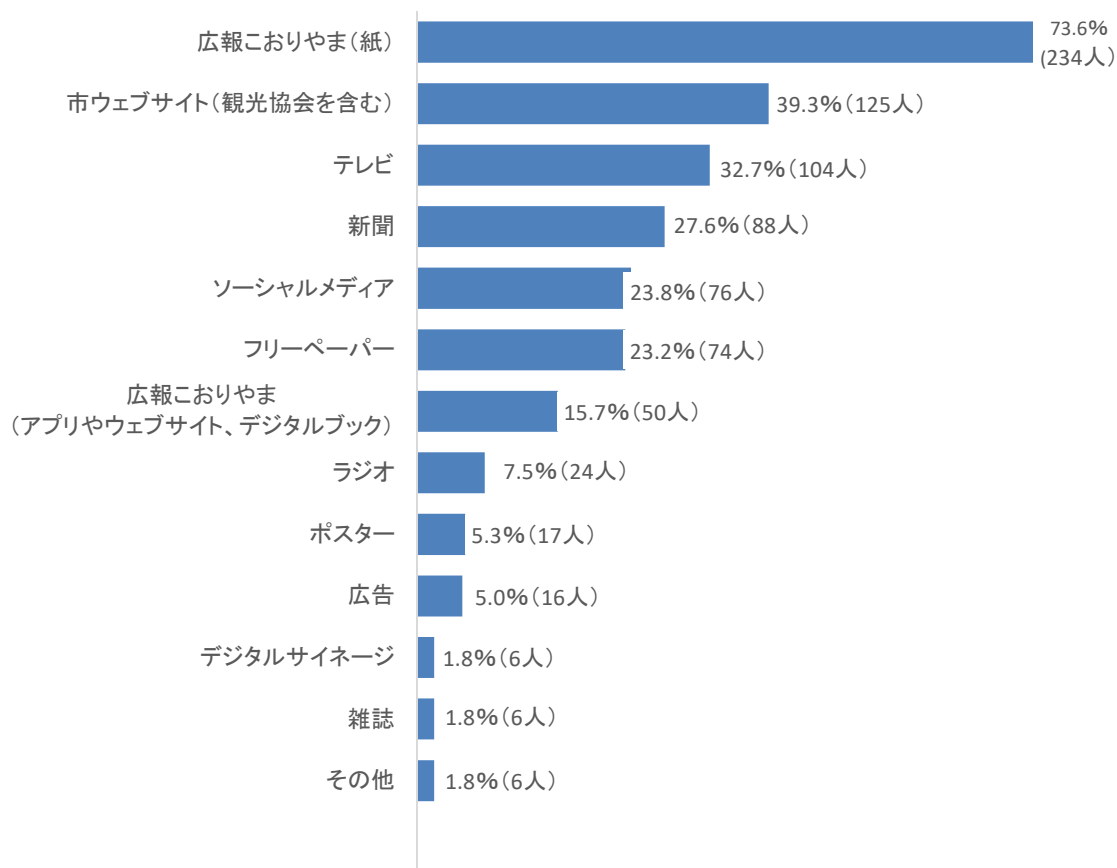
(回答者：318人)



全体では、「インターネットのニュース」や「ソーシャルメディア」などICTによる入手が5割を超えている。
 年代別では、10代、20代では、ソーシャルメディアにより情報入手する人が多い。
 男女別では、ともに「インターネットのニュース」「テレビ」「ソーシャルメディア」の順で多い。

問2 あなたは、郡山市の情報（ビジネスや観光情報など）を知るために、どんな媒体を利用しますか？（複数選択可）

（回答者：318人）



※デジタルサイネージ：店舗や公共施設にディスプレイを設置して、映像や文字で情報を伝える

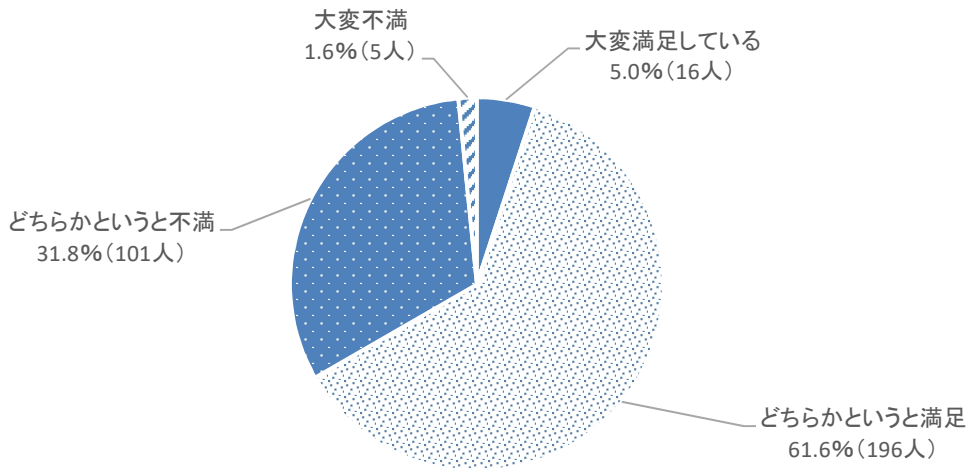
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・ 口コミサイト
- ・ GoogleやYahoo!などの検索

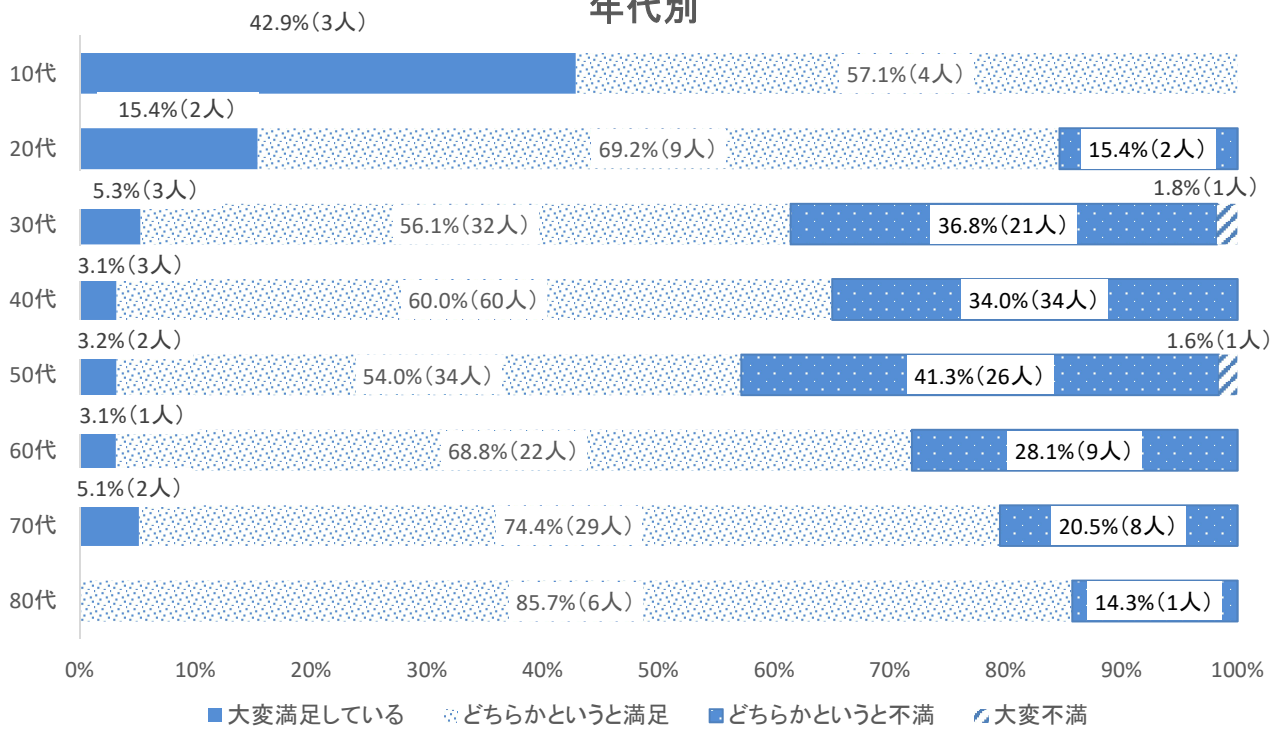
73.6%の人が「広報こおりやま」と回答。次いで、「市ウェブサイト」39.3%、「テレビ」32.7%、「新聞」27.6%、「ソーシャルメディア」23.8%であり、広報こおりやまや市ウェブサイトの果たす役割が大きいことが伺える。

問3 市ウェブサイトについて感想を教えてください。(1つ選択)

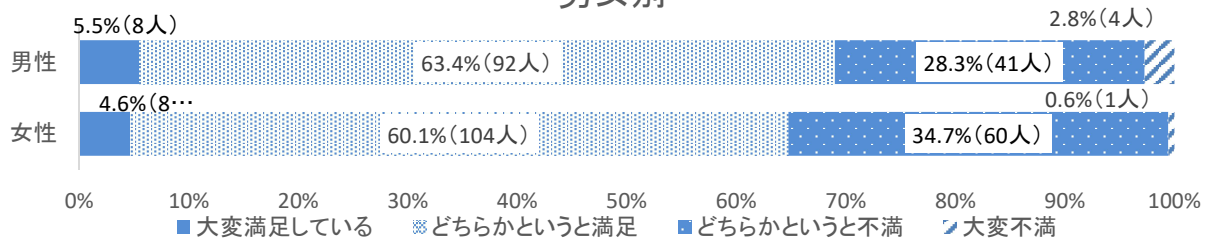
(回答者: 318人)



年代別



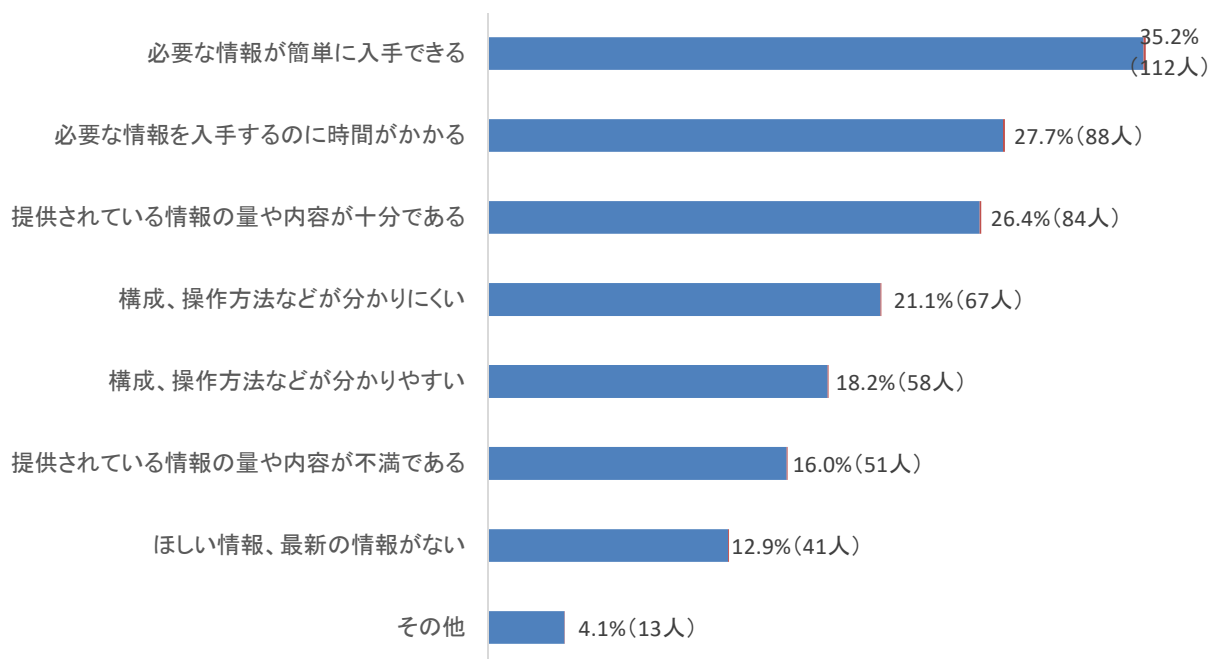
男女別



「大変満足している」「どちらかという満足」と回答した人が合わせて67%。
 世代別では、全ての年代で約6割以上の方が「どちらかという満足」と回答。一方で30代～60代で30～40%が「どちらかという不満」と回答している。
 男女別でも、いずれも6割以上が「どちらかという満足」と回答。

問4 問3の感想を詳しく教えてください。(複数選択可)

(回答者: 318人)



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・子育てイベントなどの詳細が無かったり、更新が遅くすでに満員ということもある
- ・見る側の目や心理と合っていない。
- ・クリック数が少なく済むようシンプルに。
- ・「サイト内検索」も「郡山市公式ウェブサイト」内だけを検索してくれるようなのも欲しい
- ・写真が多くて郡山の今をわかりやすく伝えている。
- ・必要な情報にたどり着くのに時間がかかる。

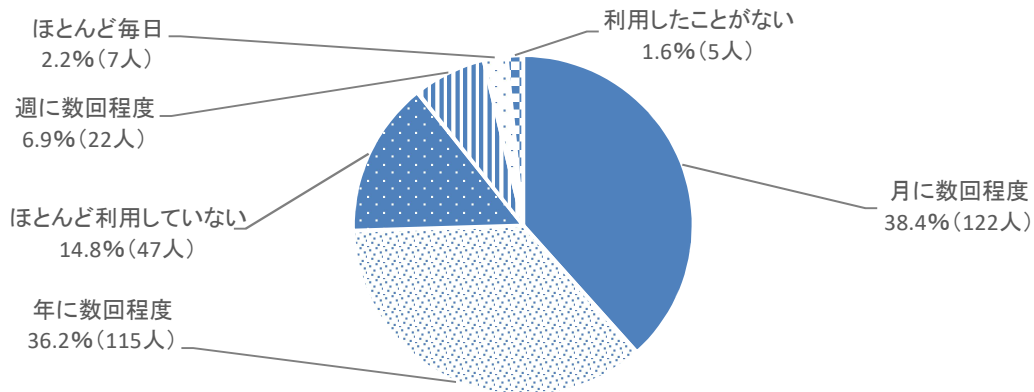
35.2%の人が「必要な情報が簡単に入手できる」と回答。次いで、「必要な情報を入手するのに時間がかかる」27.7%、「提供されている情報の量や内容が十分である」26.4%、「構成、操作方法などが分かりにくい」21.1%、「構成、操作方法などが分かりやすい」18.2%であり、「必要な情報の入手」や「提供されている情報の量や内容」に対して、満足している方が多い一方で、不満に思っている方や満足していない方もいる。

問3において、満足（「大変満足」「どちらかという満足」）の要素として、「必要な情報が簡単に入手」や「情報量が十分」であることが上位となっている。また、不満（「大変不満」「どちらかという不満」）の要素としては、「必要な情報を入手するために時間がかかる」ことが主な理由となっている。

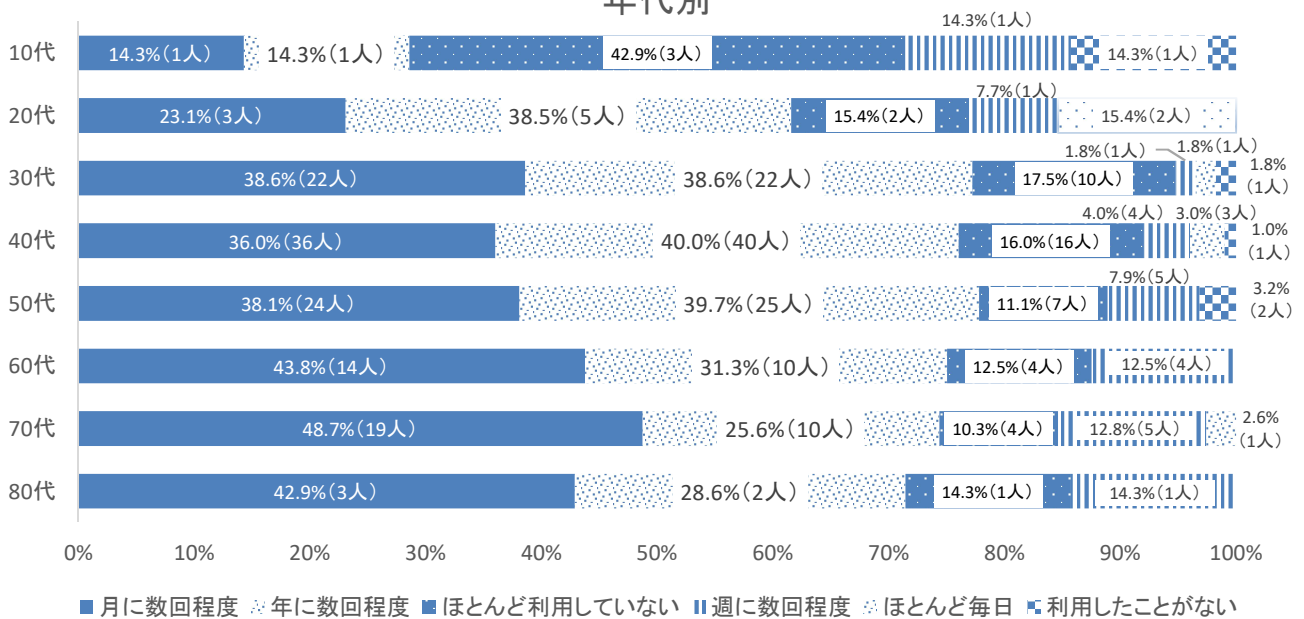
今後はウェブサイトにおいて、より簡単に見つけられるような工夫や、また提供する情報量や内容について整理する必要がある。

問5 市ウェブサイトをどのくらいの頻度で利用していますか？（1つ選択）

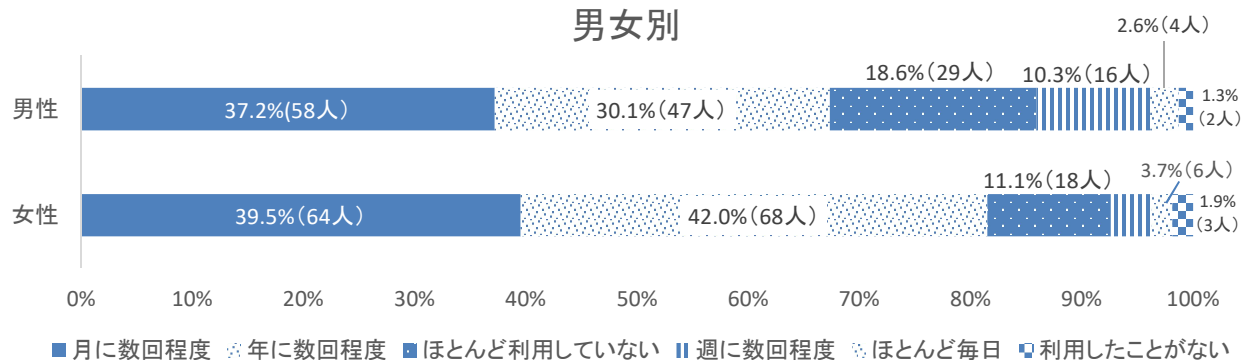
（回答者：318人）



年代別



男女別

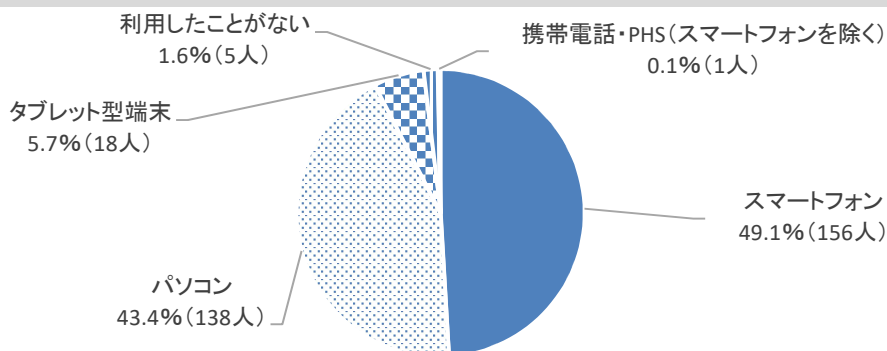


38.4%の人が「月に数回程度」と回答。次いで、「年に数回程度」36.2%、「ほとんど利用していない」14.8%、「週に数回程度」6.9%、「ほとんど毎日」2.2%で、「利用したことがない」2%であり、利用頻度は個人差が大きいことが伺える。

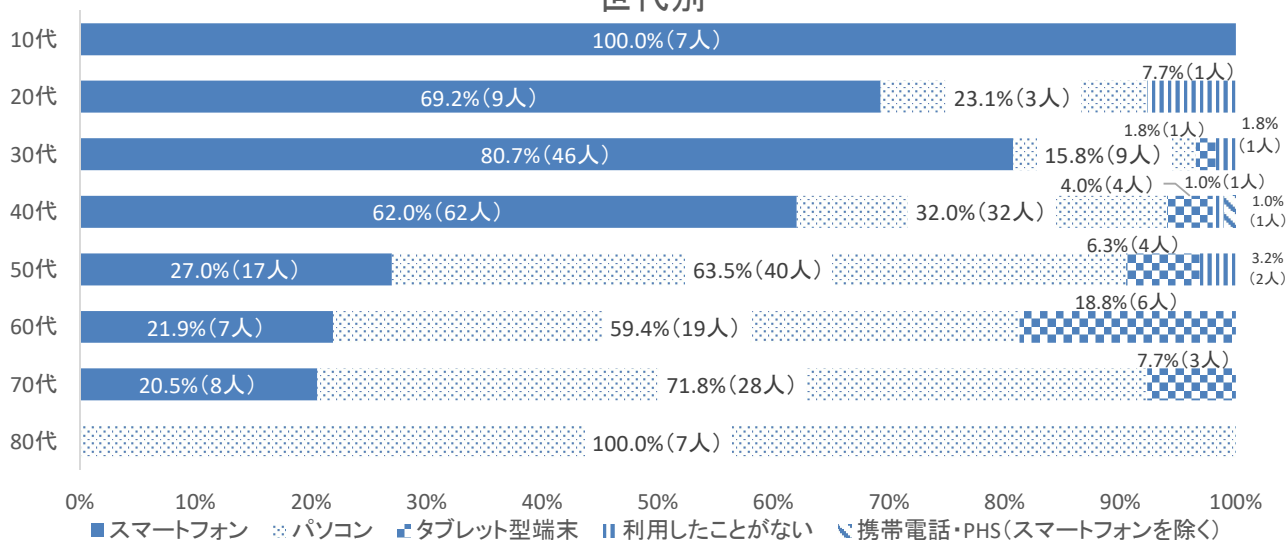
世代別においても30代～80代において約40%が「月に数回程度」と回答。

問6 市ウェブサイトをご覧になるときの主な手段を教えてください。(1つ選択)

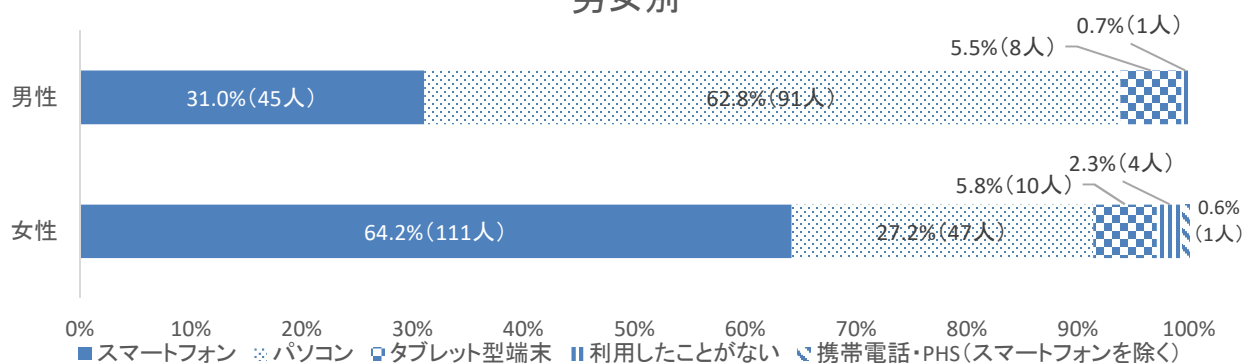
(回答者：318人)



世代別



男女別



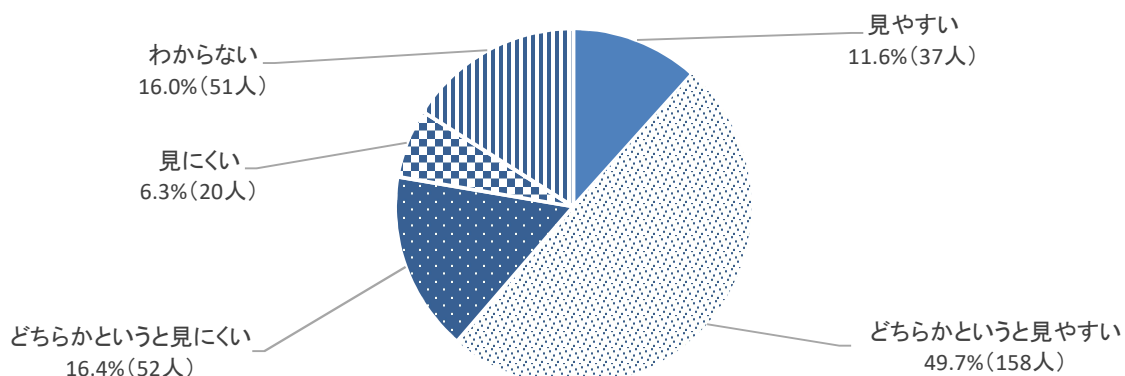
「スマートフォン」49.1%、次いで「パソコン」43.4%、「タブレット型端末」5.7%、「利用したことがない」1.6%、「携帯電話・PHS」が0.1%である。

世代別においては、10～40代においては「スマートフォン」が「パソコン」を上回り、50～80代は「パソコン」が「スマートフォン」を上回っている。

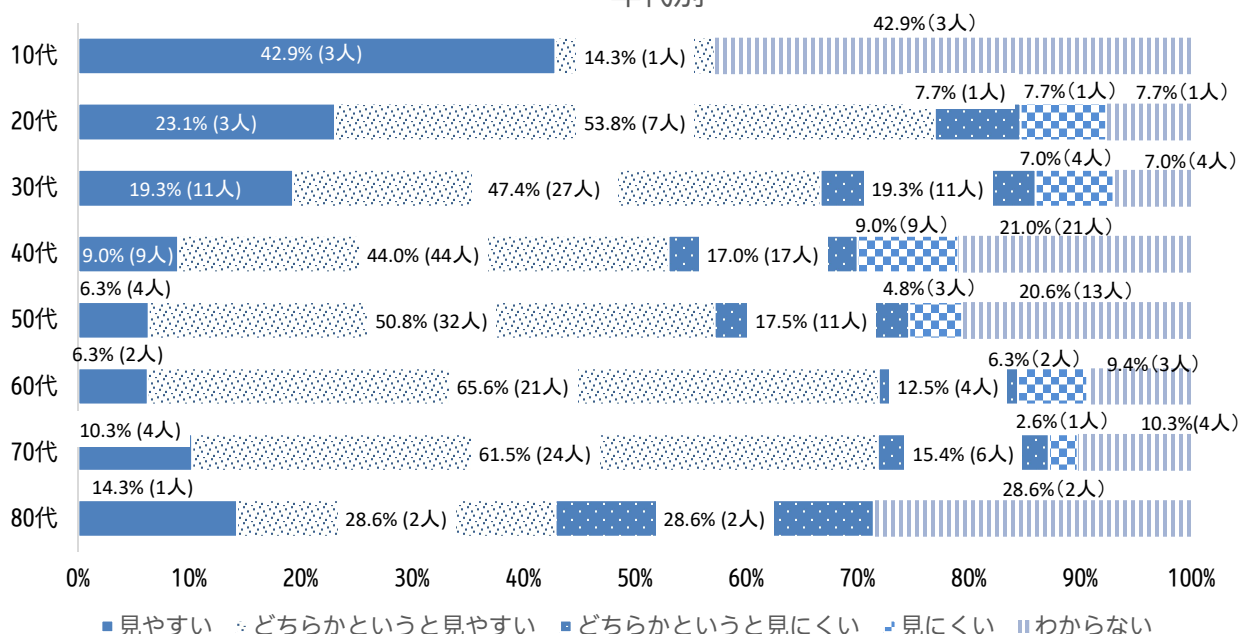
男女別では、男性は「パソコン」が「スマートフォン」より約30ポイント高いものの、女性は「スマートフォン」が「パソコン」よりも約40ポイント高くなっている。

問7 今年3月に市ウェブサイトがリニューアルしました。市ウェブサイトのレイアウトやデザインに対する感想を教えてください（1つ選択）

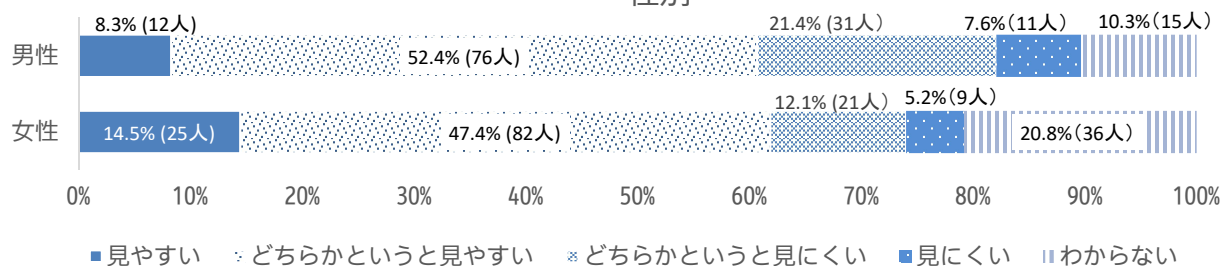
（回答者：318人）



年代別



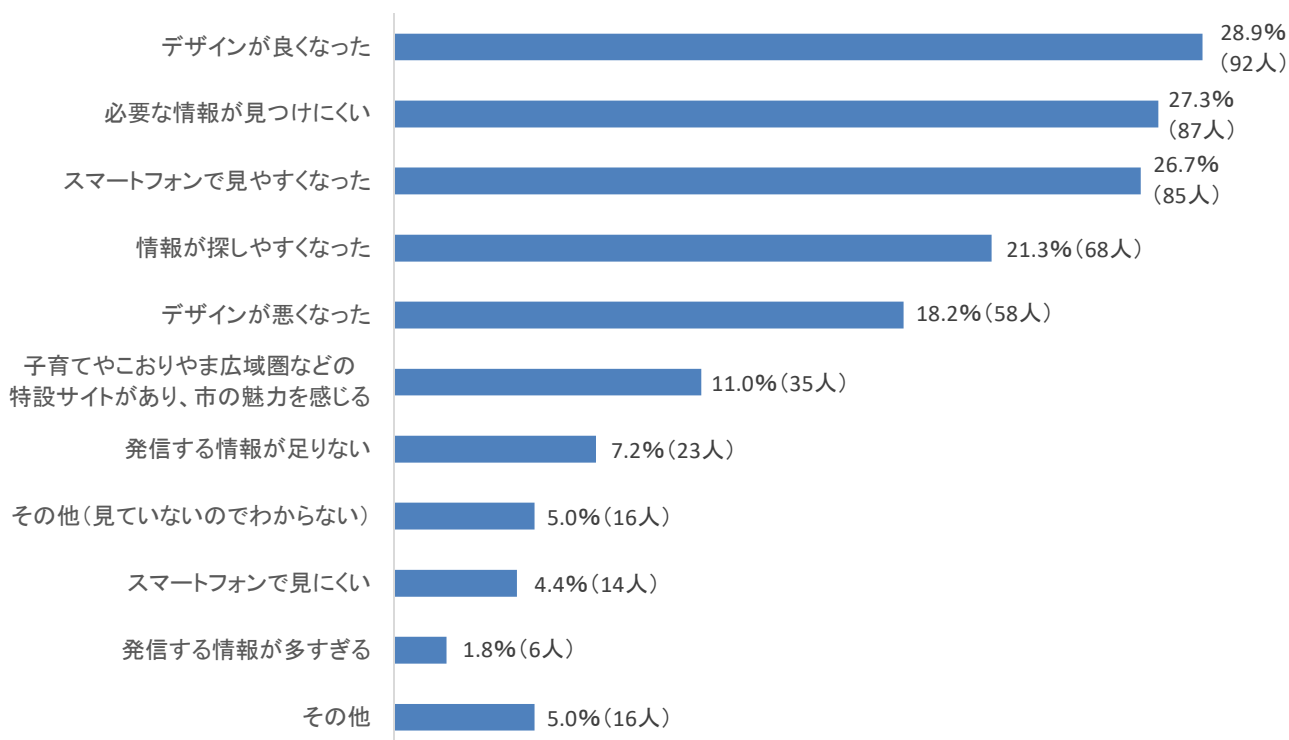
性別



「見やすい」「どちらかというで見やすい」と回答した人が合わせて61.3%。
 世代別では、20代、60代、70代の約70%が「見やすい」「どちらかというで見やすい」と回答。10代、30代、40代では約60%の方が「見やすい」「どちらかというで見やすい」と回答。一方で30代～50代の約20%が「どちらかというで見にくい」と回答。
 男女別では、男女ともに約60%が「見やすい」「どちらかというで見やすい」と回答。

問8 問7の感想を詳しく教えてください。(複数選択可)

(回答者：318人)

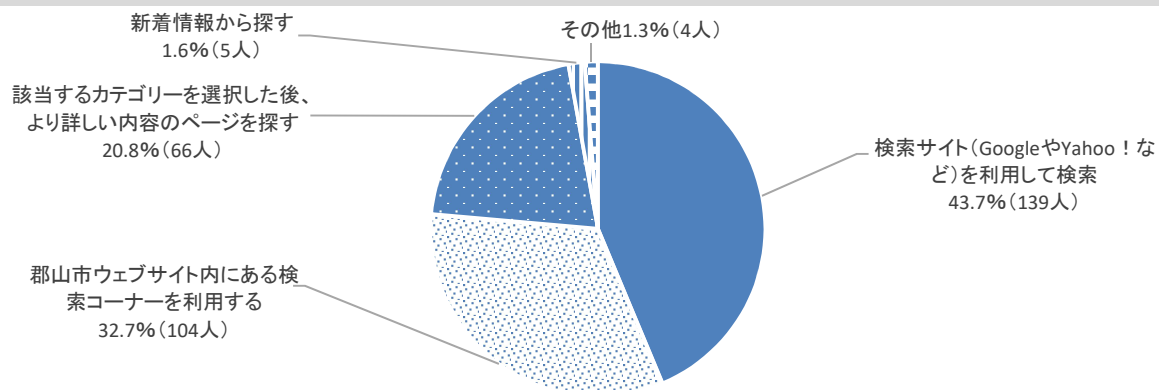


※「その他」を選択した方の主な意見

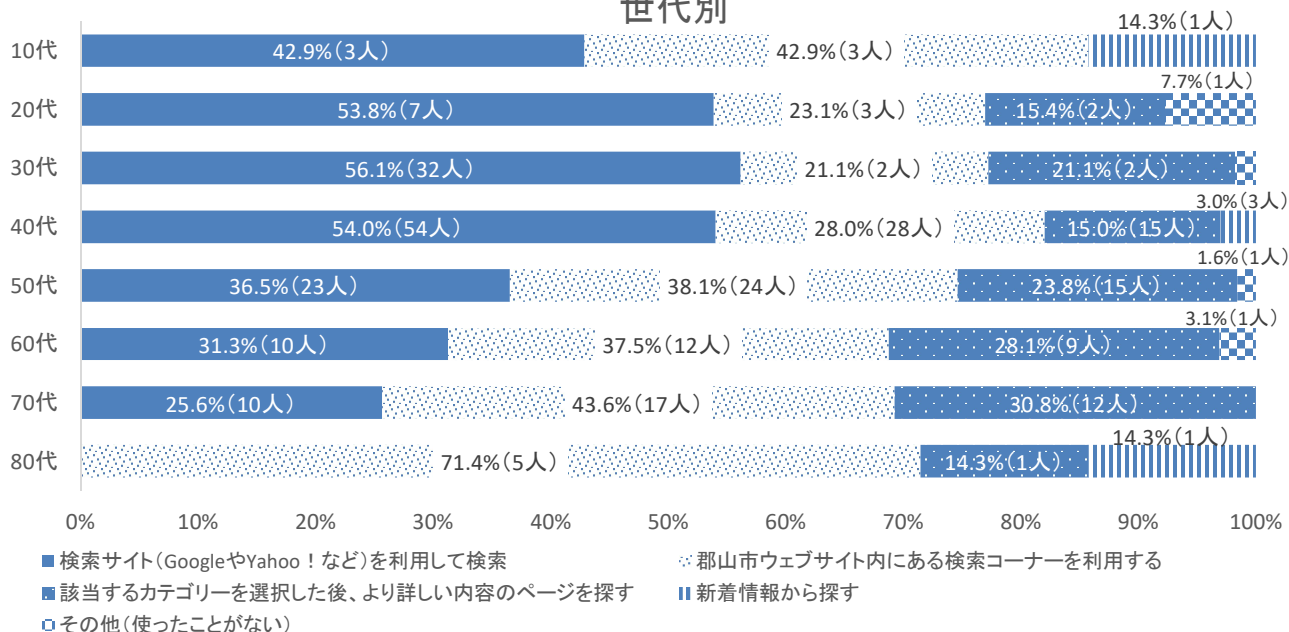
- ・ 広報おおりのやま（紙）で十分
- ・ ウェブサイト写真が増えたことで、ウルさい印象。トップ画面はシンプルな方がいい
- ・ 日曜当番医の情報が探しやすくなった。
- ・ Web上の世界は信頼性が低い。

28.9%の人が「デザインが良くなった」と回答。次に「提供されている情報の量や内容が十分である」27.3%、「スマートフォンで見やすくなった」26.7%、「情報が探しやすくなった」11.6%、「デザインが悪くなった」18.2%、「子育てやおおりのやま広域圏などの特設サイトがあり、市の魅力を感じる」11.0%との回答であった。
今後もウェブサイトにおいて、デザインに加えて提供する情報の量や内容を十分に精査する必要がある。

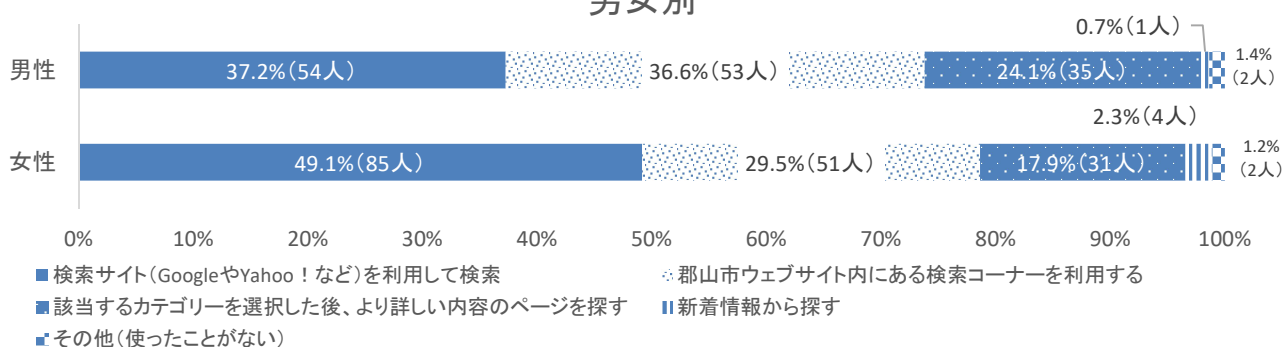
問9 市ウェブサイトから必要な情報を見つけるときの、主な検索方法を教えてください。
(回答者：318人)



世代別



男女別



「検索サイト (GoogleやYahoo!) などを利用して検索」が43.7%と最も高い。次いで「郡山市ウェブサイト内にある検索コーナーを利用する」32.7%「該当するカテゴリーを選択した後、より詳しい内容のページを探す」20.8%、「新着情報から探す」1.6%の回答

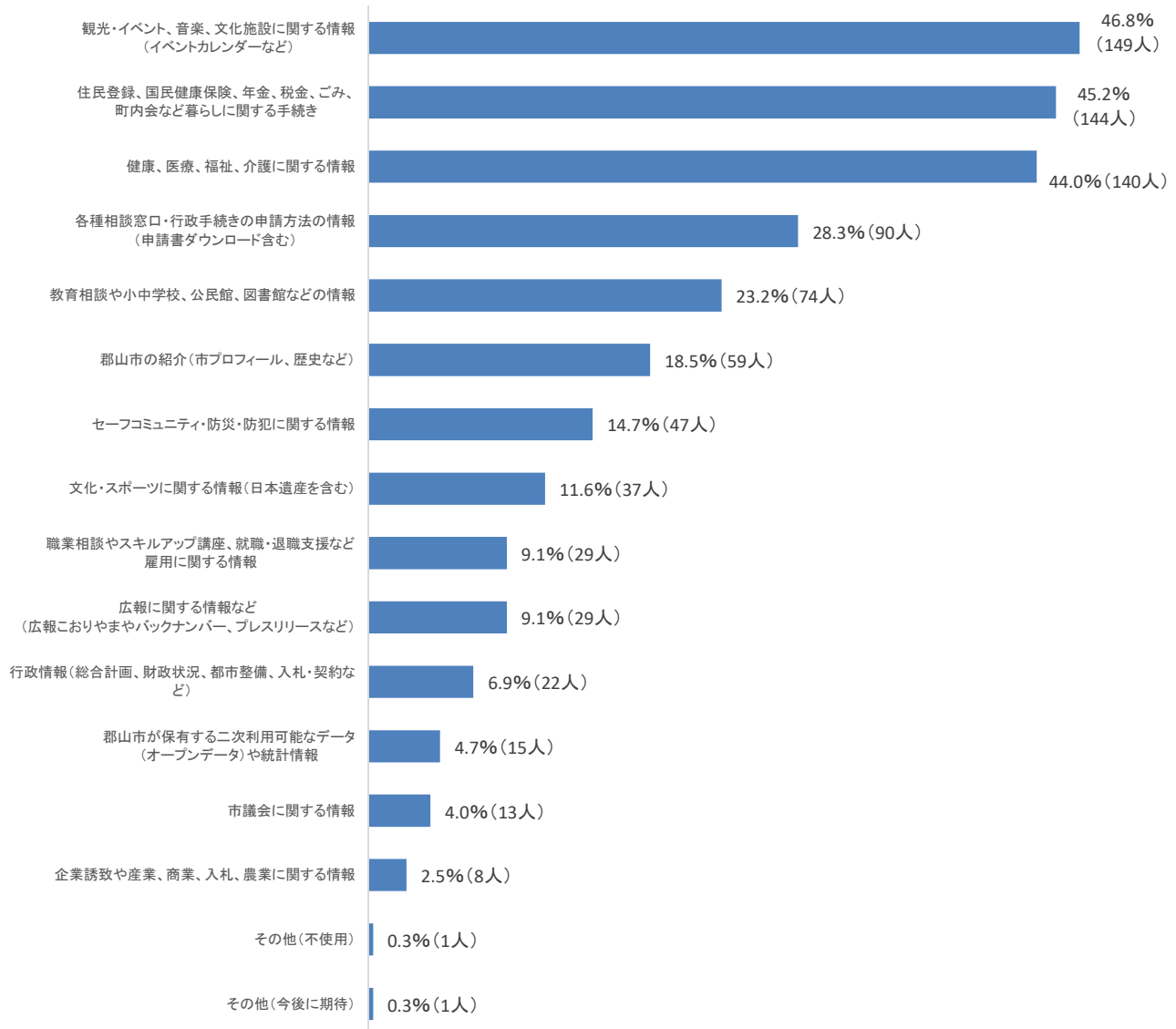
世代別では、20～40代では過半数が「検索サイトなどを利用して検索」と回答し、10代、50～70代の約40%が「市ウェブサイト内の検索コーナーを利用」と回答。

男女別でも、いずれも「検索サイト」や「市ウェブサイト内の検索コーナーを利用」の回答がともに約80%であった。

上記結果より、検索キーワードの設定や検索エンジンの向上が今後も必要であることがわかる。

問10 市ウェブサイトが必要だと感じる情報は、どのような情報ですか？
(3つまで選択可)

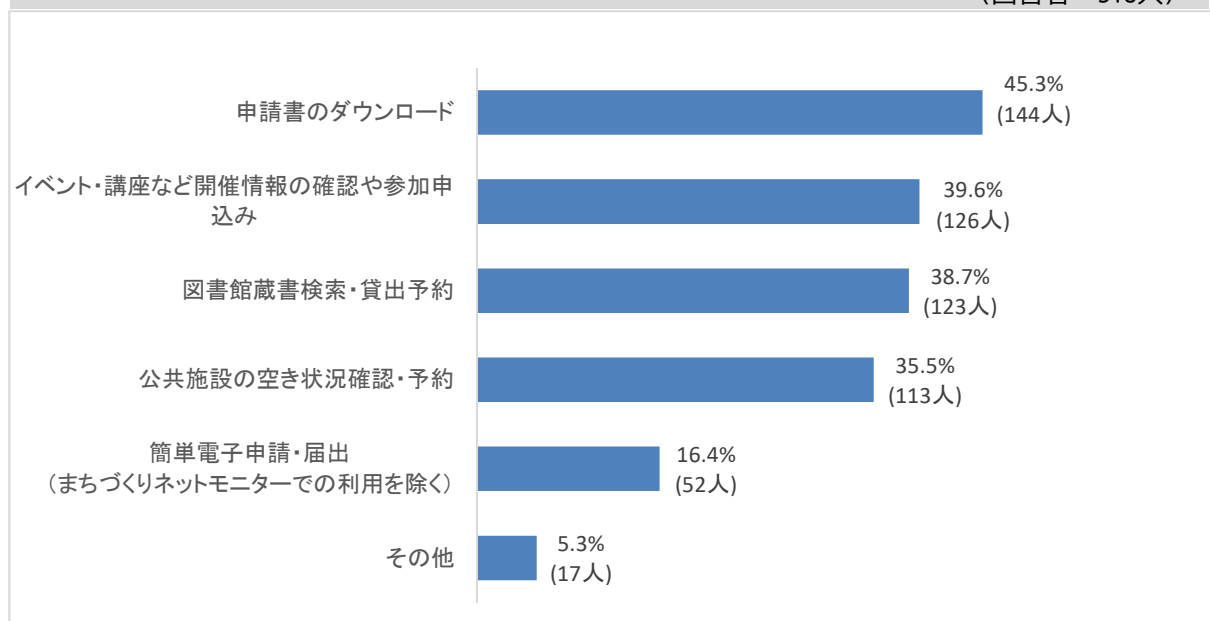
(回答者：318人)



「観光・イベント、音楽、文化施設に関する情報」46.8%、「住民登録、国民健康保険、年金、税金、ごみ、町内会など」45.2%、「健康、医療、福祉、介護に関する情報」44.2%と高く、お出かけ情報や生活に密着した情報を求めていることが読み取れる。

問11 市ウェブサイトで便利だと感じる機能は、どのような機能ですか？
(3つまで選択可)

(回答者：318人)



※「その他」を選択した方の主な意見

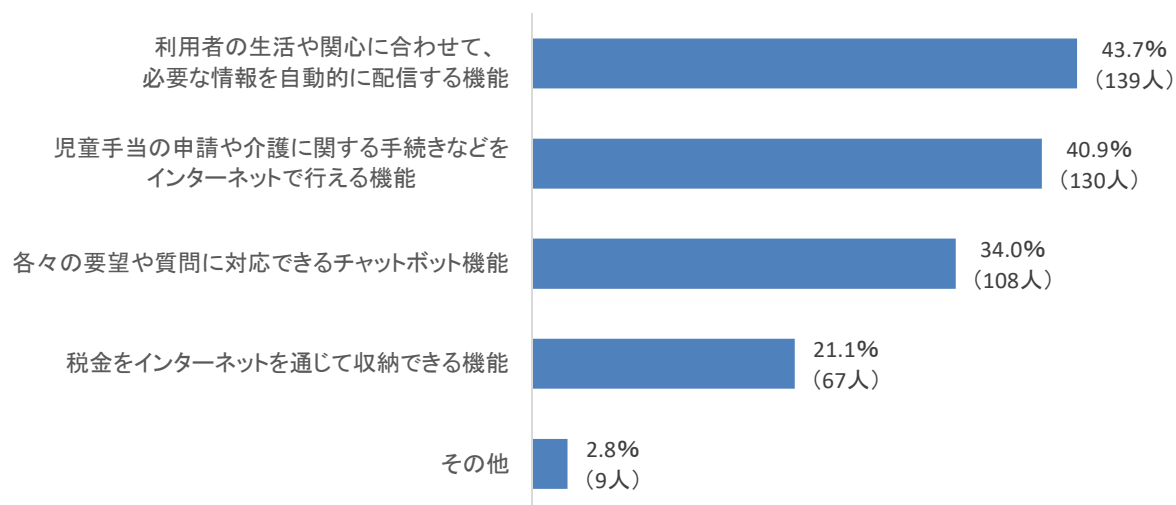
- ・報道資

45.3%が「申請書のダウンロード」と回答。次に「イベント・講座など開催情報の確認や参加申し込み」39.6%、「図書館蔵書検索・貸出予約」38.7%、「公共施設の空き状況確認・予約」35.5%、「簡単電子申請・届出」16.4%の回答であった。

問12 市ウェブサイトであると便利だと感じる機能は、どのような機能ですか？

(3つまで選択)

(回答者：318人)

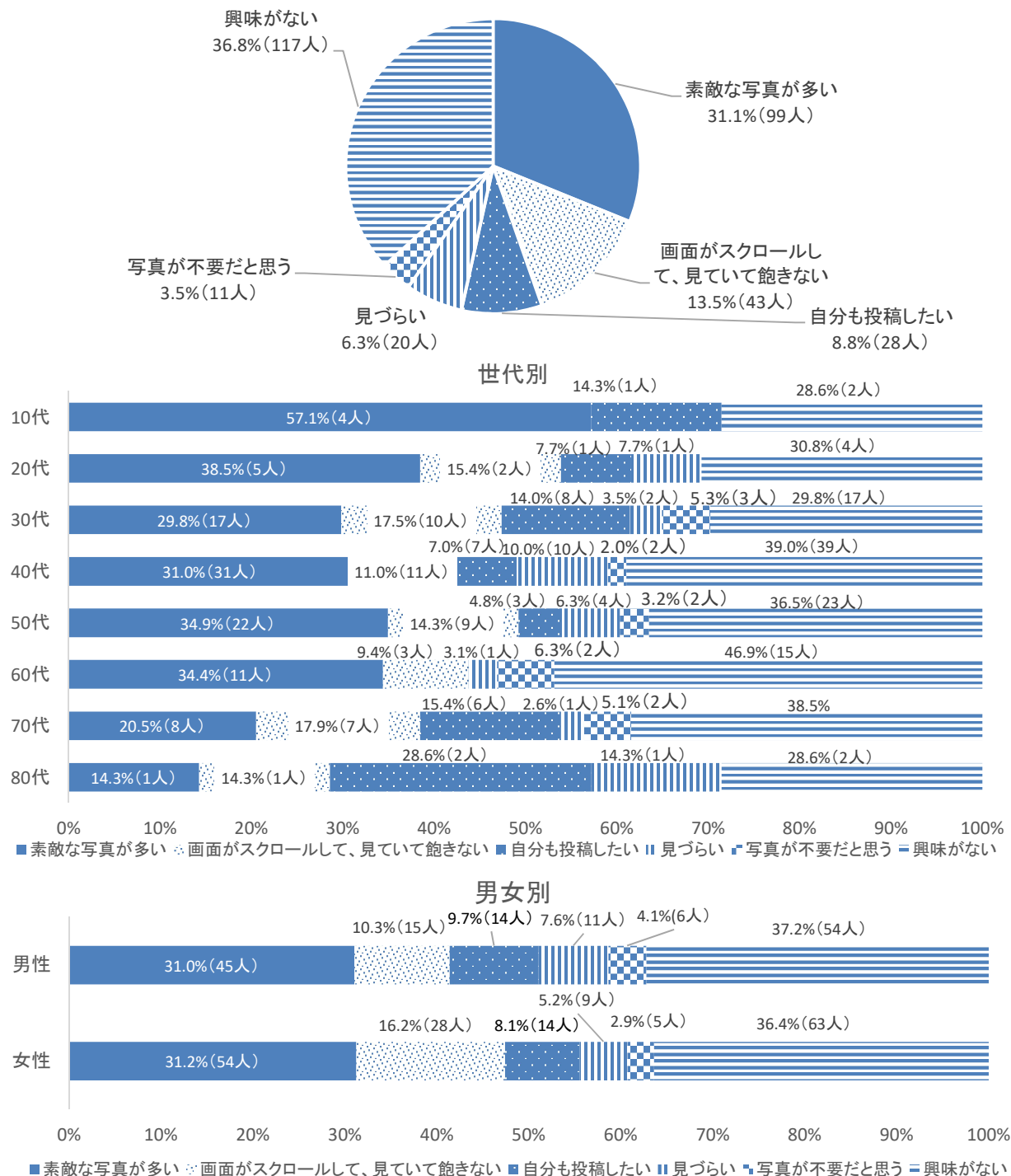


※「その他」を選択した方の主な意見

- ・どこで何が行われるのかテーマごとのカレンダー
- ・住民票等の証明書など自宅で受け取れるようにしてほしい
- ・公民館の市民講座、市民教室など、民間団体開催も含めた情報
- ・メールでの問い合わせ
- ・市民が意見や感想を述べるコーナー

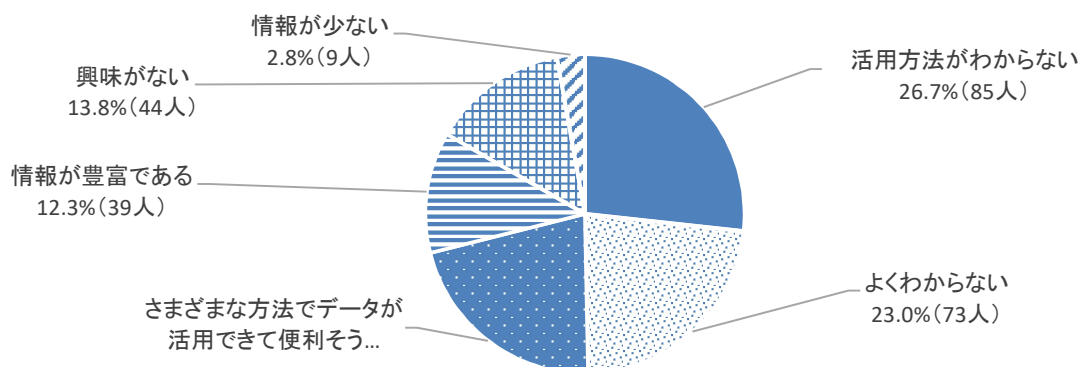
43.7%が「利用者の生活や関心に合わせて、必要な情報を自動的に配信する機能」と回答。次に「児童手当の申請や介護に関する手続きなどをインターネットで行える機能」40.9%、「各々の要望や質問に対応できるチャットボット機能」34.0%、「税金をインターネットを通じて収納できる機能」21.1%との回答であった。

問13 市ウェブサイトのTOP画面に、Instagramと連動して、市民の皆さんが投稿した旬の情報やイベントなどさまざまな写真を掲載しています。これらの写真に対する感想を教えてください。（1つ選択）
（回答者：318人）

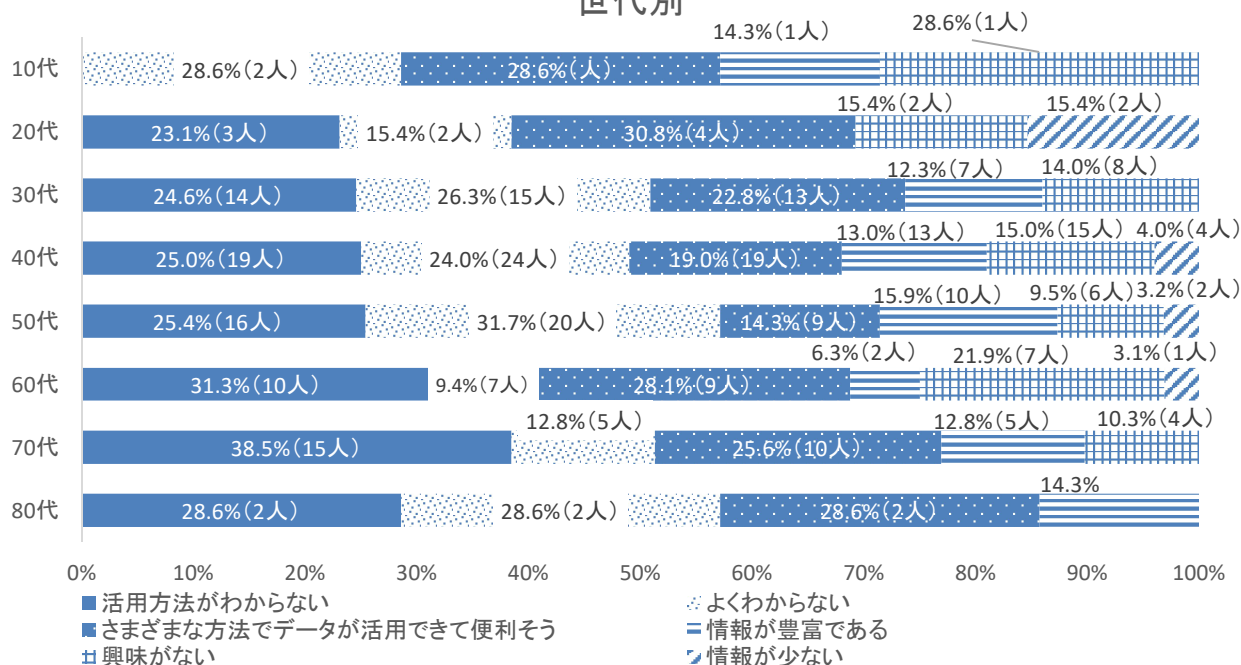


「素敵な写真が多い」が31.1%と最も高い。次いで「画面がスクロールして、見ていて飽きない」13.5%、「自分も投稿したい」8.8%、「見づらい」6.3%、「写真が不要だと思う」3.5%、「興味がない」36.8%の回答
 世代別では、10～70代で「素敵な写真が多い」の回答が一番多い。一方で、10～30代、80代で約30%、ほかの年代でも約40%が「興味がない」との回答
 男女別でも、「素敵な写真が多い」が31%と一番高く、「画面がスクロールして、見ていて飽きない」「自分も投稿したい」を加えると半数を超えている。

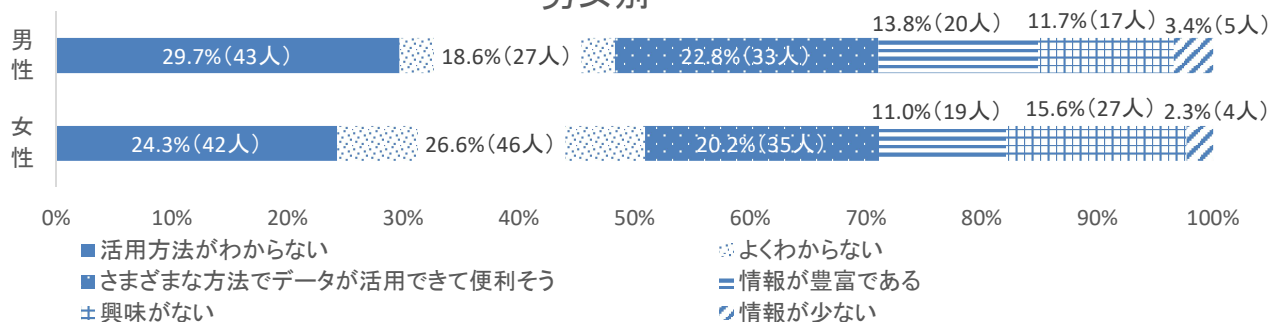
問14 人口などの統計情報をまとめたオープンデータの特設サイトを開設しています。オープンデータサイトに対する感想を教えてください。(1つ選択)
(回答者：318人)



世代別

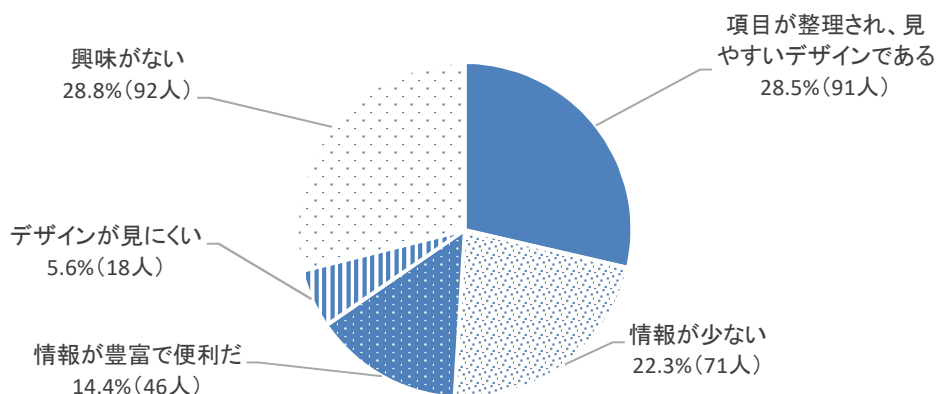


男女別

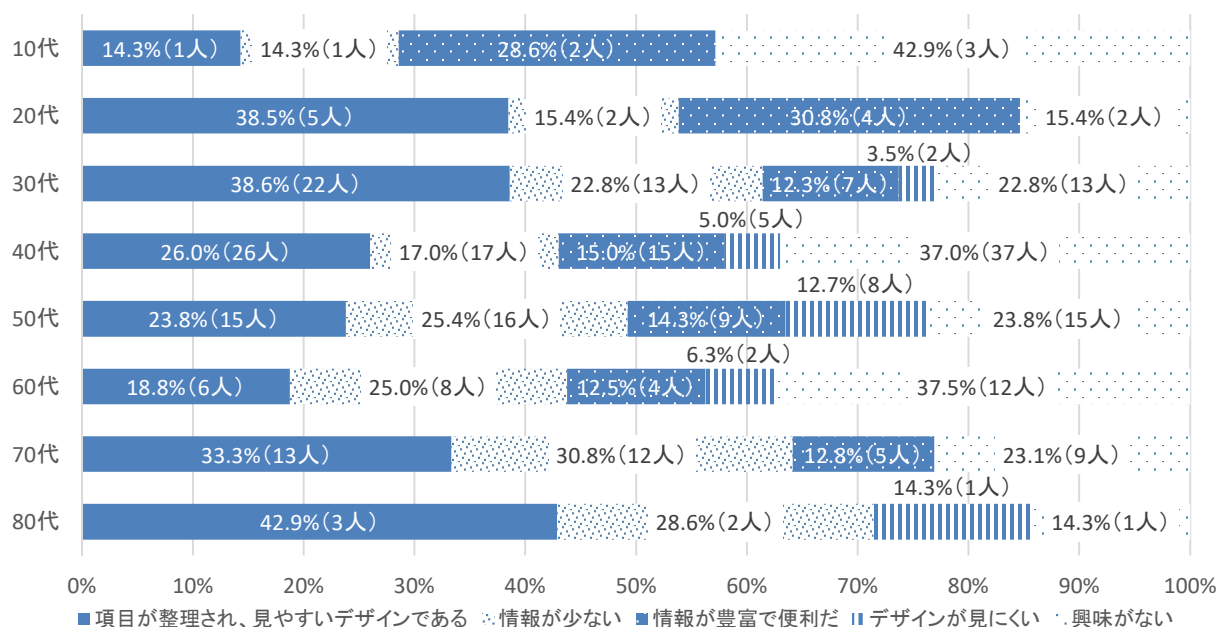


「活用方法がよくわからない」「よくわからない」が合わせて49.7%、「さまざまな方法でデータが活用できて便利そう」が21.4%、「情報が豊富である」12.3%の回答。
 世代別では、20～80代で「活用方法がわからない」の回答が一番多い。10～20代、60～80代で「さまざまな方法でデータ活用できて便利そう」が約30%、ほかの年代でも約40%が「興味がない」との回答。
 男女別でも、「活用方法がわからない」「よくわからない」を合わせると過半数に近い割合である。

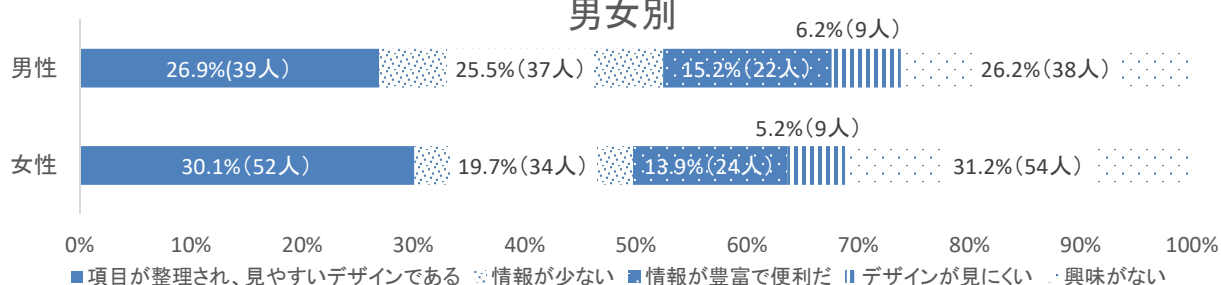
問15 郡山市と周辺市町村で構成するこおりやま広域圏の特設サイトを開設しています。こおりやま広域圏サイトに対する感想を教えてください。（1つ選択）（回答者：318人）



年代別



男女別



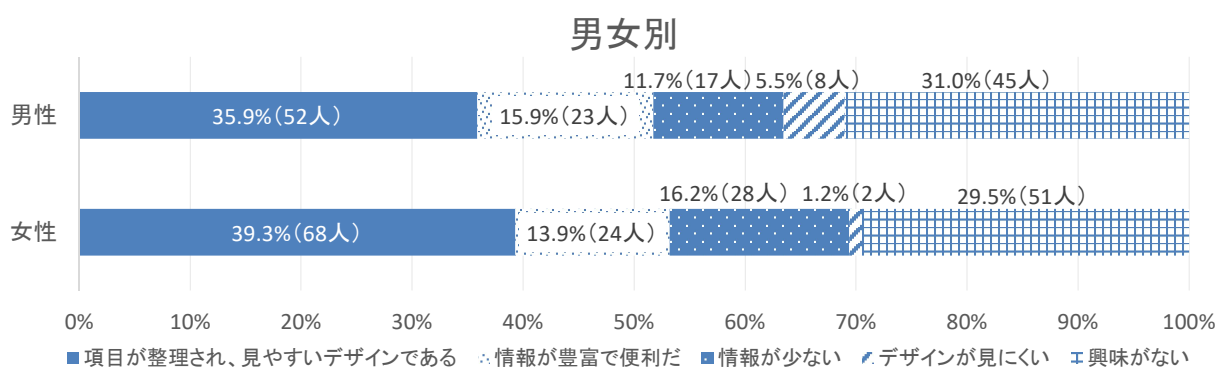
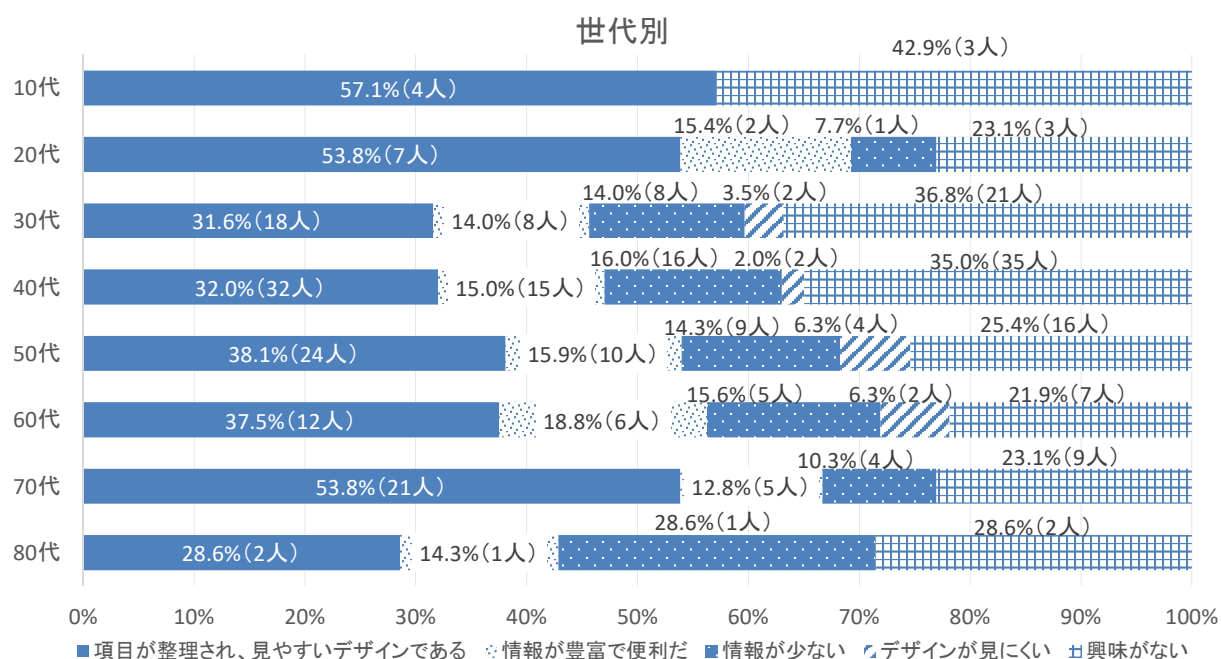
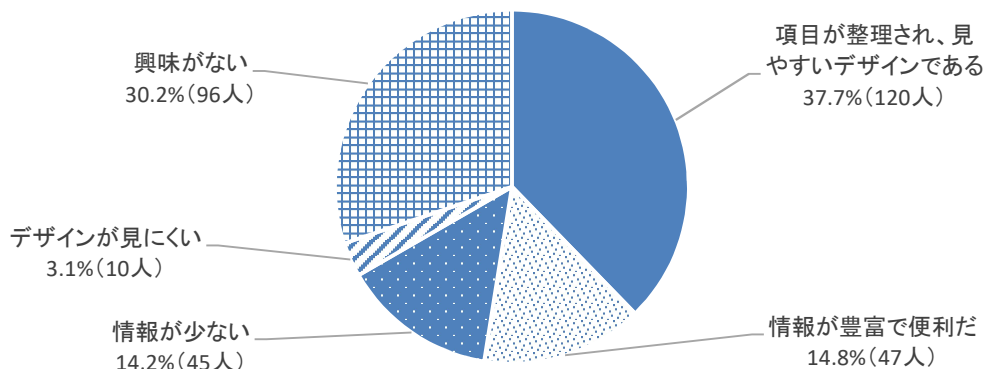
「項目が整理され、見やすいデザインである」が28.5%。「情報が少ない」が22.3%、「情報が豊富で便利だ」が14.4%、「デザインが見にくい」が5.6%、「興味がない」が28.8%の回答。

世代別では、20代・30代・80代の約4割が「項目が整理され、見やすいデザインである」と回答。40代、70代も同回答が一番多かった。50代・60代では「情報が少ない」が一番多い回答だった。

男女別では、男性は「項目が整理され、見やすいデザイン」と「情報が少ない」が同割合だが、女性は約3割が「項目が整理され、見やすいデザイン」、「興味がない」と回答。

問16 美術館の企画展や各種情報をまとめた特設サイトを開設しています。美術館サイトに対する感想を教えてください。（1つ選択）

（回答者：318人）

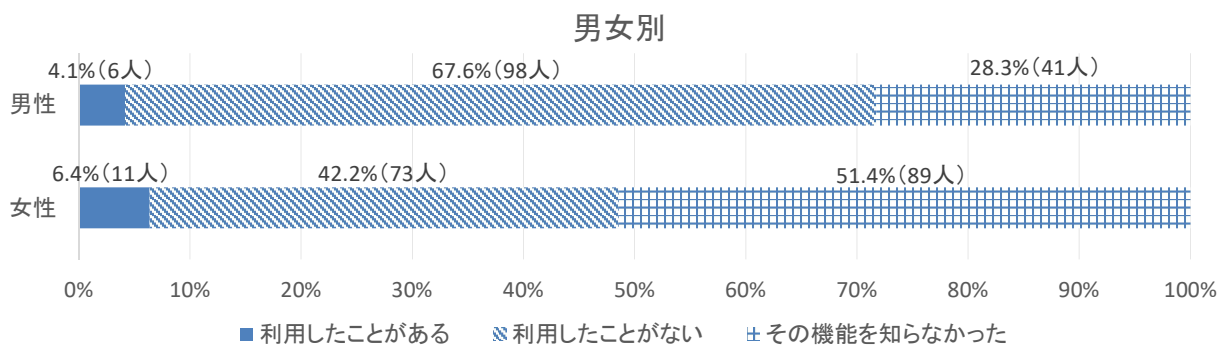
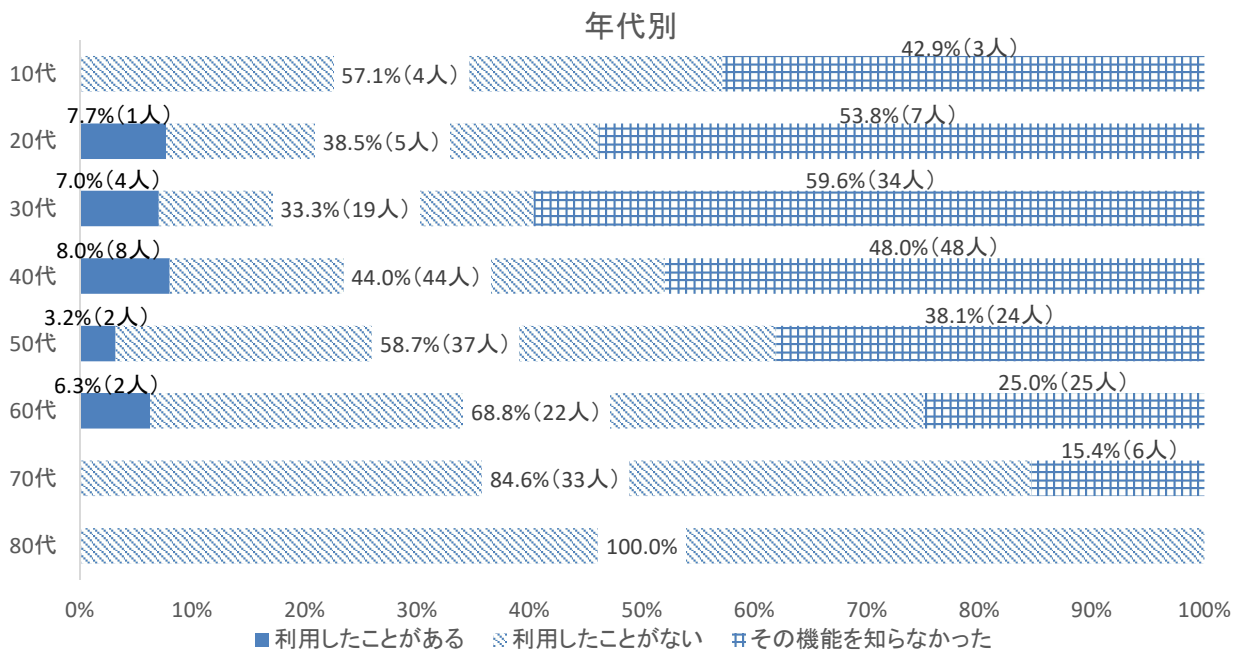
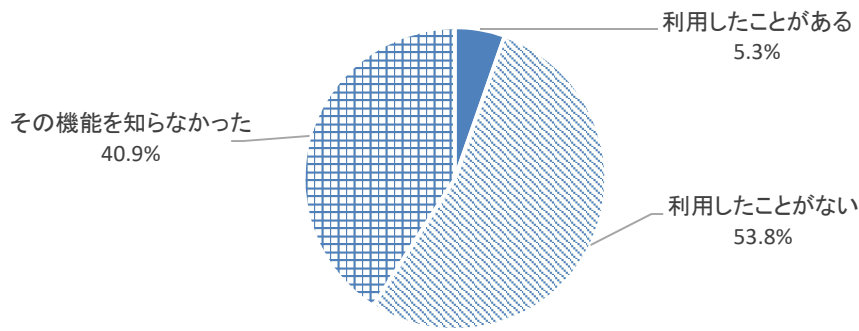


「項目が整理され、見やすいデザインである」が37.7%、「情報が豊富で便利だ」が14.8%、「情報が少ない」が14.2%、「デザインが見にくい」が3.1%、「興味がない」が30.2%の回答。

世代別では、10代・20代・70代の約5割が「項目が整理され、見やすいデザインである」と回答。50代・60代の約4割、また30代・40代・80代の約3割も同回答であった。

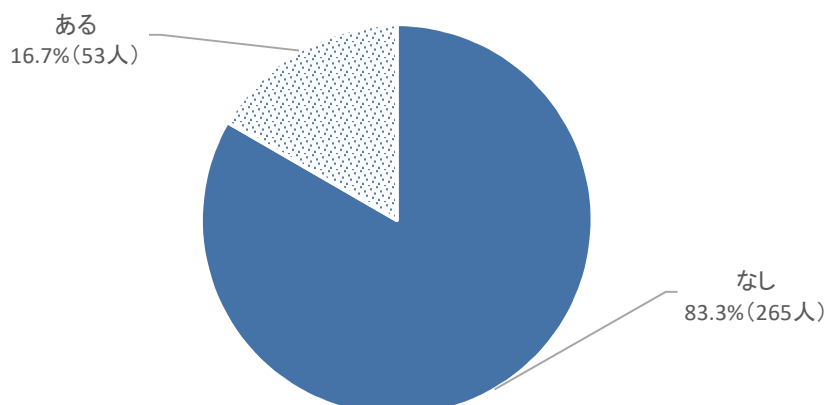
男女別では、男性の35.9%、女性の39.3%が「項目が整理され、見やすいデザイン」と回答。一方で、「興味がない」と回答したのも男性31%、女性29.5%であり、美術館への関心に個人差が表れていた。

問17 転居や妊娠・出産時の手続きをまとめた「手続きナビ」を利用したことはありますか？（1つ選択）
（回答者：318人）



「利用したことがない」が53.8%、「機能を知らなかった」が40.9%、「利用したことがある」が5.3%の回答。
 世代別では、「利用したことがある」と答えたのは、20代7.7%（1人）、30代7%（4人）、40代8%（8人）、50代3.2%（2人）、60代6.3%（2人）の回答であった。
 男女別では、男性の4.1%（6人）、女性の6.4%（11人）が「利用したことがある」と回答。

問18 今後ウェブサイトが発信してほしい情報や機能はありますか？（1つ選択）
（回答者：318人）



「ある」を選択した方の主な意見

- 図書館の貸出履歴を参照する機能
- 郡山市を中心とした、近隣市町村や近県のイベント情報
- オープンデータの充実、市議会議員活動力の見える化
- 市内の観光地（温泉地など）を一発で検索できて、地図でも即確認可能にしてほしい
- スマートフォンに特化した機能（アプリ化）
- 防犯のための情報。不審者
- 大雨による河川の状況
- 各公民館の活動サークル情報

16.7%が「ある」と回答。「イベント情報」や「リアルタイムの河川の状況」・「防犯に関する情報」など生活に身近な内容を求めている

問19 あなたが素敵だと感じる企業や団体、自治体のサイトがあれば教えてください
(自由記述)

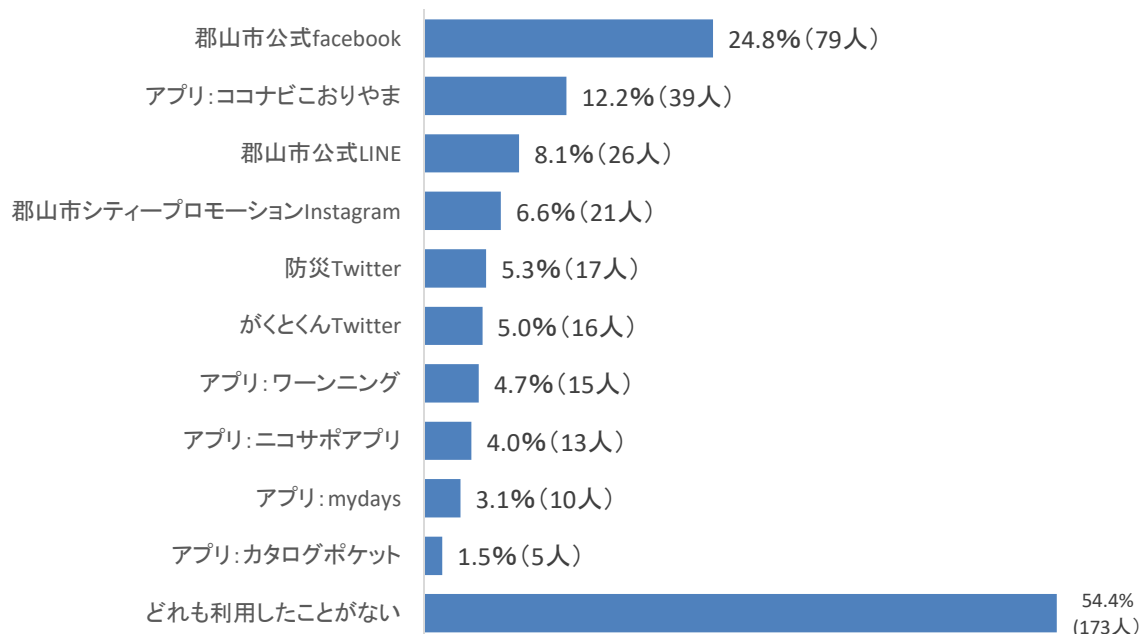
(自治体)

- ・神奈川県
- ・福島県
- ・安曇野市
- ・郡山市観光協会
- ・仙台市
- ・つくば
- ・東京都三鷹市
- ・福岡市…市長の動向を動画で発信している

(企業)

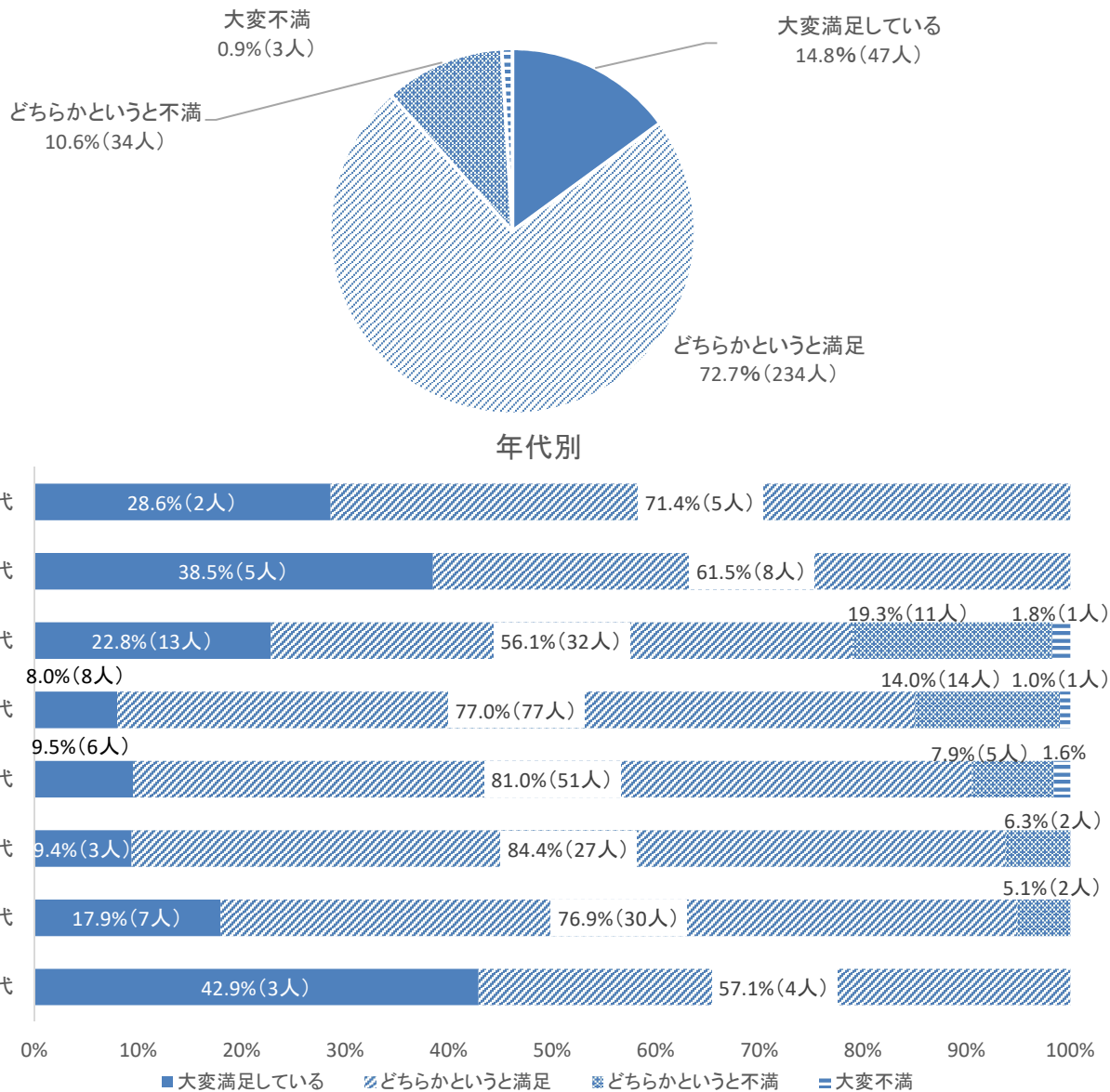
- ・アルク
- ・小田急電鉄
- ・オリエンタルランド…お客様向け、会社、株主向けと対象のメリハリがあって使いやすい
- ・コカコーラ
- ・産業技術総合研究所
- ・センチュリーホーム
- ・筑波大学
- ・仁井田本家
- ・プルデンシャル保険
- ・まざっせプラザ
- ・村田製作所

問20 郡山市の各種情報を配信するアプリやソーシャルメディアを提供しています。
下記の中で利用したものはありますか？（全て選択）（回答者：318人）

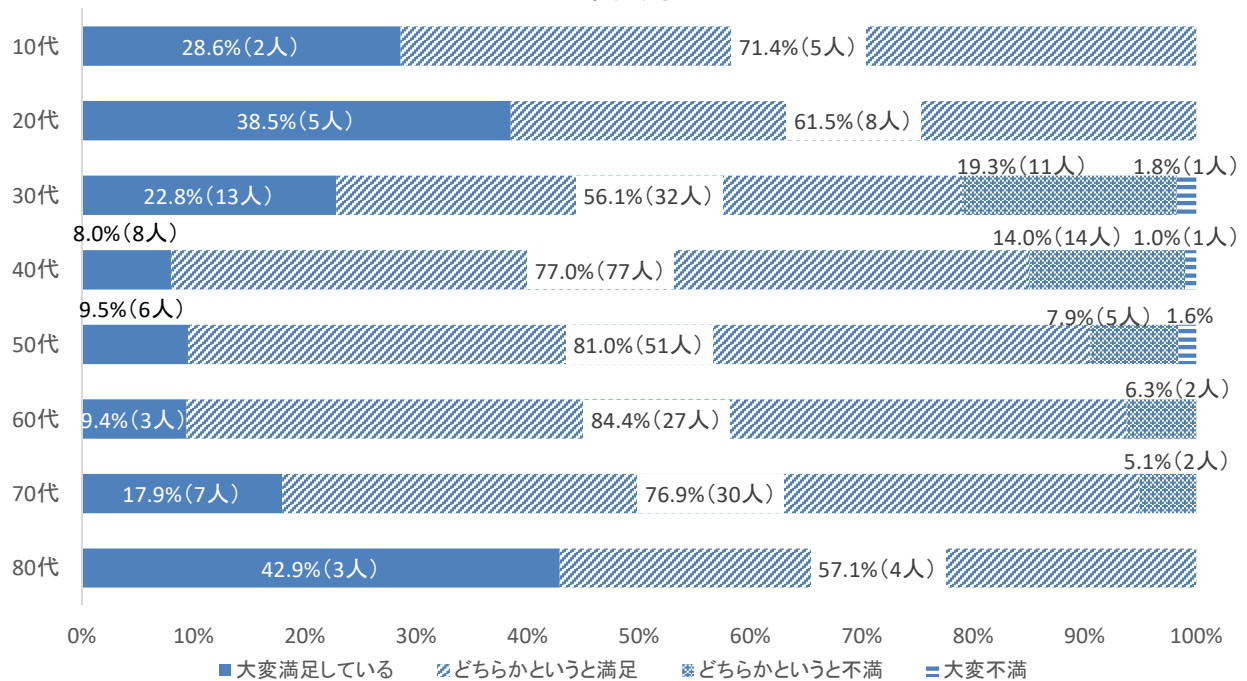


24.8%が「郡山市公式facebook」と回答。次に「アプリ:ココナビこおりやま」12.2%、「郡山市公式LINE」8.1%、「郡山市シティープロモーションInstagram」6.6%、「防災Twitter」5.3%、「がくとくんTwitter」5.0%、「アプリ:ワーニング」4.7%、「アプリ:ニコサポアプリ」4.0%、「アプリ:mydays」3.1%、「アプリ:カタログポケット」1.5%の回答であった。

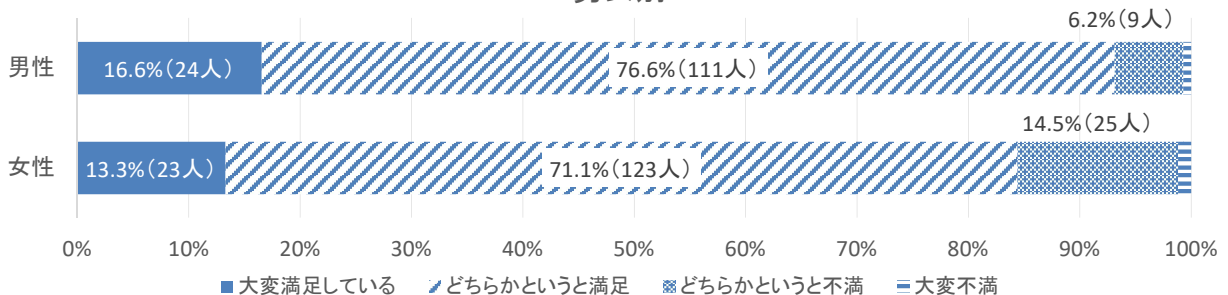
問2 1 広報こおりやまについてどのような感想か教えてください。(1つ選択)
(回答者: 318人)



年代別



男女別



「大変満足している」が14.8%、「どちらかという満足」が72.7%、「どちらかという不満」10.6%、「大変不満」が0.9%の回答。
 世代別では、「大変満足」「どちらかという満足」がどの世代も80%を答えており、10代・20代・80代では100%であった。
 男女別では、「大変満足」「どちらかという満足」と答えたのが男性の93.2%、女性の84.4%であった。

問22 その他、主な意見

(回答者：133人)

リニューアル後のウェブサイトの操作性について

<見やすさ・情報量>

- ・広報こおりやま、郡山市ウェブサイトは文字、デザインも良く、多くの世代に見やすい（50代・女性）
- ・情報量が多い中よく整理されていると思います。（70代・男性）
- ・情報発信が活発で、デザインもよくなった。使いやすく、見て分かりやすいものを更に作って下さい（50代・女性）
- ・こんなに色々な情報を発信していると思いませんでした。（60代・女性）
- ・ウェブサイトが更新されて大変わかりやすくなったと思います。（30代・男性）
- ・情報が多いので混乱を引き起こすことがある。選択して必要な情報を見つきたい。（70代・男性）

<情報手段の種類について>

- ・市の情報をソーシャルメディアを利用していないが、興味を持つことが出来た。今後利用したい。（70代・男性）
- ・郡山市の情報をいろいろな手段でこれからもどんどん発信してほしい。（40代・男性）
- ・掲載情報やこんなことも検索できますなどのお知らせがあれば、更に利用しやすくなると思う（40代・女性）

<情報分類>

- ・他サイトと比べ、情報が分散されすぎている。似ている項目もあり、必要な情報が検索しにくい（30代・女性）
- ・素敵さも良いですが、使いやすさ重視でも良いのでは？目的は情報発信してそれを見た側が情報を得ることですから。すぐに情報にたどり着きたいです！（50代・女性）

<デザイン>

- ・webは嗜好性が強くなると見づらくなる、検索と情報を分けて、ループしないようにしてほしい（60代・男性）
- ・以前はシンプルだったので、見づらくなった。一つの画面で必要項目が選べるほうが助かる。（50代・女性）

ウェブサイトへの情報への感想や要望について

- ・広報やウェブサイトは、明るいイメージで良いと思う。ただ、情報が古い時もあるので対策が必要（30代・女性）
- ・イベント報告ばかりで開催予告が少なく感じます。「行きたかった」が多い。（20代・女性）
- ・ネットワークを使用して記入漏れがないか不安なので、チェック機能もあると使用してみたい（50代・女性）
- ・電子化やインターネットを活用するなら、もう少し申請や相談も出来るようにしてほしい。（30代・女性）
- ・申請書ダウンロードでPDFなど統一したファイルも取り入れてほしい。（60代・男性）
- ・市民に対する情報は、早めに、正確に、詳しく市ウェブサイトに掲載してほしい。（60代・男性）
- ・災害時にすぐにわかる、検索しやすい防災サイトを作ってほしい。（50代・女性）
- ・リアルタイムに正確な情報を発信できるシステム構築が必要。情報毎にサイトが別々だったり階層が深いと、欲しい情報までたどり着くために時間と労力がかかる。シンプルで分かりやすいサイト運営にしてほしい。（30代・男性）
- ・ニコサポアプリの機能そのものは魅力的なので、すぐ使えるようになるとありがたい。（30代・女性）

広報こおりやまについて

- ・広報こおりやまは字も少し大きくなって見やすくなりました。(60代・女性)
 - ・広報で支援センターでのイベント情報も掲載されるようになり、子供とのお出掛けに役立つ(30代・女性)
 - ・広報こおりやまは、とても見やすい。また、他の自治体と比べてもデザイン性に優れていると思う。(20代・男性)
 - ・小さい子向けの情報が多い気がする。働き盛りの人が利用できる、休みにホッと出来る情報も欲しい。(40代・女性)
 - ・広報こおりやま大好き人間です。ネットやスマホもよく使いますが、やはり紙面が大好き人間なので並行してして満足のいく紙面づくりをお願いします(60代・女性)
 - ・広報こおりやまの表紙の写真が以前よりもとても良く、広報を見てみたいという気持ちがより増えた。(40代・女性)
 - ・紙面構成は、都会的で見やすいと思います。市政の方向性、行事等が、偏りなく記載されていて充実しています。(40代・男性)
- 最終ページで各層の活躍している方々を紹介することは市民の励みになると思います。今後も紙面とインターネット活用のそれぞれの長所を生かして郡山市の利便性向上につながると良いですね。(40代・男性)
- ・スポーツ施設の紹介、スポーツ活躍紹介等郡山市としてもっと強力で推進すべき。他市に比べ施設も少なく中途半端な施設が多い。スポーツで人を呼び込むことも市の活性化につながると思う。(70代・男性)

2019年度まちづくりネットモニター第12回調査結果
テーマ「成人年齢引き下げに伴う「成人のつどい」のあり方について」

郡山市では、民法改正に伴い2022年4月から成人年齢が現在の20歳から18歳へ引き下げとなることを受け、今後の「成人のつどい」のあり方について、市民の皆様の意見をお伺いし検討を進めるため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせいたします。

(生涯学習課)

調査概要

- 調査期間 令和2年1月8日(水)～1月17日(金)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性159名 女性201名)
- 回答者数 318名 (男性146名 女性172名)
- 回答率 88.3%

【結果概要】

《回答者内訳(人)》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	5	4	14	31	28	20	37	7	146
女性	3	8	41	69	35	14	2	0	172
合計	8	12	55	100	63	34	39	7	318

《成人年齢の引き下げについて》

- ・約7割が知っているとは回答している。

《成人年齢引き下げ後の「成人のつどい」について》

○対象年齢について

- ・約7割が「現行どおり20歳がよい」と回答している。
- ・「20歳」を選択した主な理由は、複数回答で「18歳では受験・就職活動時期と重なるため」が約7割と最も高く、次いで「18歳では進学・就職等により金銭的負担が多い時期のため」が約6割となっている。

○開催時期について

- ・「現行どおり1月」との回答が約7割、「夏の時期」が約2割となっている。
- ・その他として、「5月の連休」や「天候が穏やかな秋」などの意見があった。

○開催方法等について

- ・「一堂に会して」との回答が約6割、「各地域で主体的に」が約4割となっている。

○内容について

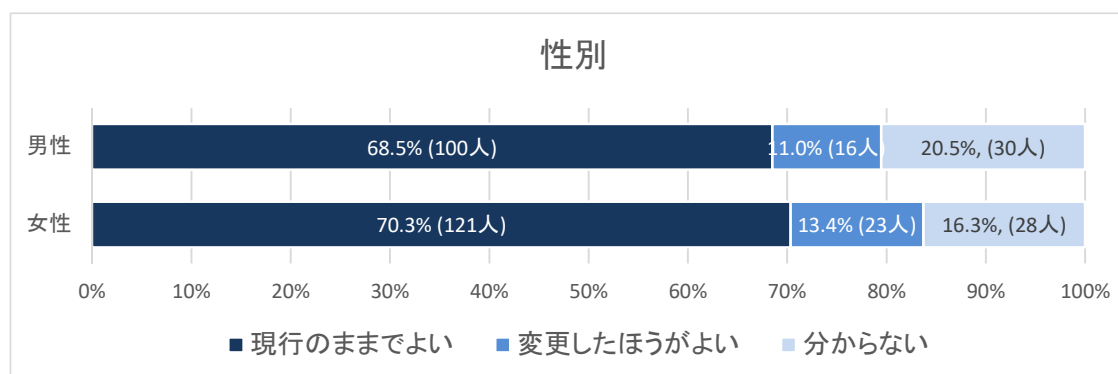
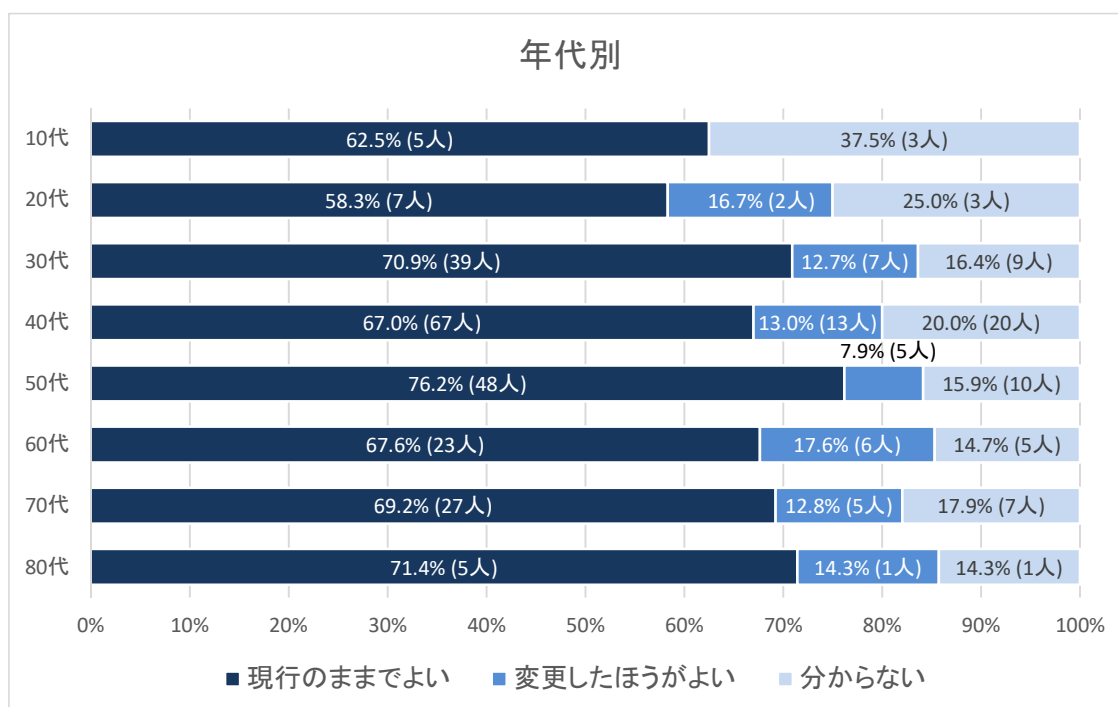
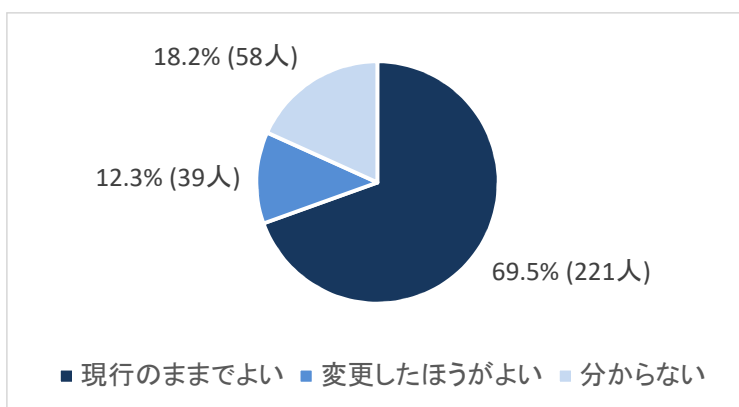
- ・「式典及びアトラクション」との回答が約5割、「式典のみ」が約4割となっている。
- ・その他として、「記念講話」や「若手著名人の講演・交流(意見交換)」などの意見があった。

【考察】

- ・成人年齢の引き下げについて、約7割の方が「知っている」と回答しており、年代別では10代・20代においてもその割合が高く、関心の高さが伺える。
- ・成人年齢引き下げ後の成人のつどいについては、受験や就職時期を考慮し「対象年齢は20歳」、「開催時期は1月」との回答が約7割を占め、開催方法等についても「一堂に会して」、「式典及びアトラクション」との回答が半数以上を占めており、現行どおりのあり方が望ましいとの意見が多かった。今後も幅広く意見を伺いながら、成人のつどいのあり方について検討を行っていく。

問1 現在の成人のつどいについてどう思いますか？（1つ選択）

（回答者数：318人）



○現在の成人のつどいについて「現行のままでよい」との回答が約7割を占めている。
 ○年代別では、どの年代も「現行のままでよい」との回答が半数以上を占めているが、10代、20代ではその割合が他の年代と比較して低くなっている。
 ○性別では男女とも約7割が「現行のままでよい」と回答している。

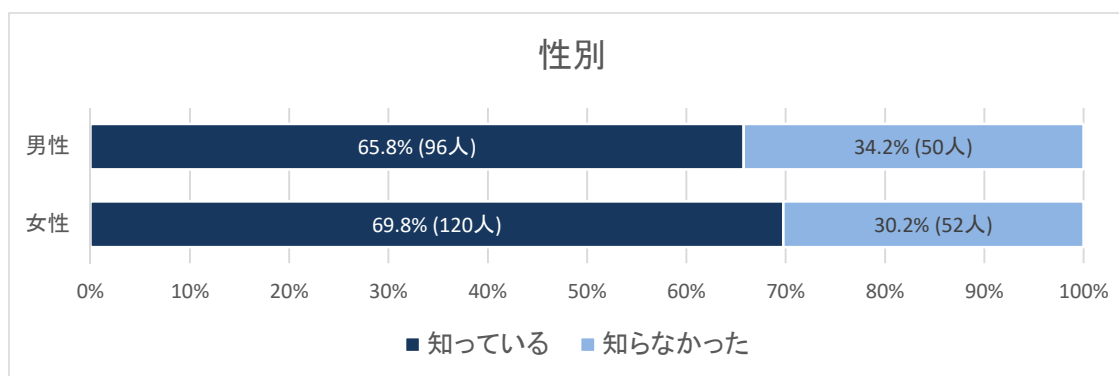
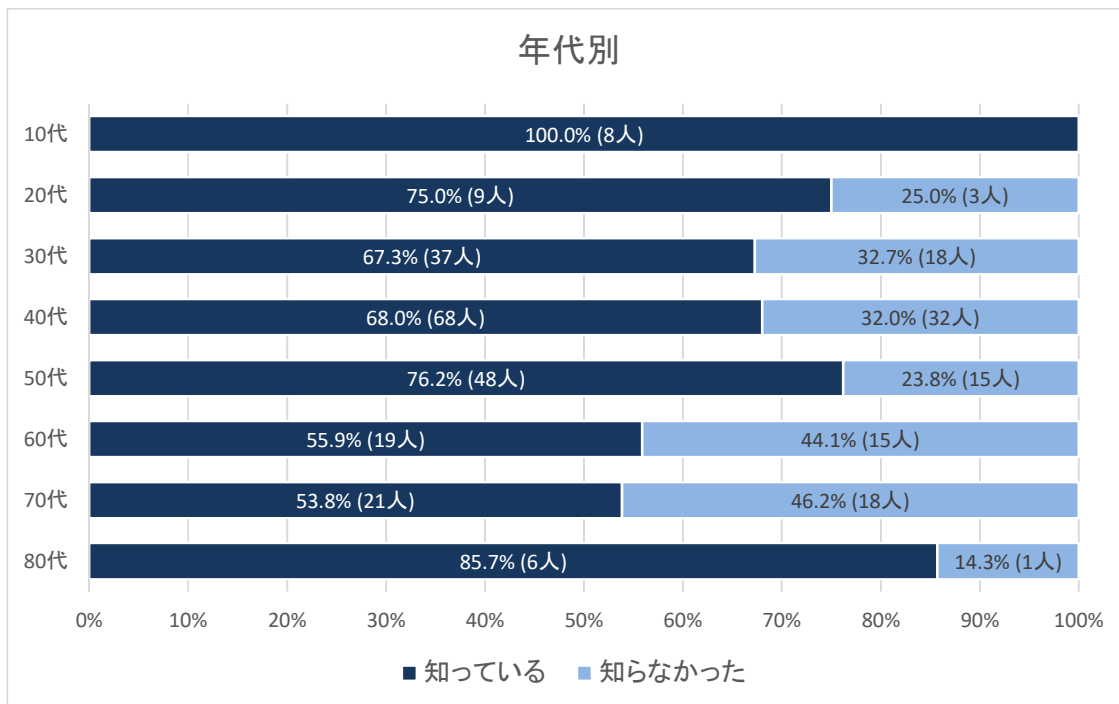
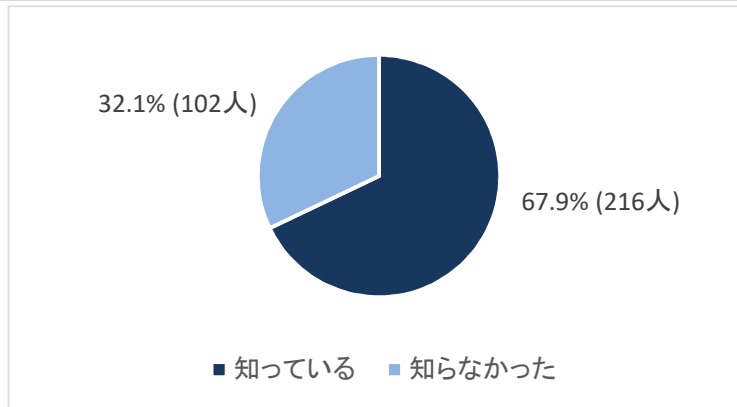
問2 問1で「変更したほうがよい」を選択した方にお伺いします。
その理由はなんですか。

(回答者数：39人)

- 日程的に大学などで郡山を離れている人はお正月と成人式の二回帰ることになり大変だから。
- 開催不要。
- 成人年齢が18才ならば、20才で行う意義があるのか疑問となる。
- 成人になった時でもない時期にやるのでは単なる同窓会になってしまいそうです。
- 民法が改正されたから。
- 大人数すぎてごちゃごちゃしている。

問3 2022年4月から成人年齢が現在の20歳から18歳へ引き下げとなることをご存じでしたか？
(1つ選択)

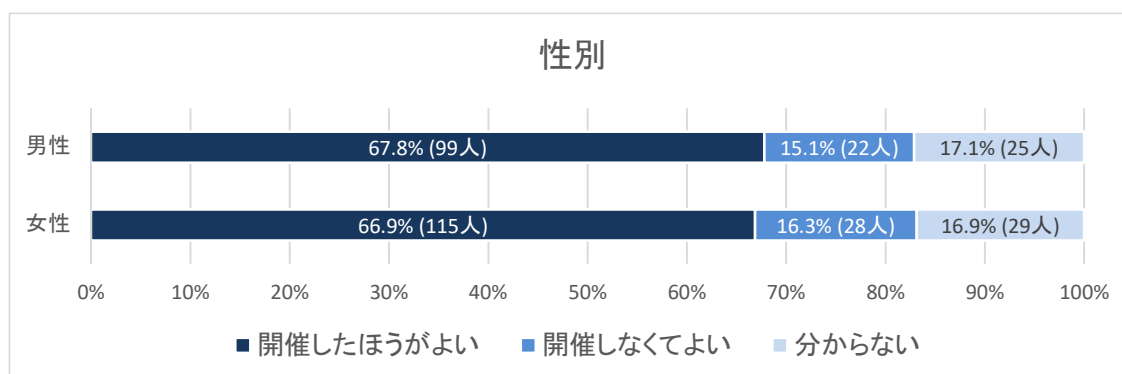
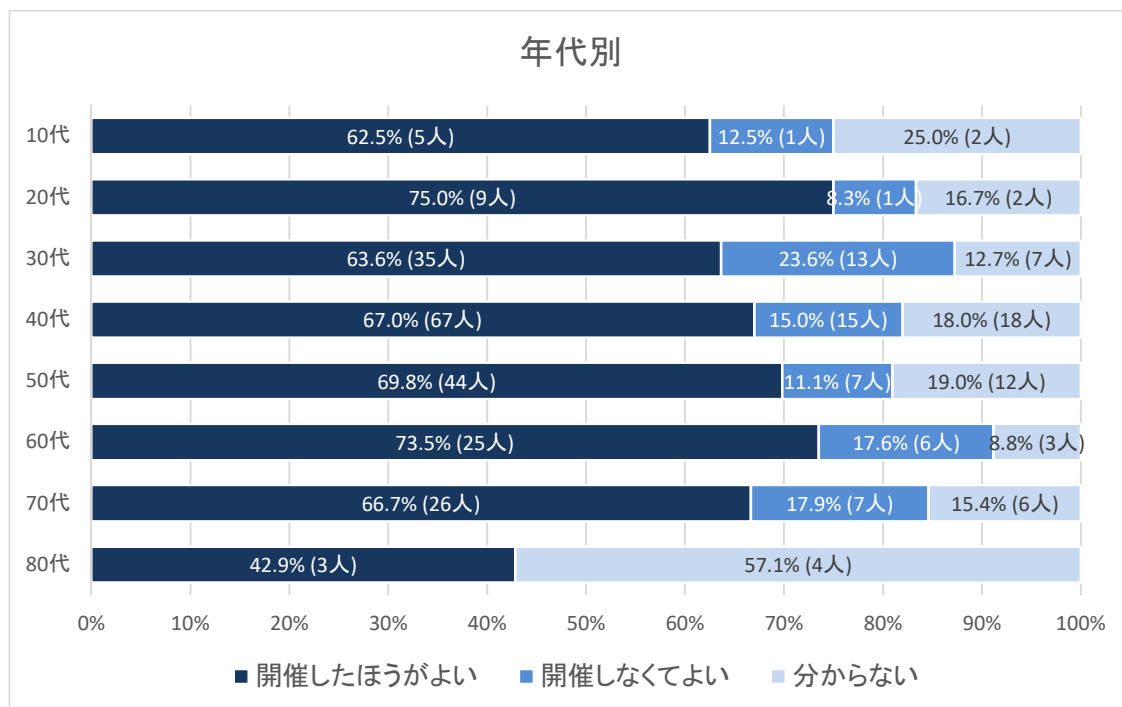
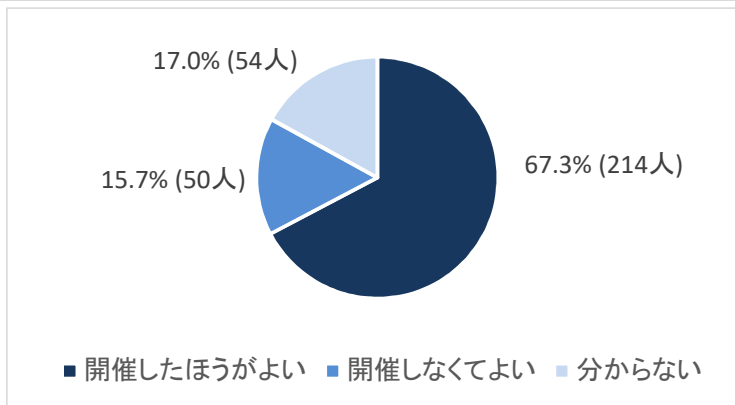
(回答者数：318人)



○成人年齢引き下げについて「知っている」との回答が約7割を占めている。
 ○年代別では、「知っている」との回答が10代では全員、次いで80代で約9割、50代・20代では約8割、その他の年代においても半数以上を占め、関心の高さが伺える。
 ○性別では、男女とも約7割が「知っている」と回答している。

問4 成人年齢引き下げ後の「成人のつどい」についてどのように考えますか？（1つ選択）

（回答者数：318人）



○成人年齢引き下げ後も「開催したほうがよい」との回答が約7割を占めている。
 ○年代別では、80代以外で「開催したほうがよい」との回答が6割を超えており、20代が最も高く、「開催しなくてよい」との回答については30代で最も高くなっている。
 ○性別では男女ともに約7割が「開催したほうがよい」と回答している。

問5 問4の回答を選択した理由は何ですか？（任意記述）

（回答者数：318人）

○開催したほうがよいと回答した方の主な理由

- ・懐かしい同級生との思い出、将来の夢など語り合っ絆を保ってほしいから。
- ・成人になる日として一つの区切りとして必要。
- ・式典に参加することによって成人になったんだという自覚が芽生えると思うから。
- ・年齢が変更になるが成人は成人で変わらないから。
- ・やめる理由がない。
- ・振り袖を着るのを楽しみにしているし、二十歳のお祝いをするのを楽しみにしている親の気持ちもある。
- ・年齢が下がったとしても一つの節目として開催すべき。

○開催しなくてよいと回答した方の主な理由

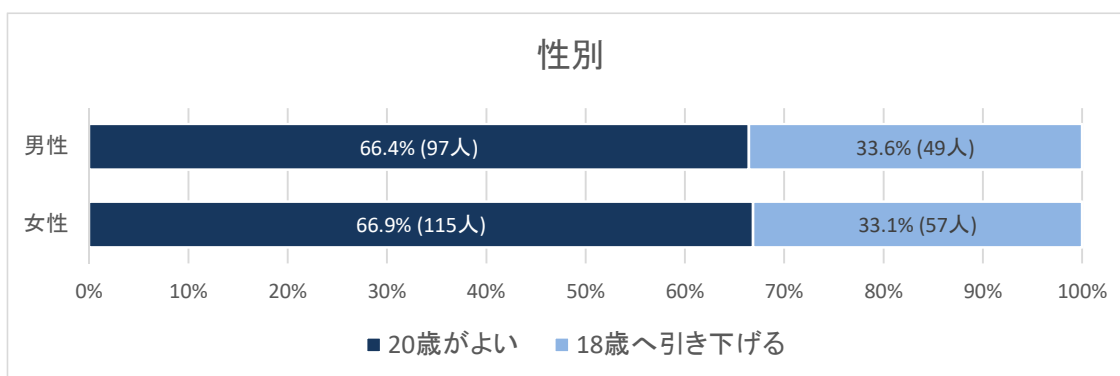
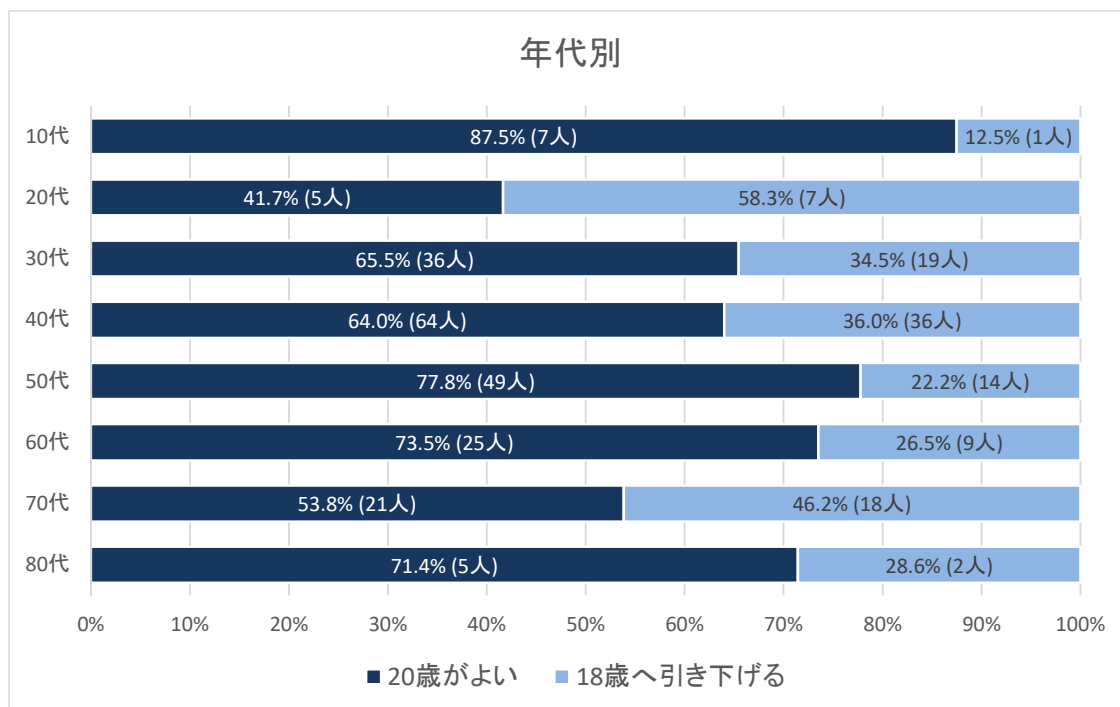
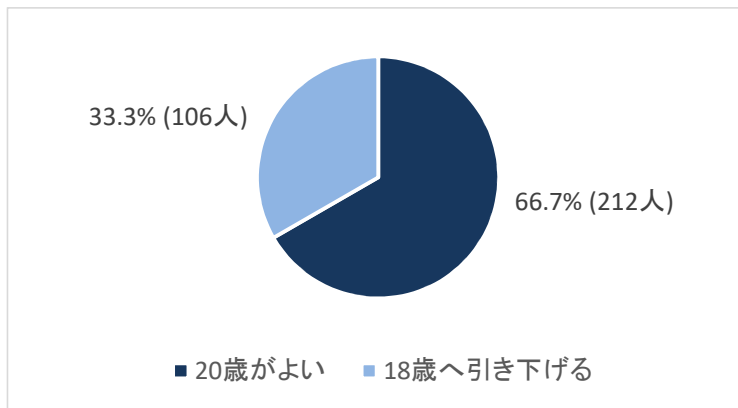
- ・受験や就職などで多忙な中する必要はないと思う。
- ・自治体主催の成人のつどいはなくてもよいと思ったから。
- ・ただただ人混みで、その日一度に集まらなければならない意味が不明確。
- ・高校生がほとんどであれば、受験も控えているだろうし、集まる必要性もあるのか疑問である。
- ・自分自身、不参加で、意味があるように思えないので。

○分からないと回答した方の主な理由

- ・成人という区切りをどう若者に自覚させたらいいのか分からない。
- ・成人年齢が変わった時、19歳や20歳の人たちはどうなのかな…と思うので。
- ・成人のつどい自体が必要かどうか、分からないので。
- ・自分自身が参加したことがないので。
- ・高校生のうちならやる必要ない気がするが。
- ・昨今の状況を見ていると、その意義が薄らいでいるのではないか。

問6 成人年齢引き下げ後の「成人のつどい」の対象年齢についてどのように考えますか？
(1つ選択)

(回答者数 : 318人)

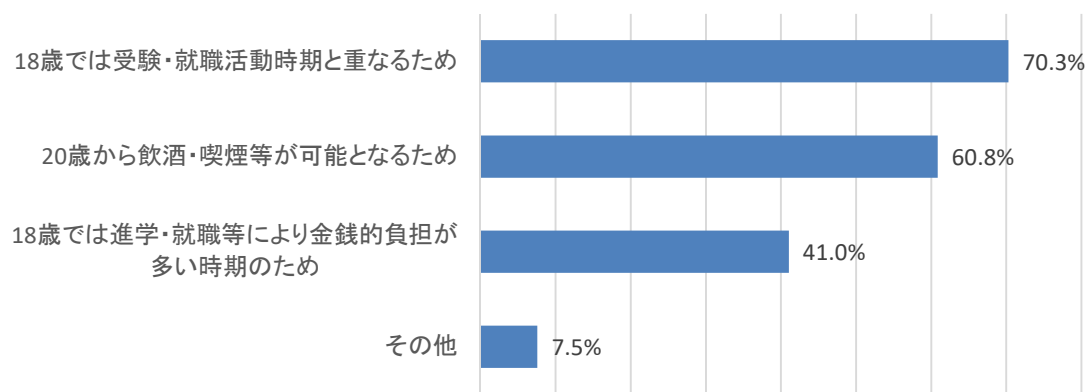


- 成人年齢引き下げ後の対象年齢は「20歳がよい」との回答が約7割を占めている。
- 年代別では「20歳」と回答した割合は10代が約9割と最も高く、次いで50代・60代となっている。「18歳」の割合は20代の約6割が最も高くなっている。
- 性別では男女ともに「20歳」が約7割、「18歳」が約3割となっている。

問7 問6で「現行どおり20歳がよい」を選択した方にお伺いします。

その理由は何ですか？（複数選択可）

（回答者数：212人）



※その他を選択した方の主な理由

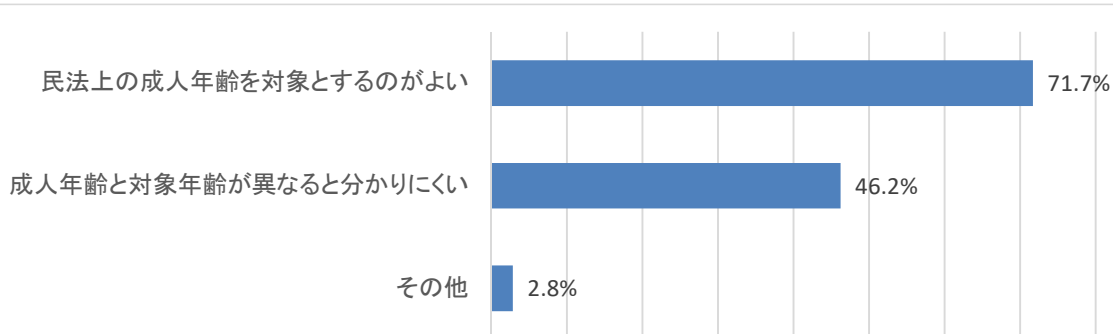
- ・二分の一成人式というの開催しているし区切りの良い数字のままで良いと思ったから。
- ・18歳はまだ子どもに感じるから。
- ・就職や進学で離れた時期があって再会するほうが良い。
- ・成人=20歳が根強い。呼び方を変えるべきだ。

○「20歳がよい」を選択した理由としては、「受験・就職活動時期と重なるため」が最も多かった。

問8 問6で「18歳へ引き下げる」を選択した方にお伺いします。

その理由は何ですか？（複数選択可）

（回答者数：106人）



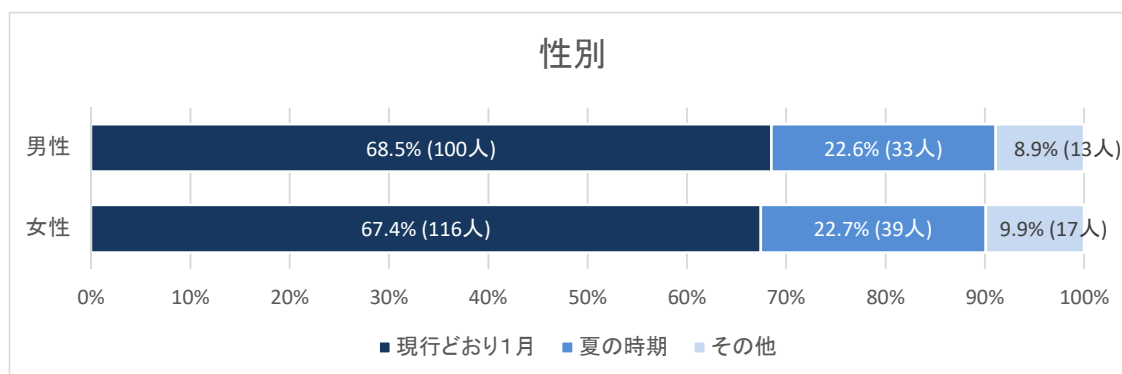
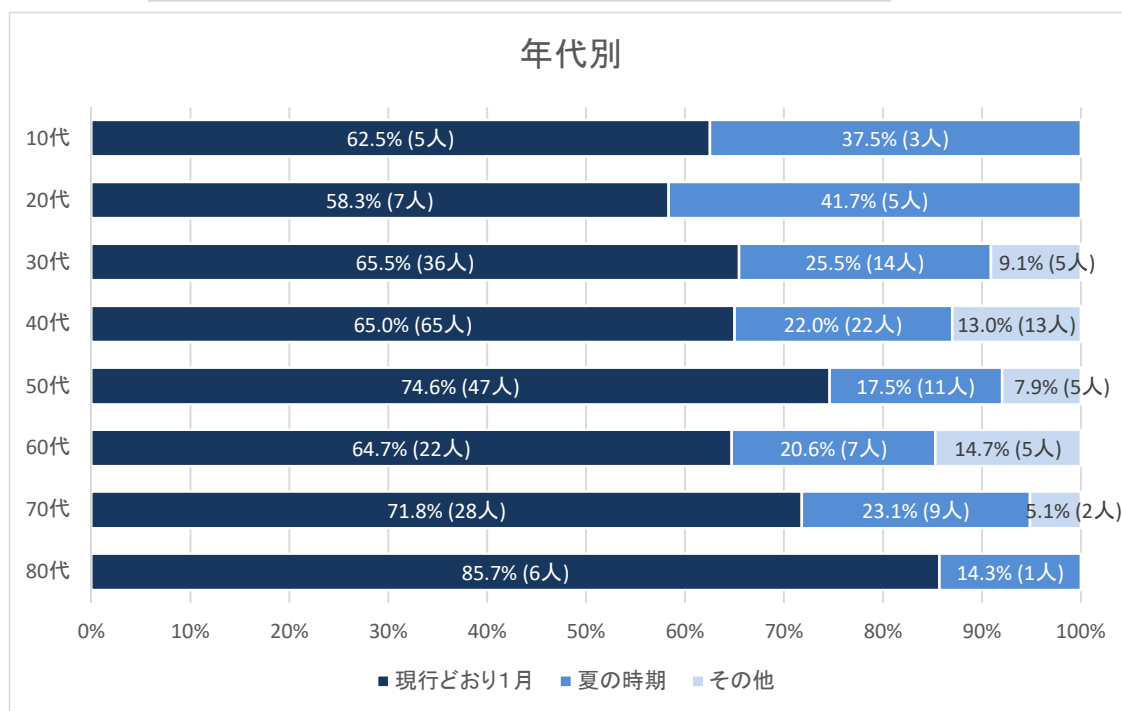
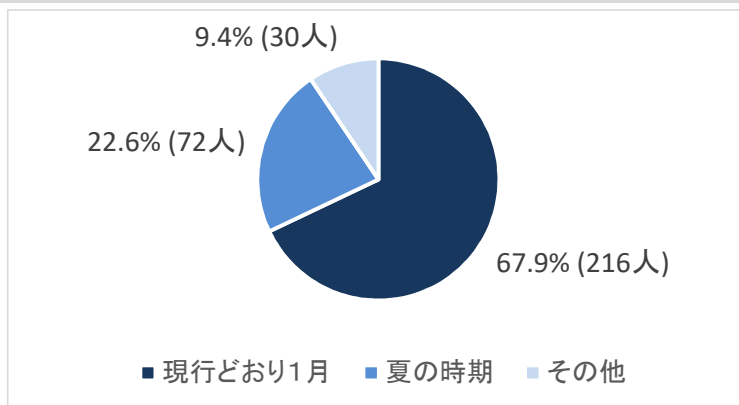
※その他を選択した方の主な理由

- ・成人としての自覚を高めるため

○「18歳へ引き下げる」を選択した理由としては、「民法上の成人年齢を対象とする」が最も多かった。

問9 開催時期はいつが望ましいと考えますか？（1つ選択）

（回答者数：318人）



○開催時期については「現行どおり1月」との回答が約7割、「夏の時期」が約2割を占めている。

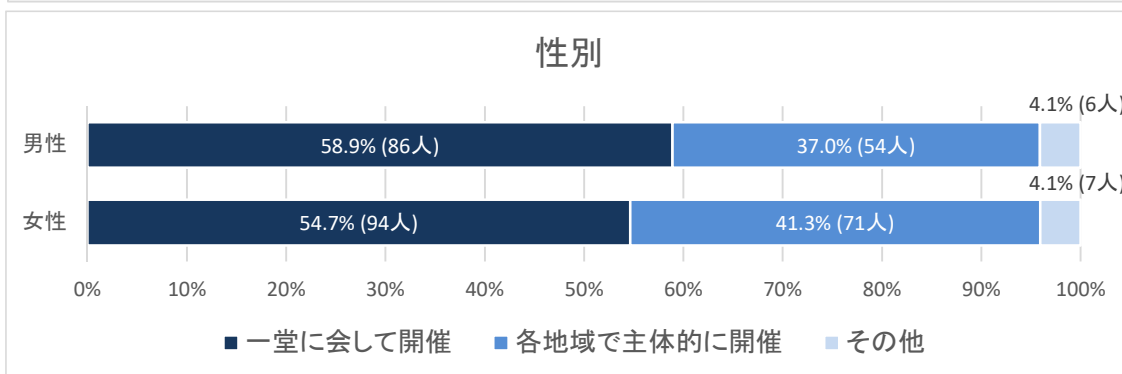
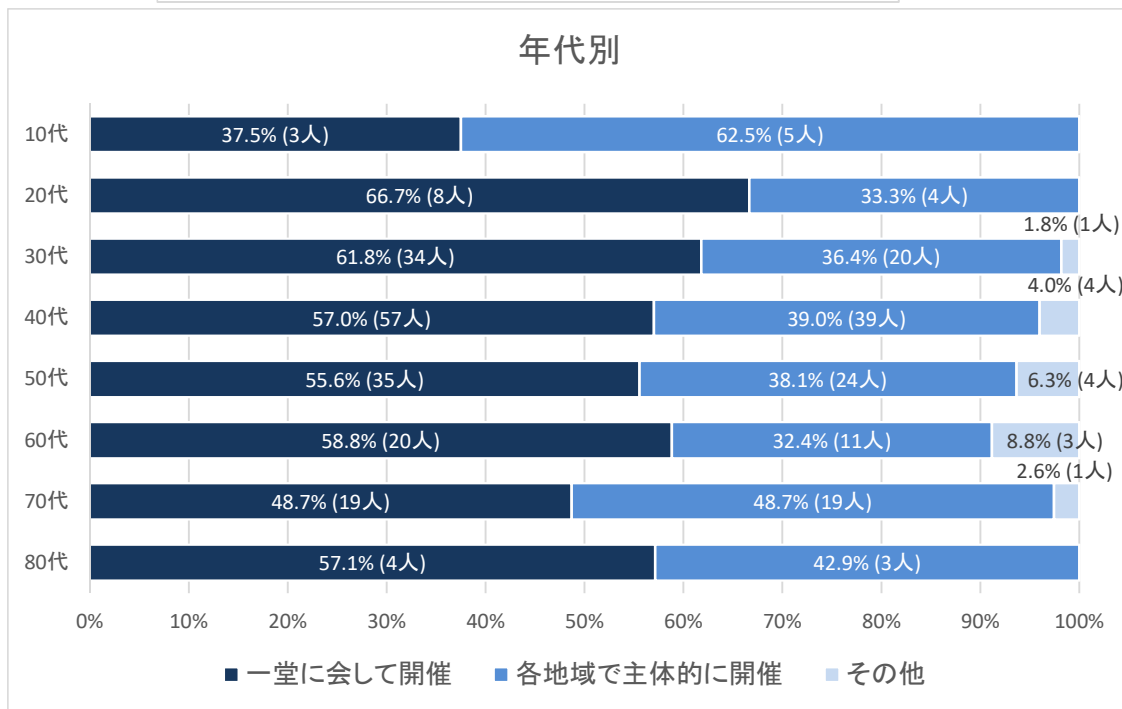
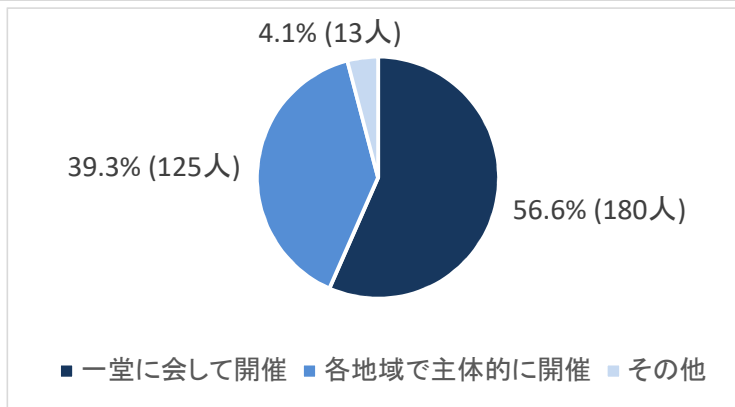
○年代別では、「1月」と回答した割合が80代で最も高く約9割を占めており、その他の年代では約6～7割程度となっている。「夏の時期」については20代の約4割が最も高く、次いで10代・30代の順となっている。

○性別では、男女ともに「1月」が約7割、「夏の時期」が約2割となっている。

○その他として、「5月の連休」や「天候が穏やかな秋」などの意見があった。

問10 開催方法等についてどのように考えますか？（1つ選択）

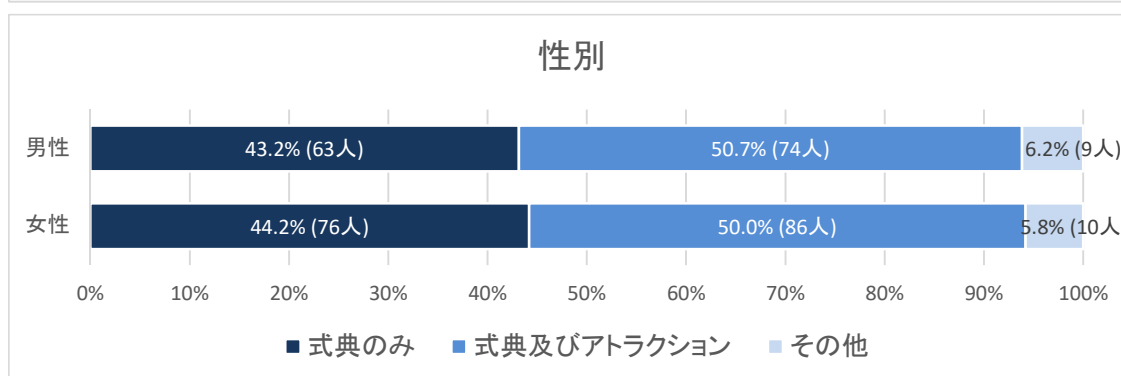
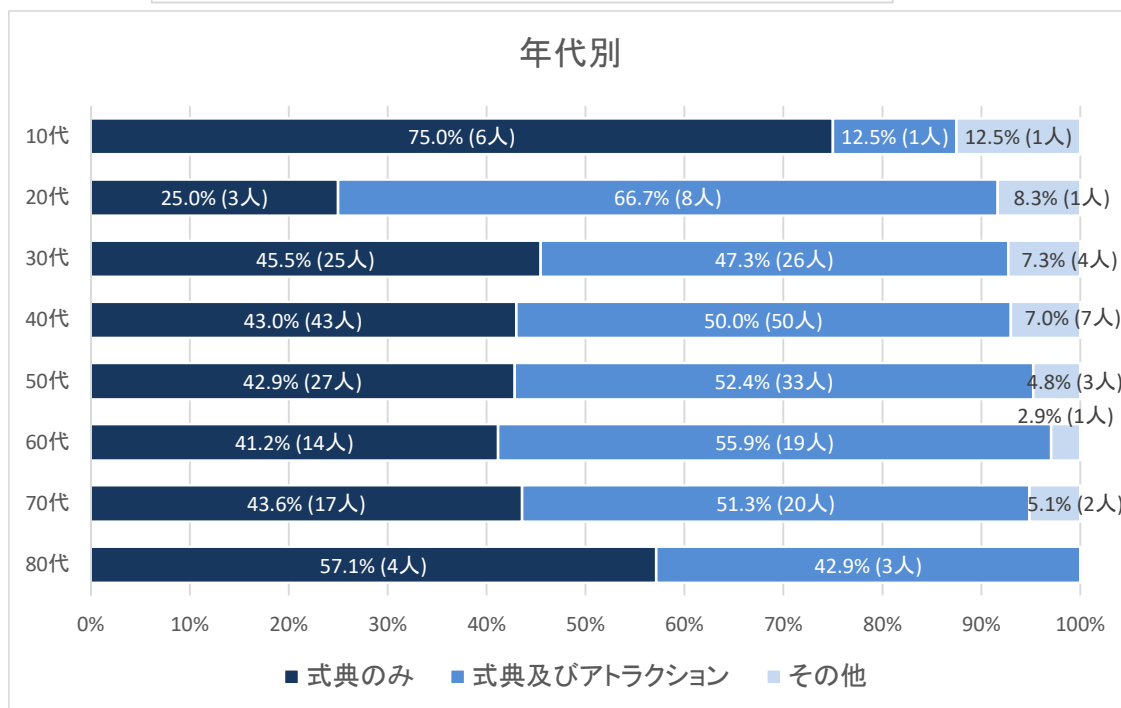
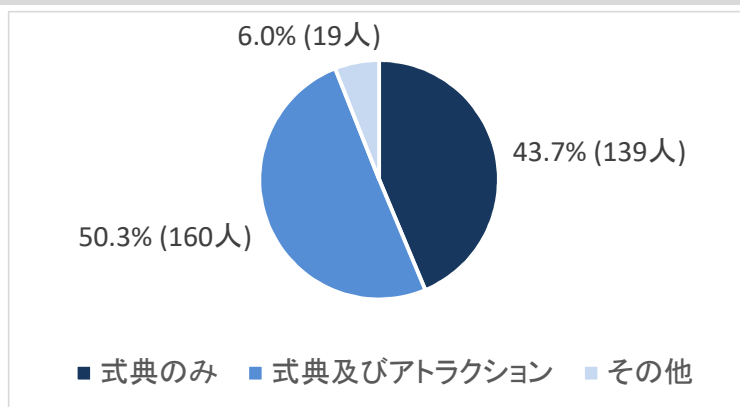
（回答者数：318人）



○開催方法については、約6割が「一堂に会して開催」、約4割が「各地域で」と回答している。
 ○年代別では、10代で約6割が「各地域で」と回答、70代では「一堂に会して」・「各地域で」の割合が同等、その他の年代では「一堂に会して」が約6割を占めている。
 ○性別では、男女ともに半数以上が「一堂に会して」と回答している。
 ○その他として、「学校単位」などの意見があった。

問11 どのような内容が望ましいと考えますか？（1つ選択）

（回答者数：318人）



○内容については、約4割が「式典のみ」、約5割が「式典及びアトラクション」と回答している。
 ○年代別では、「式典のみ」の割合は10代で最も高く、「式典及びアトラクション」は20代で最も高くなっている。その他の年代では80代を除き「式典及びアトラクション」の割合が「式典のみ」と比較し若干高くなっている。
 ○性別では男女ともに「式典のみ」が約4割、「式典及びアトラクション」が約5割を占めている。
 ○その他として「式典と記念講話」「若手著名人の講演と交流」「記憶に残る講演」等の意見があった。

問12 その他、意見がございましたら、ご自由にお書きください。

(回答者数 : 90人)

- ・成人式の名称でなく「20歳の集い」のような名称にして、なるべく簡素に実施したらよいのでは。(10代・女性)
- ・18歳で大人と思っている人は少ないと思う。多額の費用をかけて立派な式典を実施しても当人たちは同級会程度の感覚でしかない。夏に実施は華美な服装にお金がかからないため。(10代・男性)
- ・成人式は日本の文化。若者に今よりもっと社会参加意識を持たせる形を考えるべき。(20代・女性)
- ・文化センターなど使い、着席式にして欲しいです。静粛な式と、アトラクションで楽しむ要素を分けて行ってほしい。私の時は立っていたせいもあり、各自話して盛り上がり、式典の内容もまったく聞こえず意味がなかったの。(30代・女性)
- ・地域の人口減少を考えた場合、新成人の地元への愛着を喚起するためにも、各地域ごとの「顔の見える」開催方式が望ましいものと思います。(30代・女性)
- ・以前は賑やかなお祭りのようなセレモニーも良いと思っていましたが、本来の意味でお祝いである式典のみで良いと思います。久しぶりに再会する友人と話したり、アーティストやお笑いの方をゲストに呼ぶ事も良いかと思えます。みんなで何か1つのものを作るのも思い出に残るのではないのでしょうか。(30代・男性)
- ・式典は節目として必要だと思います。思い出になりますし。法では18才で成人でも、式は20才で行ったほうがより意味深いものとなるのではないのでしょうか。二十歳の会として。(40代・男性)
- ・まず成人式を何のために行うかを、もう一度考える必要があると思います。当時成人式を行って頂いた身としては、式に参加した事で成人としての自覚を再度考えることができたが、式が魅力的なものではなかったの、最初だけ参加して途中から外に出ていた記憶があります。友人達との再会が楽しみだったので。特に今は人付き合い自体が希薄になっているし、世間の風潮がやってもらって当たり前になっている。一部の人はやっているが自分は関係ないと言うそんな風潮を、自分達のだからこそやってみたいと意識して参加できる魅力的な成人式に変えることができれば、もっと式としての在り方(他のことも含めて)も変わってくるのではないのでしょうか。一番はその子達がどう思っているかでしょうが。成人年齢の引き下げにおいて、成人式が受験シーズンと重なる事や、経済的負担を考えると、現行のままが良いと思うし、元々飲酒や喫煙が20歳のままであるので、成人式自体は変わらずで良いと思う。(40代・女性)
- ・郡山の成人式はありきたりな感じ。もっと自覚を持たせるような式典にすべき。(50代・女性)
- ・確かに民法上では18歳から成人だけれども、殆どの対象者が高校や専門学校等に在籍している状況で式典を開催するのは無意味だと思います。18歳としての式典は各学校に於いて大人としての自覚を認識させる行事として行えば良いと思います。その上で従来通り20歳の節目として地域を巣立った人、地域に残った人が一堂に会して地元を懐かしく思ったり、旧交を暖めたりという形が望ましいです。(50代・男性)
- ・伝統をなくすことは簡単だが、何でもかんでも簡略化してしまうのは味気ない寂しい。是非、成人式は現行のまま続けて行ってほしい。千葉県はディズニーランドで式を行っているの、郡山市も式だけではなく、イベントなどプラスされると楽しく参加出来るのではないかなと思う。(60代・女性)
- ・成人を祝うというよりも、地元の友人と再会する機会という位置付けだけのように感じてしまう。それならば、税金を費やして行うものでもないように感じる。(60代・男性)
- ・行きたくなくなるような、思い出に残る式典にして上げたいと思いますが、全体でやるのはかなりの大掛かりになるので、各地域で工夫して実施する方向がいいのかなと思います。(70代・男性)
- ・若者の意識の問題であり、式だけであとは自分たち仲間で盛り上げたらいいとは思う。(70代・男性)